

北海道立埋蔵文化財センター

北海道立埋蔵文化財センター

# 年報25

年報  
25

令和5(2023)年度

令和5(2023)年度

北海道立埋蔵文化財センター

# 年報25

令和5(2023)年度





興部町興部豊野竪穴群 (B) 遺跡遠景 (東から)

写真提供：(株) シン技術コンサル



竪穴4 調査状況



# 目 次

I	施設の概要	
1	設置の目的	1
2	沿革	1
3	施設の概要	1
	(1) 工期	
	(2) 面積	
	(3) 組織図	
	(4) 職員名簿	
II	調査研究事業	
1	重要遺跡確認調査	2
	興部町興部豊野竪穴群（B）の調査	
	(1) 発掘調査	
	(2) 調査結果	
2	埋蔵文化財に関する調査研究	3
	(1) 保管出土品を活用した研究	
	(2) 研修・情報収集	
	ア、令和5年度全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会総会	
	イ、令和5年度全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会北海道・東北ブロック会議	
	ウ、令和5年度全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会第35回研修会	
	エ、令和5年度全国公立埋蔵文化財センター第2回役員会	
	オ、北海道東部の竪穴住居跡群調査懇談会	
	カ、第13回文化財写真技術研究会	
3	分析・鑑定・保存処理等	14
	(1) 分析・鑑定	
	(2) 保存処理	
	(3) 施設保管環境	
4	市町村教育委員会支援	14
	(1) 指導・協力等	
	(2) 令和5年度埋蔵文化財担当職員出前研修会	
	(3) 令和5年度埋蔵文化財担当職員研修会	
III	収蔵・保管事業	
1	収蔵資料	18
2	図書資料	20
	(1) 購入図書一覧	
	(2) 受領刊行物一覧	
IV	普及・啓発事業	
1	展示公開	25
	(1) 常設展示「掘り出された北の歴史」	
	(2) 企画展示	
	ア、北海道・北東北の縄文遺跡群2ーすすめ！ 縄文ワールドー	
	イ、北海道遺跡百選16ー「美々4式」を再考する 縄文時代晩期初頭の土器群ー	

ウ、公益財団法人北海道埋蔵文化財センター令和4年度調査成果展  
エ、北の縄文 世界遺産 北海道・北東北の縄文遺跡群展

2	資料の特別利用等	30
(1)	特別利用	
(2)	模写品等の刊行等の承認	
(3)	資料の貸出	
3	講座等の開催	39
(1)	一般道民対象の講座	
ア	縄文から弥生・続縄文へ 1 中央高地の縄文文化から弥生文化	
イ	キーワードで読み解く北海道・北東北の縄文遺跡群 2 北海道・北東北の貝塚	
ウ	縄文人に挑戦	
エ	縄文から弥生・続縄文へ 3 道央部の遺跡からみる縄文時代晩期から続縄文時代前半期	
オ	比べてわかる道内の竪穴群 2 北東アジアの集落遺跡と北海道東部の竪穴住居跡群	
(2)	児童生徒学生対象の体験型講座	
ア	まいぶん遺跡探検隊 (第1次)	
イ	まいぶん遺跡探検隊 (第2次)	
ウ	親子ガラス玉づくり教室	
エ	まいぶん遺跡探検隊 (第3次)	
オ	まいぶん遺跡探検隊 (第4次)	
(3)	児童生徒対象の出前講座	
ア	事業目的	
イ	事業内容	
(4)	教育連携講座	
(5)	一般道民対象の講演会	
ア	秋季講演会 縄文から弥生・続縄文へ 2 東北地方における縄文文化から弥生文化 (斎野 裕彦 氏)	
イ	冬季講演会 縄文から弥生・続縄文へ 4 道東北の遺跡からみる縄文時代晩期から続縄文時代前半期 (熊木 俊朗 氏)	
(6)	公益財団法人北海道埋蔵文化財センター令和4年度調査報告会	
4	協力	44
(1)	職場体験	
(2)	博物館実習	
5	周辺施設・大学・諸機関との連携	44
(1)	文京台地区道立教育3施設連携	
(2)	かるちやるnet	
ア	施設紹介パネル展	
イ	施設紹介パネル展 inまいぶんセンター	
(3)	のっぽろ11ネット	
(4)	北海道生涯学習協会まなびの広場公益財団法人北海道埋蔵文化財センター令和4年度発掘調査成果展	

6	利用状況	46
	(1) 入館者数一覧	
	(2) 団体利用者対応	
7	講演会要旨	51
	(1) 秋季講演会 縄文から弥生・続縄文へ 2	
	東北地方における縄文文化から弥生文化	(斎野 裕彦 氏)
	(2) 冬季講演会 縄文から弥生・続縄文へ 4	
	道東北の遺跡からみる縄文時代晩期から続縄文時代前半期	(熊木 俊朗 氏)
8	企画展示要旨	82
	(1) 北海道・北東北の縄文遺跡群 2 – すすめ！ 縄文ワールド – 展	



# I 施設の概要

## 1 設置の目的

北海道には貴重な埋蔵文化財が数多く発見されており、これらの埋蔵文化財の保護、保存・活用を図るため、調査研究を行なうとともに、出土文化財等の収蔵保管、展示公開並びに文化財保護思想の普及啓発を図る総合的な機能を有する道立の埋蔵文化財センターを設置する。

## 2 沿革

平成7年

3月 北海道立埋蔵文化財センター（仮称）  
基本構想策定

平成8年

9月 本館基本設計完了

平成9年

3月 本館実施設計完了

10月 本館建設工事着手

12月 別館（整理作業所）基本設計完了

平成10年

3月 別館（整理作業所）実施設計完了

9月 別館（整理作業所）建設工事着工

平成11年

3月 本館建設工事竣工

4月 北海道立埋蔵文化財センター開設

8月 別館（整理作業所）建設工事竣工

11月 一般公開

## 3 施設の概要

### (1) 工期

[本館工事] 平成9年10月31日着工

平成11年3月18日竣工

[別館工事] 平成10年9月10日着工

平成11年8月18日竣工

[外構工事] 平成11年7月28日着工

平成11年12月10日竣工

### (2) 面積

[敷地面積] 18,599.50㎡

[延床面積]

本館：5,063.02㎡（鉄筋コンクリート造・2階建）

別館：2,081.80㎡（鉄筋造・3階建；整理作業所）（渡り廊下含む）

[部屋別面積]

本館1階

調査研究室（253㎡）

保存処理室（167㎡）

観測・計測室・修復室（47㎡）

金属製品処理室（31㎡）

分析室（48㎡）

実験室（53㎡）

撮影室・暗室（105㎡）

図書室（177㎡）

一般収蔵庫（399㎡）

展示収蔵庫（321㎡）

展示室（310㎡）

本館2階

所長室（47㎡）

事務室（241㎡）

特別収蔵庫（227㎡）

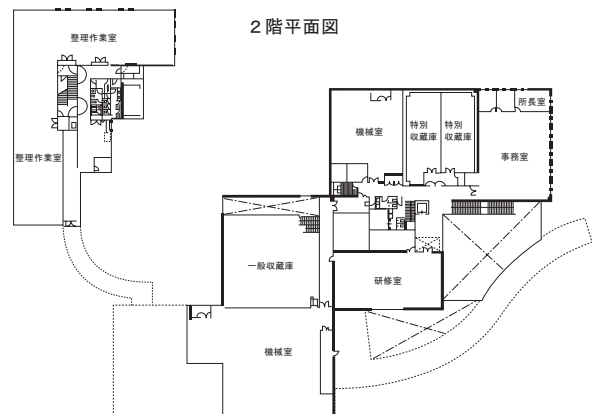
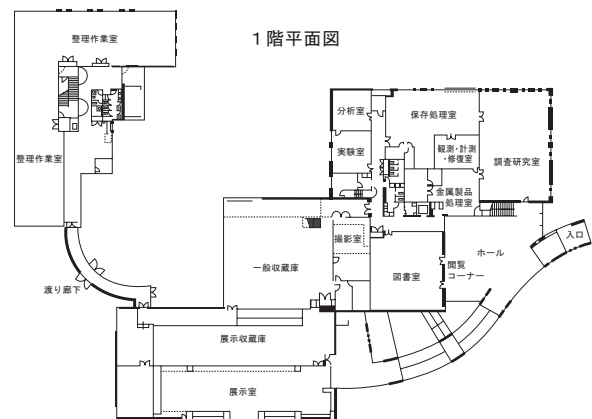
研修室（196㎡）

一般収蔵庫（319㎡）

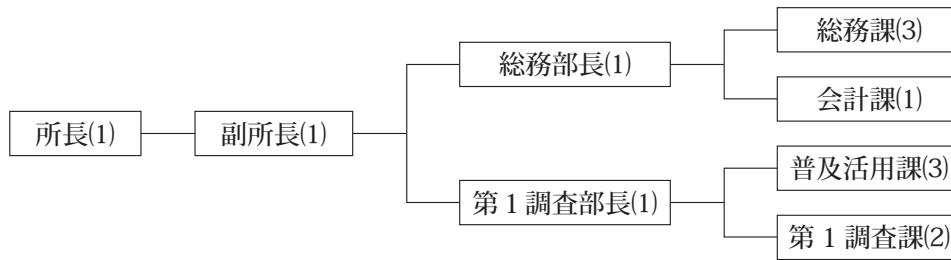
別館1階：整理作業室（520㎡）

別館2階：整理作業室（540㎡）

別館3階：整理作業室（220㎡）



### (3) 組織図



### (4) 職員名簿

職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名
所長	長沼 孝	総務部長	馬橋 功	第1調査部長	鈴木 信
副所長	馬橋 功	総務課長	小杉 充	普及活用課長	倉橋 直孝
		総務課主任	鎌田 望	普及活用課主査	芝田 直人
		総務課参与	葛西 宏昭	普及活用課主査	坂本 尚史
		会計課長	中村 貴志	第1調査課主査	立田 理
				第1調査課主任	菊池 慈人

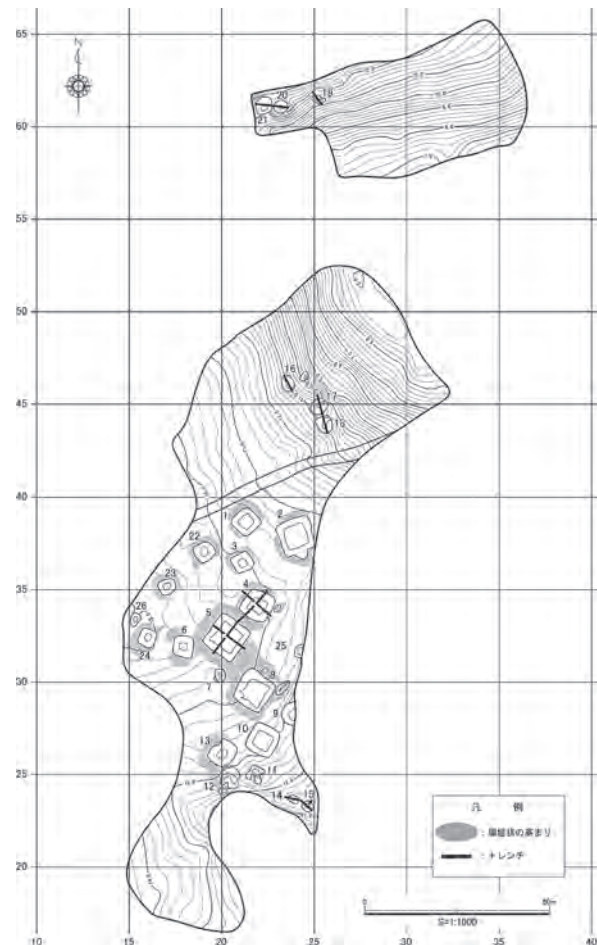
## II 調査研究事業

### 1 重要遺跡確認調査

令和4年8月19日、道教委文化財・博物館課長より、令和4～8年度の重要遺跡確認調査実施要領が示された。興部豊野竪穴群（B）については、範囲内容を把握し、図上の指定範囲との齟齬を解決することが目的であり、(a) 遺跡の分布範囲を地籍図へ位置づけ、国土座標値等を取得する、(b) 竪穴を詳細に測量し平面・断面形態と付属施設の有無等の属性データを記録する、(c) 必要に応じて発掘調査等を実施する、の3点が目標として指示された。令和4年度はこれに基づき、竪穴とその分布範囲の測量調査を行った。結果26か所の竪穴の分布範囲の確定とともに竪穴の座標値を得た。令和5年度はこれを踏まえ、発掘調査を行った。

#### (1) 発掘調査

令和4年度の測量調査により確認された26か所の竪穴は、形状から3種に区分した。擦文文化期の竪穴住居である可能性が高いA種（12か所）、その他の遺構の可能性のあるB種（4か所）、遺構である可能性が低いC種（10か所）である。これらは沢を挟んで2地域に分かれ、北側に3か所、南側に23か所が位置している。北側の3か所が全て小規模で斜面に位置するのに対し、南側



▲図1 遺構位置図

は様々な大きさの竪穴が標高14～15mの平坦地に密集して確認される。南側23か所のうち竪穴A種は約半数の12か所を占める。今年度の調査は26か所の中から、竪穴A種の2か所と、遺構である可能性が低い竪穴C種8か所の計10か所について、トレンチによる発掘調査を行った。A種についてはその時期、規模、構造、重複関係を、C種についてはその実態を確認することを目的としており、調査結果を踏まえた竪穴分布範囲の確定を目指すものである。

## (2) 調査結果

調査の結果、C種8か所のうち北側分布域の3か所と、南側分布域の沢に向かう斜面に位置する3か所の計6か所の竪穴は、対となる近代の炭窯2基とその付属施設であることが分かった。堆積状況、規模や標高や配置がよく似ており、同時期に営まれたと想定される。残りのC種2か所は南側分布域の最南端に位置する。1か所はその実態を解明するに至らなかったが、1か所は全長3m程度の小規模な竪穴住居であることが分かった。一方で、A種とした2か所の竪穴は、ともに南東側にカマドのある竪穴住居で、出土遺物から擦文文化期であること、掘上土の切りあいから重複関係にあることも確認できた。都合竪穴住居は3軒となったが、いずれも北西-南東方向に長軸があり、カマドを南東側に設ける擦文文化期の竪穴住居であることがわかった。興部豊野竪穴群(B)の調査は今年度をもって完了となる。

## 2 埋蔵文化財に関する調査研究

### (1) 保管出土品を活用した研究

#### 【今年度研究概要】

指定管理第5期においては下記2つの課題を中心に保管出土品を活用した調査研究を進めた。

ア、保管遺物を対象とした科学的分析で、主に材質分析を行うこと。

イ、保管遺物を活用した、体験学習内容や方法を開発すること。

#### 【保管出土品を対象とした研究】

##### ア、保管遺物を対象にした科学的分析

滑石製遺物の産地同定を目標として、道立センターで比較資料として採取した道内松前町江良、芦別市新城、岩手県盛岡市、一関市等各産地の岩石試料に対し、鉱物ごとの化学組成値の測定を昨年度から継続して行っている。今年度は分析精度

の向上を目指し、測定試料数を増やして行った。使用機器は、電子顕微鏡(JSM-IT200)である。

#### イ、保管遺物を活用した体験学習の開発

保管遺物を活用した体験学習の開発については、考古学講座「縄文人に挑戦」においてベンケイガイを素材とした貝輪の製作実験を行った。

##### (ア) 縄文人に挑戦 一貝輪をつくる一

本講座は高校生以上の「大人」を対象とし、趣旨は、被加工物・加工物ともに実際の遺物と同様の材質を用い当時の製作技術を忠実に復元した実験を行うことで、先史時代人の技術や計画性、破損等への対処技術などを理解するための知識を得ることである。参加者は製作実験の前後に資料観察を行うことで、資料の観察理解度の深度が増したことが実感でき、また実験成果によってはこれまでの研究で指摘されていない新知見を得ることもある。そのため形良く優美に作ることはさほど求めず、作業過程や破損事故などの自らの経験から知識を得ることが最も重視される。

#### 講座のテーマ

今年度は平成30年度に引き続き貝製装身具に注目した体験プログラムの製作を目指し、ベンケイガイ素材の貝輪づくりをテーマ対象とした(写



写真1 ベンケイガイ貝輪

真1)。貝輪は世界文化遺産北海道・北東北の縄文遺跡群の構成資産である、つがる市田小屋野貝塚が製作遺跡として著名で、北海道でも伊達市北黄金貝塚と洞爺湖町入江貝塚での出土がよく知られている。道央部では北海道教育委員会が行った新千歳空港建設に伴う昭和53年の調査で美沢1遺跡JX-4 P-107墓坑から5点を検出した例があり、今年度実施した企画展示「北海道・北東北の縄文遺跡群展2—すすめ！縄文ワールド—」では入江貝塚と美沢1遺跡の貝輪を借用・展示して来館者に広く紹介した。そして本講座「縄文人に挑戦—貝輪づくり—」では美沢1遺跡の資料を活用し、その歴史と製作技術の詳細を体験プログラムによって参加者に理解してもらおう取組みとした。このように複数事業を通して貝製装身具を共通テーマとした縄文文化の普及啓発に努めた。

縄文時代の貝輪は日本列島のほぼ全域に出土がみられ、神奈川県夏島貝塚出土資料などおよそ9,000年前の早期段階のものが最古と考えられる。北海道・北東北では前期から出土が認められ、上述の田小屋野貝塚、北黄金貝塚のほか、二ツ森貝塚から出土している。貝輪が盛行するのは縄文後期中葉以降で、素材貝は早期～中期のフネガイ科（アカガイ・サトウガイ・サルボウガイ）やイタボガキ主体から、後期以降にベンケイガイ主体へと変化したことが明らかとなっている（忍澤2011）。全国的にも有名な製作遺跡である千葉県余山貝塚、秋田県柏子所貝塚、愛知県吉胡貝塚は後期～晩期の遺跡だが、これら製作遺跡はベンケイガイの打ち上げ地に近接する特徴があり、ベンケイガイの潤沢な供給地が確保されたことで製作遺跡からの安定的な貝輪流通が成立したと考えられている（忍澤2011、阿部2018）。また貝輪は墓坑の遺体装着例が多く、その9割が女性で占められることから女性の装身具と考えられている（片岡1995）。墓域の限られた墓から出土する状況や、複数の貝輪を連ねて装着した例からは、選ばれた人物が身に付けた威信財の性格も想定されている。

本題となる貝輪製作に関する研究は、忍澤成視氏による鹿角と砂を使用する方法（忍澤2006、市原市教育委員会2012）と、阿部芳郎氏による二つの敲石を用いて両極剥離する方法（阿部2007）の他、いくつかの復元が試みられている（戸谷2007など）。今回の講座では、阿部氏の両極剥離技法の復元を元に、使用する敲石・台石と貝輪の保持の方法を製作実験から考案し、これを用い

ることとした。上記製作方法を選択した理由は、製作遺跡から出土する敲石の形態、敲打痕の状況、出土貝輪の剥離面の特徴から蓋然性が高いと考えたためである。また、阿部芳郎氏には直接対面で製作方法をご教授いただいた経緯があり、技術的に細かな部分を確認できた点も講座に活かすことが出来た。

### 必要物品

製作に使用する材料と道具類について詳述する。材料は縄文時代に入手可能なものに限定した。内容を以下に列記する。

#### 【材料】

材料はベンケイガイの貝殻で、千葉県鴨川市の浜荻海岸、青森県つがる市の七里長浜の海岸から採取した打ち上げ貝を主体に、大きさが幅8.0cm以上のものを提供した。製作実験の結果では、幅6.5cm以下のものは貝殻の厚みが足りず、後述の製作方法では製作過程で破損する可能性が高いことが分かった。また、現代人での装着実験の結果だが、小学生から成人女性では8.0～9.0cm、成人男性では10cm程度の大きさがあれば装着が可能な場合が多い。打ち上げ貝にはゴカイなどによる虫食い状の穴があるもの、風化により表面の艶感が失われたもの、縁辺部に剥落がみられるものが含まれ、こうした劣化が生じたものは破損し易く貝輪の素材にはやや不向きである。

良質な素材選びの条件は、幅9.0cm以上、形は円形に近く、放射肋が明瞭で艶感が強く、縁辺に欠けや風化がないもの、などがあげられる。

#### 【道具類】

作業一人が使うものは、敲石3点、台石1点、砥石1点、トレイ1個、水（500ccほど）、作業台1個、タオル1枚、薄型のコンテナ1個がある（写真2）。



写真2 道具

敲石は下記3種類を用意し、各3種類を1つずつ配布した。これらは基本二つ一組を手持ちで使用し内一つが手持ち台石として機能する。石材は主に安山岩や砂岩・泥岩とした。

\*「卵形タイプ」

球形から楕円形を呈す、長さ5～6cm・厚さ3cm程度のもの。

\*「扁平タイプ」

扁平・楕円形を呈す、長さ7～8cm・幅5cm前後・厚さ1～1.5cm程度のもの。

\*「棒状タイプ」

棒状・長楕円形を呈す、長さ10～15cm・幅4～5cm・厚さ3～3.5cm程度のもの。

台石は15～20cm程度の扁平な転礫で、据え置きで使用する。石材は主に安山岩や砂岩・泥岩とした。砥石は砂岩製で犬吠埼北側の海岸で採取した「銚子石」と呼ばれるものを提供した。用意した敲石などの石器は全てを使用しなくても製作が可能である。しかし作業に不慣れで技量が発達していない作業には有効な道具となる場合もあるため用意をした。なお複数の石器を使用することによる混乱を避けるため、各石器にはひらがな頭文字の「た」（卵形）、「へ」（扁平）、「ぼ」（棒状）、「と」（砥石）をマジックで記入した。

このほかトレイ・水・作業台・タオルは、砥石を使った研磨作業の際に使用する。

## 作業方法

作業は大きく「初期穿孔」、「孔の拡張」、「外縁剥離」、「表面・内外縁の研磨」の4工程で進行する。説明は工程毎にパワーポイントと実演を組み合わせで行い、特に動作と保持方法（持ち方）を詳細に伝達する。また作業は全てテーブル上で行う。作業時間は100分程度とした。

### 【1. 初期穿孔】

研究者によっては「粗割り」工程とも呼ばれる。殻頂部付近の最も殻の薄い部分を敲き、一気に3cm前後を穿孔する。使用する道具は卵形もしくは棒状タイプの敲石で、次の手順で行う。

- ①殻の内側を手前に向けて手のひらの上に保持する。
- ②殻頂部の直下、殻の湾曲した最も深い部分を狙って、敲石の重さを利用する感覚で繰り返し敲く（写真3）。
- ③敲き続ける内に次第に亀裂（ヒビ）が入り、やがて穿孔に至る（写真4）。

敲き方の指導では「力を抜いて石の重さでコツ



写真3 初期穿孔の方法



写真4 穿孔の状況

コツ」、「玉子の殻を割る様に」の声掛けが、適切なコントロールと力加減に導くと考えられる。所要時間5分程度で行う。

### 【2. 孔の拡張】

2種類の敲石を同時に使い、ひとつは敲石、もう一つは手持ち台石として機能する。初期穿孔で開いた貝輪の孔の縁辺を手持ち台石の端部・縁辺に乗せ、敲石で敲打し「挟み打ち」にする。手持ち台石に「扁平タイプ」もしくは「棒状タイプ」のどちらか扱いやすい方を選んで作業をして貰う。

扁平タイプは写真5の様に持ち、貝輪を写真6の様に保持し剥離する。扁平礫の縁辺部に剥離したい箇所を置くことで容易くピンポイントの両極剥離が可能となる。扁平タイプのメリットはしっかりとした保持が可能で、作業の進行に伴い孔が拡張し、貝輪の身幅が狭く・細くなっても安定した作業が行える。熟練すれば殻筋痕の除去や套線の屈曲部まで剥離が可能となる。デメリットはある程度の手の大きさと握力が必要で、子供には不



写真5 手持ち台石「扁平タイプ」の持ち方



写真8 手持ち台石「棒状タイプ」での剥離



写真6 手持ち台石「扁平タイプ」での剥離



写真9 両極剥離による針状の貝破片



写真7 手持ち台石「棒状タイプ」の持ち方



写真10 孔縁辺の剥離面（実験資料）

向きな方法であることがあげられる。

対して棒状タイプは写真7の様に持ち、写真8の様に貝輪を保持し剥離する。棒状タイプのメリットは子供でも持ちやすく保持がしやすい点があげられる。デメリットは、作業が進行し貝輪の身幅が細くなるにつれ保持が不安定となり、次第に作業が困難となる点があげられる。今回の講座

では剥離作業が困難となった段階で据え置き of 台石を使った作業に切り替え、更に剥離を進めることとした。所要時間は30分程度とした。

国内でも最大規模の製作遺跡と考えられる千葉県余山貝塚では扁平タイプと棒状タイプの敲石が出土しており、特に扁平タイプの端部縁辺部の観察では「河原石の先端部で細かい打撃を繰り返

すことにより摩滅していった様に思える。」との記述がされている（財団法人千葉県文化財センター1989）。本講座の実験で生じた扁平タイプの敲打痕に共通する特徴と考えられ、興味深い。

上記二つの種類の敲石を使った両極剥離では、いずれも貝殻の成長線に沿って割れた長さ1cm×幅0.2cm程度の針状の破片が多量に生じる（写真9）。同様の特徴を持つ貝の破片は千葉県の城山洞穴に確認例があり（戸谷2007）、復元された剥離の方法の蓋然性が高いことが考えられる。また剥離実験資料の孔縁辺には上下方向から生じた剥離面が連続して並ぶが（写真10）、同様の剥離は入江貝塚出土資料でも認めることができる。

### 【3. 外縁剥離】

貝輪の外縁を剥離し、身幅をさらに細くする作業である。ベンケイガイ製の貝輪の細型化は後期中葉以降に起こったことが指摘されており（阿部2007）、戸谷氏の復元した製作工程の中では「外縁調整」として孔拡張の後に位置付けられている（戸谷2007）。

作業は据え置き台石の上に貝内面を上にして縁辺部を置き、敲石で連続的に敲打し両極剥離する方法を復元した（写真11）。孔の拡張では套線までの剥離が限界であり、剥離の衝撃による破損のリスクも高い。外縁剥離は強い衝撃を加えずに剥離出来るため、さらに細身に仕上げる有効な方法と捉えられる。所要時間は10分程度とした。

### 【4. 表面・内外縁の研磨】

剥離面が並び鋭い凹凸する孔の縁辺や外縁を研磨により滑らかにし、さらに表面を研磨し放射筋の模様を明瞭に浮き出させる作業である。特に剥離による孔拡張で細身にできなかった場合は、孔縁辺の研磨が、孔拡張の継続作業に位置付けられる。



写真11 据え置き台石を使った外縁剥離

主要な道具は砥石であり、千葉県銚子市の犬吠埼灯台北側に位置する海岸で採取した砂岩を使用することとした。これらは国指定天然記念物「犬吠埼白亜紀浅海堆積物」の露頭から風化や浸食で剥落した砂岩が打ち上げられたもので、古くから「銚子石」と呼ばれ石造物に利用されている。縄文時代では余山貝塚で貝輪作りに利用された砂岩製砥石が多出しており、この銚子石を使用した可能性がある。製作実験でも銚子石は、研磨効果が非常に高い良質の石材であることが実感できた。

貝輪製作に関わる砥石は、余山貝塚や柏子所貝塚などの貝輪製作遺跡において「立体有溝砥石」（阿部2007・2010）、「アメーバ状砥石」（忍澤2006）と呼ばれる特徴的な溝状の研磨痕を有す5～10cmほどの砂岩製砥石が確認されており、手持ち砥石として貝輪の研磨作業に使用されたことが明らかにされている。本講座でも6～7cmほどの大きさの銚子石を手持ち砥石として能動的に使うこととした（写真12）。

研磨作業は貝輪を作業台の上に手で固定し、必要に応じてトレイに張った水に貝輪を浸けながら、孔縁辺⇒貝輪外縁⇒貝輪表面の順で進める。また外縁研磨では殻頂部の突出部も除去し円形へ近づける。作業は剥離面が完全に摩滅し滑らかな面となるまで行い、完成となる。所要時間は30分程度とした。

### 実施状況

講座前半では貝輪の諸特徴や用途、形態、歴史、素材貝の種類と変遷、貝輪の分布について、パワーポイントを使用して15分程度の解説を行った。その後、美沢1遺跡出土の貝輪2点を対象に、実物観察の時間を15分程度設けた。資料は風化が進んでいるため、参加者の観察は触れずに間近で



写真12 砥石による研磨

見ることに留めたが、代わりに講師が資料を手にとって観察ポイントを色々な角度から指し示して見せ、解説と質疑を行った。

講座後半は製作体験を行った。前段で作業の全体工程、加工具、素材貝の採取場所の状況について解説し、作業を開始した。技術の詳細な伝達は、工程ごとにパワーポイント、実演、個別指導を行うことで順々に理解して貰った。特に工程2番目の「孔の拡張」では保持の方法と敲打箇所のコントロール、両極剥離の鈍く潰す様な感覚が重要であり、身振り手振り、音への留意、手元を良く見せるなど、伝達には工夫が必要であった。

「初期穿孔」作業は軽い敲打による作業のため、実演による伝達で全員がスムーズに技術を習得し、成功した。作業は予定した5分間で完了した。

「孔の拡張」作業は参加者の力量や理解度により大きな差が生じることを予想したが、全体として比較的スムーズに進んだ。特に理解が早く手先が器用な作業者は扁平タイプの敲石で順調に作業を進めていた。女性に上達が早い人が目立ったのは力加減の適度さによるものであろうか。しかし、誤算として3割以上の参加者に破損が生じた。阿部氏の両極剥離による製作実験では94%の成功率が報告され(阿部2007)、本講座での事前実験や親子向けで行った他の教室でも9割以上の成功率を確認していた。本講座で破損が多く起きた原因として、①ベンケイガイの貝殻が頑丈と信じ必要以上に粗く強い力で加撃した、②両極のピンポイントの敲打が外れ潜在割れを起こした、③貝殻の風化が進んでいた、④貝輪の身幅を細くしようとし過ぎた、などが考えられる。慎重さ、敲打コントロールの精度、適度な力加減への留意を促す声掛けが、成功率をあげるためには必要と考える。作業は予定時間を超過し、40分間程度を要した。超過は破損により作業をやり直した作業者がいたことも影響した。

「外縁の調整」は前工程までの時間の超過もあったため全体では行わず、一部作業が早目に進んだ作業者が選択的に行った。

「表面・内外縁の研磨」では作業効率の良い貝輪と砥石の保持の方法を実演などで伝えてから作業に入った。作業者は研磨作業による貝輪表面の変化の他、砥石に生じる変化も観察し、製作遺跡から出土する「立体有溝砥石」、「アメーバ状砥石」と共通する擦痕が自身の砥石に生じることに気付く、作業方法と石器に残る痕跡の関係を理解して

いた。作業時間は予定の30分程度で完了した。

## 成果と課題

講座を通して多くの参加者からもっと多くの貝輪作りをしたいとの声をいただいた。今回の講座では孔拡張の作業で二つの敲石を使った両極剥離を採用し、製作に必要な道具、敲打・保持の技術、素材ベンケイガイの良好な打ち上げ地(採取地)の確認など多くの情報を取得することができた。またパワーポイントとシナリオを作り、講座を繰り返し実施できるノウハウを得た。

今後は他の論考で復元されている方法も実験し、妥当性を確認・比較することも参加者の製作技術の理解に貢献すると考える。ベンケイガイ以外のサトウガイなどの貝でも製作体験の機会を作っていきたい。また講座を親子向け、子供向けに柔軟にリメイクし、貝輪作りを道内の多くの方に体験して貰える機会を増やしたいと考える。

今回の講座を実施するに当たり、明治大学文学部教授の阿部芳郎先生には多くのご教授をいただきました。伏して御礼申し上げます。

## 【引用参考文献】

阿部芳郎

- 2007 「内陸地域における貝輪生産とその意味—貝輪づくりと縄文後期の地域社会— 縄文時代における印旛沼周辺地域の基礎的研究XIV」考古学集刊第3号 明治大学
- 2010 「船橋市金堀台貝塚採集の砥石—内陸遺跡による「立体有溝砥石」の在り方とその意義 実験考古学的手法による物質変容と遺跡形成論的研究II」飛ノ台史跡公園博物館紀要 第7号 飛ノ台史跡公園博物館
- 2014 「貝輪の生産と流通」『縄文の資源利用と社会』季刊考古学・別冊21 雄山閣出版株式会社
- 2018 「縄文時代における貝製腕輪の研究」明治大学人文科学研究紀要第83冊

忍澤成視

- 2006 「縄文時代におけるベンケイガイ製貝輪生産」動物考古学23号 動物考古学研究会
- 2011 『貝の考古学』ものが語る歴史22 同成社

市原市教育委員会

- 2012 『体験★埋文講座No.1 貝アクセサリーづくり教室』

片岡由美

- 1983 「貝輪」『縄文文化の研究9 縄文人の精神文化』雄山閣出版株式会社

財団法人千葉県文化財センター

- 1989 「銚子市余山貝塚確認調査報告書」千葉県文化財センター調査報告書第169集

戸谷敦司

- 2007 「千葉県下の貝輪製作—7 縄文時代後・晩期を中心に—」財団法人印旛郡市文化財センター研究紀要5 財団法人印旛郡市文化財センター

## (2) 研修・情報収集

### ア、令和5年度全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会総会

期 日：令和5年6月8・9日（木・金）

会 場：鹿児島県鹿児島市与次郎1丁目8-10  
「鹿児島サンロイヤルホテル」

参加者：総務課長 小杉 充

内 容：令和5年6月8日（木）総会・講演  
6月9日（金）史跡等視察

詳 細：1日目6月8日（木）

13時45分から総会・講演

#### 開 会

○開会挨拶

中村会長（鹿児島県立埋蔵文化財調査センター所長）

○挨拶

地頭所教育長（鹿児島県教育委員会）

近江主任文化財調査官（文化庁）

#### 議 事

##### 1 会員の入退会について

桜井市立埋蔵文化財センターから入会申請があり、了承された。

（令和5年6月現在加盟機関：72機関）

##### 2 令和4年度事業報告について

事務局から総会・研修会・役員会の開催、機関誌の発行、文化庁への要望活動、発掘された日本列島展への協力についての説明及び報告があり、了承された。

なお、令和5年度の要望事項については、令和4年度第2回の役員会での議論した要望事項を基本に、昨年度に要望活動を早めるほうが効果的との回答を得たことから7月に行うことで了承された。

##### 3 令和4年度収支決算について

事務局から説明・報告があり、了承された。

##### 4 監査報告について

監事の早川氏（高槻市埋蔵文化財センター）から監査結果の報告があり、了承された。

##### 5 新規加盟組織の勧誘について

未加盟機関及び都道府県教育委員会（文化財主管課）に対し、加入への案内文書を送付している。連絡協議会への加入について協力願いたい。

##### 6 発掘された日本列島2023展について

事務局から事業概要の説明ポスター、チラシの配布等、協力願いたい。

##### 7 役員改選について

事務局から説明があり、了承された。

##### 8 令和5年度事業計画（案）について

事務局から総会・研修会・役員会の開催、機関誌の発行、文化庁への要望活動、発掘された日本列島展への協力についての説明及び報告があり、了承された。

##### 9 令和5年度収支予算（案）について

事務局から説明があり、了承された。

##### 10 令和6年度総会及び研修会の開催地について

事務局から説明があり、了承された。

総会第1回役員会：盛岡市

研修会：北杜市

第2回役員会：富山県（開催幹事機関）

#### 記念講演

「埋蔵文化財保護行政の現状と課題」

講師：文化庁文化財第二課埋蔵文化財部門

主任文化財調査官 近江 俊秀 氏

#### 講演要旨

○これからの埋蔵文化財保護の在り方

##### ①埋蔵文化財緊急調査費国庫補助

・要望額が予算額を大きく上回る状態が続くと予想されるため、これまでのような都道府県単位の査定から、補助事業者単位での査定へと移行することを計画

##### ②発掘調査のイノベーションによる新たな埋蔵文化財保護システムの構築のための調査研究事業

・発掘調査の費用そのものをできるだけ抑えることを目的としており、現在行っている作業のひとつひとつの目的や意義を、外部の人に納得いくように説明できるのか考える必要がある。

##### ③指定相当の埋蔵文化財について

・自治体による重要度の確認からはじまり、有識者によってその価値を認めてもらい、文化庁もその価値を認める。その3つの要件を満たしたものをリスト案として作成し、文化審議会の意見聴取を行ってリスト化する。

##### ④その他

・保存目的調査について

- ・出土遺物の保管について
- ・近世・近代の埋蔵文化財についての検討

### 特別講演

「南の考古学と埋蔵文化財保護行政の振興」

講師：鹿児島県文化財保護審議会会長

本田 道輝 氏

### 講演要旨

鹿児島県の埋蔵文化財保護行政が本格的に始まった昭和40年代から埋蔵文化財の発掘調査に携わった講師が見てきた鹿児島の埋蔵文化財保護行政の変遷を発掘調査の状況を紹介しながら講演いただいた。

2日目6月9日（金）

### 視察

- ・鹿児島城（城山・黎明館）視察

### イ、令和5年度全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会北海道・東北ブロック会議

期 日：令和5年11月16・17日（木・金）

会 場：八戸市大字是川字横山1

八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館

参加者：副所長 馬橋 功

### 内 容

八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館が開催機関となり、14機関中9機関19名が参加した。

<議事>

#### 1 協議事項

①令和7・8年度のブロック幹事（全国役員）の候補機関内定について

事務局（北海道）から趣旨説明があり、過去の経過説明の後、幹事として、札幌市埋蔵文化財センターと青森県内（後日決定）に内定した。

②今後（令和12年度まで）のブロック会議開催地について（確認）

事務局から趣旨説明があり、再度確認の意味を含め、開催機関を提示した。

③文化庁への要望について

事務局から今年度の要望書提出は7月4日（火）に会長機関（富山県）と副会長機関（神奈川県、奈良市）の3機関で実施したこと。来年度の要望事項などについて、多賀城市から文化庁の「埋蔵文化財緊急調査補助金の適正な配分」について、要望として追加提案があり、会長県事務局へ意見提出することを確認した。

#### 2 照会事項

各ブロック機関からの照会事項について、照会機関からの趣旨説明の後、参加機関の事例報告など意見交換が行われた。

①史跡及び重要遺跡に係る維持・管理費について  
予算措置をしている機関からそれぞれの参考事例として紹介された。

②発掘調査で撮影したフィルム写真のデジタル化について

各機関によって状況が多様であること。施設や予算に応じて遺物や図面の管理を適正に行う必要があり、今後の共通課題として確認された。

③金属製品の保存処理・メンテナンスについて  
各機関の現状報告から、自機関での保存処理の課題や委託先確保などに苦慮している状況の説明があり、今後の参考事例とした。

④市町村における、県埋文センターや県教育委員会が発掘した遺物の受入れ、保管について  
県や市町村の状況により様々であり、保管場所の確保が課題となっていることなどの情報交換がなされた。

⑤民間委託調査における、請求書・明細書のインボイス対応について

民間受託調査を実施している機関は少数。実施機関では、一括契約（購入）における1円未満の端数振り分けが生じないように、委託先にごとに契約している旨、事例紹介がされた。

⑥熱中症対策として、酷暑時の作業中止の対応、またその基準等について

各機関とも地域の気象状況や注意報、一定の目安を参考にし、現場状況によりそれぞれ判断して対応している実情が紹介された。

⑦国庫補助事業「地域の特色ある埋蔵文化財活用事業」の実施状況について

実施機関から、補助事業を活用して再整理や遺物の台帳整備を行った事例、パネル展の中で整理や遺物の処理委託を行った事例紹介がなされた。

⑧発掘調査報告書の送付先について

各機関の実情報告があり、それぞれの機関において今後の参考する旨の確認がなされた。

⑨インボイス制度の開始における、入館券、販売図書等の対応について

該当機関では、領収書を発行する場合、当面はゴム印を活用している機関が多数。今後、POSレジの導入の必要性などが話題となった。

⑩出土品の収蔵状況おける、他機関の収蔵施設の現状と計画について

各機関の実情報告があり、共通して収蔵スペースの確保が課題となっている。空き校舎や施設の活用では、水の確保（消防用）、除草や除雪、漏電等の対策など、維持等にも課題があるとの報告がなされた。

### 3 視察

11月16日（木）の会議終了後、是川縄文館の船場昌子主幹の解説により、八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館特別展示室「企画展」、常設展示室などの視察が行われた。

11月17日（金）は、是川縄文館の横山寛剛主査兼学芸員の解説により「一王寺遺跡」、八戸市博物館の小保内裕之館長の解説により「八戸博物館（特別展）」、同博物館の市川健夫主査兼学芸員の解説により「遺跡根城の広場」の視察が行われた。

#### ウ、令和5年度全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会第35回研修会

期 日：令和5年10月19・20日（木・金）

会 場：香川県立ミュージアム

参加者：総務部会計課 課長 中村 貴志

10月19日（木）研修会

テーマ：史跡における保存目的の調査と活用～香川県内の前期古墳を中心に～

#### <基調講演>

「国指定史跡等の活用を考える～史跡の精選観点と活用～」

大久保 徹也 氏（徳島文理大学教授）

現行の文化財保護法の基本は指定制度にある。学術的に価値のあるものについて持続的な活用を図るため、指定をし私権に制約を加えることにより文化財を保護することができるものとなっているが、保護法が改正されるにつれて精選観点（選定理由）が変容してきている。

「史跡」の類型に絞って確認してみると、昭和24年改正文化財保護法で史跡指定の理由として「わが国にとって歴史上または学術上価値の高いもの」と定められており、これに基づき埋蔵文化財についても国民的な財産と位置付けているが、90年代後半には国民的財産であり地域の歴史資産という位置付けに変化し、2000年代には国民的財産という観点は消滅している。これは地方分権を推進する方向の中で変容していったものであ

るが、それでは文化財保護法の目的である「国民の文化的向上に資する」理念と乖離しているといわざるを得ない。

史跡については埋蔵文化財が内包されており、精選観点（選定理由）については埋蔵文化財の考え方も影響を与えるため、選定理由が「歴史上または学術上価値の高いもの」ではなく、「地域の活性化に資すること」に重点を置かれることとなることを危惧している。

#### <事例報告(1)>

「史跡石清尾山古墳群における積石塚の調査と保存」

高上 拓 氏（高松市埋蔵文化財センター）

石清尾山古墳群は、前記の積石塚と後期古墳からなる古墳群であり、昭和9年に国史跡に指定され平成30年に稲荷山の4基を追加指定された。特に積石塚については事例が少ないため考古学的に注目を集めている遺跡である。

この遺跡の保存と活用を図るため、平成24年より調査を実施したが前述のとおり積石塚の事例が少ないことや人員も不足したため不慣れなため調査は順調に進まなかった。そのため文化庁等と協議し、細部形態の詳細までは調査せず、墳形と全長を解明することを目標とした。

墳形については過去幾度も盗掘を受けているため、墳丘形成時の積石と盗掘の際に積み上げられた積石を判別する必要があり調査に時間を要することとなった。判別は石材の下から遺物が確認できるか等一定の基準に基づき行った。またトレンチ掘削も行い、その結果多くの地点で墳端を確認することができた。

上記調査を踏まえ保存活用計画の策定に取り掛かるが、積石塚が脆弱な構造であり、一方で人の立ち入りが制限されておらず、あわせて墳丘周辺ではイノシシを中心とした獣害が拡大していることから墳丘周辺に柵を設置し、人の動線を限定するとともに獣害を防ぐことを最優先の方針として定めることにした。

#### <事例報告(2)>

「史跡快天山古墳における刳抜式石棺の調査と保存」

伊東 涼太 氏（丸亀市教育委員会）

快天山古墳は古墳時代前期中頃の前方後円墳で、昭和25年に県調査委員が調査を行い、翌26年には京都大学の追加調査が行われ合計3基の石棺が確認されている。その後平成16年に国指定史跡となった。

埋葬主体の調査については昭和26年以後詳細な調査が行われていなかったため、令和3年度より石棺の調査等を開始した。その結果石棺の一部に亀裂が確認されるなど整備計画において課題が生じている。現在は石棺の劣化について継続したモニタリングを実施しながら、現地保存が最適かどうか検討を行っている。

10月20日（金）視察見学

＜史跡石清尾山古墳群＞

現存するテラス上の積石部分を確認。また各所にイノシシが転石を行ったと思われる部分が確認され、柵の設置について早急に対策が必要であると感じた。

＜史跡快天山古墳＞

駐車場もあり史跡としてある程度整備されている。古墳については石棺が露出しており亀裂を確認するも進行は進んでいない。現在は現存した積石と昭和の調査の際に埋め戻された積石の判別作業を行っている。

## エ、令和5年度全国公立埋蔵文化財センター第2回役員会

期 日：令和5年11月16日（木）

会 場：京都市中京区土手町通夷川上る末丸町284 職員会館かもがわ会議室

参加者：所長 長沼 孝

議 事

### （ア）協議事項

○令和5年度の事後について（中間報告）

・総会及び第1回役員会

令和5年6月8・9日（木・金）に鹿児島県立埋蔵文化財センターが幹事機関として鹿児島市で開催

\*議案は全て承認

・文化庁への要望活動

令和5年7月4日（火）文化庁京都庁舎において会長・副会長と全埋協会長・副会長で対面で実施、ただし、長官不在のため、田中禎彦文化財第二課長に要望書を手交、その後、田中文化財第二課長、近江主任文化財調査官、芝文化財調査官、桑波田文化財調査官と懇談

・研修会

令和5年10月19日（木）・20日（金）に香川県埋蔵文化財センターが幹事として高松市（香川県立ミュージアム）で開催

○令和6年度の総会・役員会・研修会について

・総会・第1回役員会

幹事機関：盛岡市学びの館

会場：アートホテル盛岡

日程：令和6年5月30日（木）

監査・第1回役員会・総会等

5月31日（金）

視察見学（盛岡城跡・志波城跡・盛岡市学びの館）

・第2回役員会

幹事機関：会長機関

会場：京都市内

日程：11月中・下旬

・研修会

幹事機関：北杜市埋蔵文化財センター

会場：北杜市内

日程：10月中・下旬で検討中

○令和7・8年度の役員について

・今後の各ブロック会議で確認して来年度の役員会で報告予定

○令和7・8年度の総会・役員会・研修会及び令和8年度以降のローテーションについて

・令和7年度の総会等は鳥取県、研修会は大分県に変更

・以後、総会等は、8年度は近畿から関東・甲信越・静岡に、9年度は北海道・東北から近畿に、10年度は中四国・九州から北海道・東北に変更、11年度以降は未定

・研修会は、8年度は中四国・九州から東海・北陸に、9年度は近畿から中四国・九州に、10年度は中四国・九州から近畿に変更、11年度以降は未定

○令和6年度の文化庁への要望活動

・要望時期：6月下旬～7月上旬

・調整役：令和6年度は公立埋文協が担当

○全国埋蔵文化財法人連絡協議会との共同事業について

・現在の共同事業は、「発掘された日本列島展」への協力と文化庁への要望活動

・今後も継続的に検討

### （イ）報告事項

・今年度は、第71号・第72号の発行予定

・令和5年度の予算の執行状況

令和4年度に規約改定したとおり、年会費は5,000円減額し、都道府県・政令市は25,000円、市町村は20,000円

- ・入会・退会について  
山口県埋蔵文化財センターが今年度で退会
- (ウ) 情報交換事項**
- ・オブザーバー参加の文化庁近江主任文化財調査官から、近年の文化庁での調査研究や補助事業の動向に関する情報提供
- ・各ブロックなどの現状報告及び意見交換

#### オ、北海道東部の竪穴住居跡群調査懇談会

日 時：令和6年3月14日（木）

10：00～12：00

会 場：北海道庁別館西棟4階札幌道税事務所  
会議室

#### 会議出席者

＜構成員：2名＞

熊木俊朗 東京大学大学院人文社会系研究科教授  
(座長に選出)

高瀬克範 北海道大学大学院文学研究院教授

＜竪穴群調査の実施に関係を有する者：1名＞

立田 理 北海道立埋蔵文化財センター指定管理者（公財）北海道埋蔵文化財センター 主査

＜北海道教育委員会：5名＞

菅野泰之課長、藤原秀樹課長補佐、ほか3名

＜傍聴者：0名＞

#### 話題提供及び意見交換

＜話題提供＞

- ・事務局が令和5年度竪穴群現況調査について、また北海道立埋蔵文化財センターが令和5年度重要遺跡確認調査についてそれぞれ報告した。
- ・令和5年度竪穴群現況調査では、大樹町のホロカヤントウ周辺の竪穴群を対象にGPSを用いて竪穴分布を測量し、取得した座標情報および地図情報等をGISソフトで統合することにより、竪穴群保護に必要な基礎情報を取得した。基礎情報の整備により、一部の埋蔵文化財包蔵地の範囲に修正が必要な箇所があること、また人工林に分布する竪穴群については森林施業の影響に注意が必要であることが明らかとなった。
- ・令和5年度重要遺跡確認調査では、興部町に所在する興部豊野竪穴群（B）で発掘調査を実施した。トレンチによる調査により、擦文文化期の竪穴の検出、及び竪穴の分布域を把握した。

＜意見交換＞

令和5年度竪穴群現況調査

- ・LiDAR搭載のドローンによる考古遺跡の測量は竪穴群の測量に適している。
- ・GPSの追跡機能をGISで表示できるようにし、

踏査実施済範囲・未了範囲を把握できるようにしておくが良い。等

#### 令和5年度重要遺跡確認調査

発掘調査の対象となった2軒の竪穴の前後関係について、興部豊野竪穴群（A）及び（B）における昭和40年代の調査について、興部高校による調査及び高校に保管されている遺物等について、意見交換が行われ、過去の調査関係者への聞き取り実施について助言があった。

#### カ、第13回文化財写真技術研究会

期 日：令和5年7月7・8日（金・土）

会 場：奈良県奈良市二条町2-9-1 奈良文化財研究所 平城宮資料館 講堂

参加者：第1調査部第1調査課主任 菊池 慈人  
内 容：

7月7日（金）

講演：デジタルカメラの歴史と最新デジタルカメラでできること 柴田誠（フォトジャーナリスト）

デジタルカメラの市場動向、フィルムカメラからデジタルカメラへの変遷、スマートフォンの影響、撮影スタイルの変化、構成デバイスの進化等が説明された。

7月8日（土）

発表：ピント合わせから見えてくるもの  
栗山雅夫（奈良文化財研究所）

デジタルシフトにおけるモニター出力でのピント精度の説明があった。

発表：フィルムからデジタルへ  
杉本和樹（西大寺フォト）

フィルムとデジタルの撮影の時間、機材、費用、保存環境などの違いの説明があった。

発表：デジタル移行の明暗  
～ハード面からの一事例～  
武本典子（京都府埋蔵文化財調査研究センター）

職場におけるデジタル移行の過程、フィルムカメラとデジタルカメラの比較、現場と遺物撮影でのデジタルカメラを説明した。

発表：ピクセルシフトによる写真画質の高画素化  
北田仁司（宮内庁正倉院事務所）

富士フィルムGFX100のピクセルシフトマルチショット機能の説明と撮影事例を紹介した。

発表：一般的な文化・文化財行政における高感度撮影 石井隆博（東広島市教育委員会）  
高感度撮影の事例である夜の祭り、屋内の式

典、速いシャッタースピードが必要な天然記念物のコウノトリやオオサンショウウオ、ニホンカモシカなどのような動物の生態調査の撮影が紹介された。

### 3 分析・鑑定・保存処理等

#### (1) 分析・鑑定

蛍光X線分析装置、電子顕微鏡、光学顕微鏡などの分析・鑑定に関わる機器の設置環境整備と維持管理を行っている。今年度行った分析・鑑定業務は以下の2項目である。

##### ア、重要遺跡確認調査に係る分析・鑑定

竪穴住居出土炭化材の樹種同定、令和3年度調査の興部豊野竪穴群(A)の調査において出土した板状礫の偏光顕微鏡観察による産地推定を行った。詳細な内容は重要遺跡確認調査報告書第19集に掲載した。

##### ア)、竪穴住居跡出土炭化材の樹種同定

令和5年度興部豊野竪穴群(B)の調査により出土した炭化材19点の樹種同定を行った。使用機材は電子顕微鏡(JSM-IT200)である。

##### イ)、興部豊野竪穴群(A)出土礫の産地推定

令和3年度興部豊野竪穴群(A)の調査で大型の板状礫が出土した。遺跡の周囲に同様な礫が見当たらないことから、遠方より遺跡に運び込まれたものと考えられる。情報収集の結果、比較的隣に位置する2か所の火成岩がその供給源の候補となることがわかった。1か所は、興部町沙留岬の玄武岩、他方は雄武町日の出岬に顕著な紫蘇輝石普通輝石安山岩である。この両者と遺跡出土板状礫の薄片を作成して比較検討を行った。結果、出土板状礫は雄武町日の出岬の安山岩と多くの特徴を共有することがわかった。使用機材は偏光顕微鏡(Nikon ECLIPSE E600pol)及び岩石カッター、卓上研磨機等である。

#### (2) 保存処理

木質遺物・金属製品の温湿度等の維持管理、保存処理に関わる機器類の設置環境整備と維持管理を継続して行っている。

#### (3) 施設保管環境

##### ア、温湿度管理

収蔵品は北海道教育委員会の定める「北海道美々8遺跡出土品」取り扱い指針(平成18年3月31日教育長決定)を遵守し保管管理を行って

いる。収蔵品のうち特別収蔵庫、展示室、展示収蔵庫に保管・展示されるものは、温湿度点検を日に3度行い、良好な収蔵環境の保持に努めている。

特別収蔵庫には重要文化財指定品を含む収蔵品があり、温湿度環境はデジタル式温湿度計2台、温湿度データロガー1台、毛髪自動記録温湿度計2台により記録を行っている。

展示室では、重要文化財指定品は常設ガラスケースと稼働式ガラス免振台に展示される。温湿度環境は展示室全体でデジタル式温湿度計9台、毛髪自動記録温湿度計1台で記録を行っている。

展示収蔵庫はデジタル式1台、毛髪式1台である。これに加え、データロガーによる記録も2か所で行っている。

全て温度20℃、湿度40%を基準としている。測定値が5℃もしくは10%以上の変化があった場合に調整を行っている。

##### イ、保管状況点検

令和元年より一般収蔵庫、機械室にて保管される木製品の一部にカビの発生が認められた。エタノールで拭き取って除去し、殺菌を行った。現在も継続して行っている。

##### ウ、重要文化財について

アに記した温湿度管理を行っている。

### 4 市町村教育委員会支援

#### (1) 指導・協力等

##### ア、恵庭市西島松5遺跡出土コハク玉保存処理指導

経緯：恵庭市教育委員会が保管する、同市西島松5遺跡、土坑墓P-119から出土したコハク玉は、出土から30年が経過しており表面の劣化が著しい状態であった。令和5年6月7日に恵庭市教育委員会教育長より保存処理指導の依頼がありこれを受けたものである。

指導内容：剥落の補修を行った後、コハクの保存処理方法として一般的な、アクリル樹脂(パラロイドB72)をキシレンに溶解したものを用い、含浸(濃度は3%→7%)。

##### イ、恵庭市西島松2遺跡出土鉄製品の保存処理指導

経緯：当センターにおいて保存処理を行った恵庭市西島松2遺跡、土坑墓P262出土の刀子が経年により錆が進行し、再処理が必要な状態であっ

た。令和5年12月27日に恵庭市教育委員会教育長より保存処理指導・助言の依頼がありこれを受けたものである。

**指導内容：**今年度は状態の記録、乾燥状態維持のためのシリカゲル交換、アルコール洗浄。次年度も継続して作業を指示する予定である。

## (2) 令和5年度埋蔵文化財担当職員出前研修会「竪穴建物等復元の実際について(Ⅱ)」

**目的：**文化財保護行政に携わっている市町村職員を対象に、縄文時代・擦文文化期などの竪穴建物等を復元した実例を紹介し、その構造や素材・道具・工法などについての研修を行う。

**講師：**所長 長沼 孝  
 ところ遺跡の森 所長 山田 哲 氏  
 釧路市立博物館 主査 澤田 恭平 氏

**日程：**令和5年9月14日(木)  
 13:00 受付・オリエンテーション  
 13:30 研修1  
 14:10 研修2  
 14:50 休憩  
 15:20 研修3  
 17:30 研修終了

**会場：**北見市ところ遺跡の森  
**内容：**

**研修1：「竪穴建物等復元の実際」(長沼)**  
 講師が建築史と竪穴建物復原に関する概説を行った後、道外の遺跡と道内の遺跡の事例から各参加者が参考にできる竪穴建物等復元について、さまざまな実例を解説した。

【はじめに】

- 1 建築史と竪穴建物復元
  - ・「天地根元(宮)造」
  - ・『鉄山秘書』
  - ・「高殿」
- 2 道外の遺跡から
  - (1)沖縄
  - (2)九州(鹿児島・福岡)
  - (3)関西(奈良)
  - (4)北陸(石川・富山)
  - (5)信越(長野・静岡・新潟)
  - (6)関東(神奈川・東京)
  - (7)南東北(福島)
  - (8)北東北(秋田・岩手・青森)

### 3 道内の遺跡から

- (1)道東
- (2)道南

【おわりに】

**研修2：「常呂町内の竪穴建物等復元の事例」(山田氏)**

常呂町内における竪穴建物等復元の事例について担当者が解説した。

**研修3：「釧路市北斗遺跡の竪穴建物等復元の事例」(澤田氏)**

講義2に続けて、釧路市北斗遺跡における竪穴建物等復元の事例について担当者が解説した。

**参加者：**市町村職員等9名、  
 センター職員2名、計11名



▲令和5年度市町村埋蔵文化財担当職員出前研修会

	名前	振興局	所属
講師	長沼 孝		北海道埋蔵文化財センター理事長
講師	山田 哲		ところ遺跡の森所長
講師	澤田 恭平		釧路市立博物館主査
1	小林 健一	オホーツク	紋別市立博物館
2	佐藤 実佑	オホーツク	紋別市立博物館
3	八重柏 誠	オホーツク	美幌博物館
4	池田 一登	オホーツク	置戸町教育委員会
5	林 勇介	オホーツク	湧別町教育委員会
6	田中 康平	日高	新ひだか町博物館
7	小田島 賢	釧路	厚岸町海事記念館
事務局	倉橋 直孝		北海道埋蔵文化財センター普及活用課長

▲令和5年度市町村埋蔵文化財担当職員出前研修会参加者名簿

### (3) 令和5年度埋蔵文化財担当職員研修会Ⅱ「埋蔵文化財発掘調査の現状と文化財デジタルデータの利活用について」

**目的：**地域の埋蔵文化財についての見識を深めるとともに、発掘調査に携わっている市町村職員を対象に、埋蔵文化財発掘調査の現状と文化財デジタルデータの利活用などについて、専門的な研修を行う。

**講師：**文化庁文化財第二課埋蔵文化財部門  
文化財調査官 大澤 正吾 氏  
奈良文化財研究所企画調整部文化財情報研究室主任研究員 高田 祐一 氏

**日程：**令和5年12月15日（金）

10：00 受付開始  
10：20 オリエンテーション  
10：30 研修1  
12：00 昼食休憩  
13：20 研修2  
14：30 休憩  
14：50 研修3  
16：30 質疑応答  
17：00 研修終了

**会場：**北海道立埋蔵文化財センター2階研修室内  
**内容：**

**研修1：**「講義：埋蔵文化財保護行政の現状と課題」（大澤氏）

講師が全国埋蔵文化財担当職員研修会の際、解説をしている近年の埋蔵文化財保護行政の現状と課題について、わかりやすく説明した。

#### 埋蔵文化財をとりまく環境

- ・自然・社会
- ・埋蔵文化財関係統計資料に見る人材・費用
- ・埋蔵文化財関係補助金の動向

#### 近年の埋蔵文化財保護行政の取組

- (1)『これからの埋蔵文化財保護の在り方について（第1次報告書）』を受けての取組
  - A. 指定相当の埋蔵文化財のリスト化
  - B. 新技術導入に関する調査研究事業
  - C. 近世・近代の埋蔵文化財の保護について

#### 埋蔵文化財の活用—適切な保存を前提として

**研修2：**「講義：全国遺跡報告総覧および文化財デジタルデータの利活用について」（高田氏）

講師による文化財調査における記録の迅速化と、デジタルデータの利活用についての概説後、モバイルスキャン（LiDAR）・SfM/MVS・RTK-

GNSS・ドローン・QGIS・3Dデータ公開基盤等について、紹介があった。

- 1 ポリシーと最近の動向
- 2 個人的に思っていること
- 3 問題意識
- 4 踏査の迅速化① 航空レーザー測量の活用
- 5 踏査の迅速化② UAV-LiDAR
- 6 文化財調査における記録の迅速化
- 7 UAV-フォトグラメトリ
- 8 水中 SUP×サイドスキャンソナー
- 9 モバイルスキャン LiDAR
- 10 【記録】モバイルスキャンで3D記録+位置測定 RTK-GNSS
- 11 モバイルスキャンのメリット
- 12 データの流れ
- 13 データフォーマットの選択
- 14 奈文研事例：高田氏
- 15 阿蘇市事例：宮本氏
- 16 厚沢部町事例：石井氏
- 17 3D公開基盤：Sketchfab
- 18 3D公開基盤：全国文化財情報デジタルツインプラットフォーム
- 19 今後必要となるもの

**研修3：**「ワークショップ：文化財デジタルデータを公開する」（高田氏）

モバイルスキャン等で取得した3Dデータを図化・分析・公開する演習を研修参加者が講師とともに操作を行った。

**参加者：**市町村職員等24名、  
センター職員10名、計34名



▲令和5年度市町村埋蔵文化財担当職員  
研修会

	名 前	振興局	所 属
講師	大澤 正吾		文化庁文化財第二課埋蔵文化財部門文化財調査官
講師	高田 祐一		奈良文化財研究所企画調整部主任研究員
1	村本 周三		北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課文化財調査係
2	柏木 大延	石狩	札幌市埋蔵文化財センター
3	和田由希絵	石狩	千歳市教育委員会埋蔵文化財センター
4	鈴木 将太	石狩	恵庭市郷土資料館
5	西川 萌	渡島	松前町教育委員会
6	小峰 彩椰	桧山	江差町教育委員会
7	佐藤 貢平	桧山	上ノ国町教育委員会
8	石井 淳平	桧山	厚沢部町教育委員会
9	矢原 史希	桧山	今金町教育委員会
10	柴野 初音	後志	小樽市総合博物館
11	高橋 美鈴	後志	余市水産博物館
12	中塚 凧沙	後志	余市水産博物館
13	山口 大輔	空知	星の降る里百年記念館
14	林 勇介	オホーツク	湧別町教育委員会
15	岩波 連	胆振	苫小牧市美術博物館
16	岡本 直樹	胆振	苫小牧市美術博物館
17	菅野 修広	胆振	登別市教育委員会
18	大西 勇人	胆振	伊達市役所教育部生涯学習課文化財係
19	田中 康平	日高	新ひだか町博物館
20	吉村 光雄	十勝	本別町教育委員会
21	小田島 賢	釧路	厚岸町海事記念館
22	片岡 佑平	釧路	弟子屈町教育委員会
23	長沼 孝		北海道埋蔵文化財センター理事長
24	中山 昭大		北海道埋蔵文化財センター1部1課長
25	袖岡 淳子		北海道埋蔵文化財センター主査
26	富永 勝也		北海道埋蔵文化財センター主査
27	福井 淳一		北海道埋蔵文化財センター主査
28	柳瀬 由佳		北海道埋蔵文化財センター主査
29	酒井 秀治		北海道埋蔵文化財センター主査
30	鈴木 宏行		北海道埋蔵文化財センター2部1課長
31	吉田裕吏洋		北海道埋蔵文化財センター主査
事務局	倉橋 直孝		北海道埋蔵文化財センター普及活用課長

▲令和5年度市町村埋蔵文化財担当職員  
研修会参加者名簿

### Ⅲ 収蔵・保管事業

#### 1 収蔵資料

出土文化財を北海道出土文化財取扱要領（平成13年4月11日付け教育長・出納長通知）等に則して保管し、いつでも活用できるよう管理を行い、整理作業を進めている。

	シリーズ名称	発行年度	報告書名	所在地	遺跡名	掲載遺物 コンテナ数	その他 コンテナ数	復元土器 個体数	
1	道教委	1	昭和52 1977	美沢川流域の遺跡群Ⅰ	千歳市	美々4	5	140	1
2	道教委	1	昭和52 1977	美沢川流域の遺跡群Ⅰ	千歳市	美々5	1	1	0
3	道教委	3	昭和54 1979	美沢川流域の遺跡群Ⅲ	千歳市	美々4	3	152	15
4	道教委	3	昭和54 1979	美沢川流域の遺跡群Ⅲ	千歳市	美々5	11	74	0
5	道教委	3	昭和54 1979	美沢川流域の遺跡群Ⅲ	千歳市	美々6	2	13	0
6	道教委	3	昭和54 1979	美沢川流域の遺跡群Ⅲ	千歳市	美々7	7	42	0
7	北埋調報	3	昭和55 1980	美沢川流域の遺跡群Ⅳ	千歳市	美々4	6	365	108
8	北埋調報	3	昭和55 1980	美沢川流域の遺跡群Ⅳ	千歳市	美々5	3	50	5
9	北埋調報	3	昭和55 1980	美沢川流域の遺跡群Ⅳ	千歳市	美々6	2	16	3
10	北埋調報	3	昭和55 1980	美沢川流域の遺跡群Ⅳ	千歳市	美々7	1	4	3
11	北埋調報	7	昭和56 1981	美沢川流域の遺跡群Ⅴ	千歳市	美々8	1	91	117
12	北埋調報	8	昭和57 1982	美沢川流域の遺跡群Ⅵ	千歳市	美々8	1	5	9
13	北埋調報	9	昭和57 1982	ママチ遺跡	千歳市	ママチ	9	161	73
14	北埋調報	14	昭和58 1983	美沢川流域の遺跡群Ⅶ	千歳市	美々4	9	166	143
15	北埋調報	14	昭和58 1983	美沢川流域の遺跡群Ⅶ	千歳市	美々9	1	2	4
16	北埋調報	17	昭和59 1984	美沢川流域の遺跡群Ⅷ	千歳市	美々4	3	33	32
17	北埋調報	17	昭和59 1984	美沢川流域の遺跡群Ⅷ	千歳市	美々5	1	5	0
18	北埋調報	24	昭和60 1985	美沢川流域の遺跡群Ⅸ	千歳市	美々2	9	53	4
19	北埋調報	24	昭和60 1985	美沢川流域の遺跡群Ⅸ	千歳市	美々4	5	57	0
20	北埋調報	24	昭和60 1985	美沢川流域の遺跡群Ⅸ	千歳市	美々8	1	7	5
21	北埋調報	35	昭和61 1986	美沢川流域の遺跡群Ⅹ	千歳市	美々3	2	13	4
22	北埋調報	36	昭和61 1986	ママチ遺跡Ⅲ	千歳市	ママチ	8	84	75
23	北埋調報	44	昭和62 1987	美沢川流域の遺跡群ⅩⅠ	千歳市	美々8	2	42	27
24	北埋調報	62	平成1 1989	美沢川流域の遺跡群ⅩⅢ	千歳市	美々3	2	39	7
25	北埋調報	62	平成1 1989	美沢川流域の遺跡群ⅩⅢ	千歳市	美々8	1	42	72
26	北埋調報	69	平成2 1990	美沢川流域の遺跡群ⅩⅣ	千歳市	美々3	14	134	34
27	北埋調報	69	平成2 1990	美沢川流域の遺跡群ⅩⅣ	千歳市	美々8低湿部	0	0	0
28	北埋調報	77	平成3 1991	美沢川流域の遺跡群ⅩⅤ	千歳市	美々3	4	10	31
29	北埋調報	77	平成3 1991	美沢川流域の遺跡群ⅩⅤ	千歳市	美々7	3	14	12
30	北埋調報	77	平成3 1991	美沢川流域の遺跡群ⅩⅤ	千歳市	美々8	3	37	16
31	北埋調報	77	平成3 1991	美沢川流域の遺跡群ⅩⅤ	千歳市	美々8低湿部	1	0	2
32	北埋調報	83	平成4 1992	美沢川流域の遺跡群ⅩⅥ	千歳市	美々7	3	11	7
33	北埋調報	83	平成4 1992	美沢川流域の遺跡群ⅩⅥ	千歳市	美々8	2	59	72
34	北埋調報	83	平成4 1992	美沢川流域の遺跡群ⅩⅥ	千歳市	美々8低湿部	1	0	1
35	北埋調報	86	平成5 1993	ユカンボシC2遺跡	千歳市	ユカンボシC2	4	24	14
36	北埋調報	89	平成5 1993	美沢川流域の遺跡群ⅩⅦ	千歳市	美々8	1	0	84
37	北埋調報	90	平成5 1993	オサットー1・キウス7遺跡	千歳市	オサットー1	1	0	0
38	北埋調報	90	平成5 1993	オサットー1・キウス7遺跡	千歳市	キウス7	4	14	13
39	北埋調報	92	平成6 1994	キウス5・7(2)・ケネフチ8遺跡	千歳市	キウス5	9	33	12
40	北埋調報	92	平成6 1994	キウス5・7(2)・ケネフチ8遺跡	千歳市	キウス7	1	5	7
41	北埋調報	92	平成6 1994	キウス5・7(2)・ケネフチ8遺跡	千歳市	ケネフチ8	1	5	0
42	北埋調報	96	平成6 1994	オサツ2・14遺跡	千歳市	オサツ2	4	20	117
43	北埋調報	96	平成6 1994	オサツ2・14遺跡	千歳市	オサツ14	7	31	16
44	北埋調報	100	平成7 1995	ユカンボシC9遺跡	千歳市	ユカンボシC9	3	25	33
45	北埋調報	102	平成7 1995	美沢川流域の遺跡群ⅩⅧ	千歳市	美々8	0	0	14
46	北埋調報	102	平成7 1995	美沢川流域の遺跡群ⅩⅧ	千歳市	美々8低湿部	2	168	10
47	北埋調報	103	平成7 1995	オサツ2遺跡(2)	千歳市	オサツ2	5	0	30
48	北埋調報	104	平成7 1995	キウス5遺跡(2)	千歳市	キウス5	9	89	18
49	北埋調報	105	平成7 1995	キウス7遺跡(3)	千歳市	キウス7	15	97	110
50	北埋調報	113	平成8 1996	美沢川流域の遺跡群ⅩⅨ	千歳市	美々4	12	343	229
51	北埋調報	114	平成8 1996	美沢川流域の遺跡群ⅩⅩ	千歳市	美々8低湿部	1	0	0
52	北埋調報	115	平成8 1996	キウス5遺跡(3)	千歳市	キウス5	17	113	254
53	北埋調報	116	平成8 1996	キウス5遺跡(4)B・C地区	千歳市	キウス5	9	24	17
54	北埋調報	117	平成8 1996	キウス7遺跡(4)	千歳市	キウス7	8	29	0
55	北埋調報	119	平成8 1996	キウス4遺跡	千歳市	キウス4	4	37	1
56	北埋調報	124	平成9 1997	キウス4遺跡(2)	千歳市	キウス4	24	377	121
57	北埋調報	125	平成9 1997	キウス5遺跡(5)A2地区	千歳市	キウス5	11	151	159
58	北埋調報	126	平成9 1997	キウス5遺跡(6)B・C地区	千歳市	キウス5	4	46	1
59	北埋調報	127	平成9 1997	キウス7遺跡(5)	千歳市	キウス7	6	16	5
60	北埋調報	128	平成9 1997	ユカンボシC15遺跡(1)	千歳市	ユカンボシC15	3	36	81
61	北埋調報	133	平成10 1998	ユカンボシC15遺跡(2)	千歳市	ユカンボシC15	14	283	63
62	北埋調報	134	平成10 1998	キウス4遺跡(3)AHKI地区	千歳市	キウス4	42	302	234
63	北埋調報	135	平成10 1998	キウス4遺跡(4)A2地区	千歳市	キウス4	5	39	14
64	北埋調報	136	平成10 1998	キウス5(7) キウス7(6)遺跡	千歳市	キウス5	1	0	0
65	北埋調報	136	平成10 1998	キウス5(7) キウス7(6)遺跡	千歳市	キウス7	1	1	0
66	北埋調報	138	平成11 1999	柏台1遺跡	千歳市	柏台1	26	22	0
67	北埋調報	144	平成11 1999	キウス4遺跡(5)	千歳市	キウス4	11	33	40
68	北埋調報	146	平成11 1999	ユカンボシC15遺跡(3)	千歳市	ユカンボシC15	1	46	14
69	北埋調報	147	平成11 1999	対雁2遺跡(1)	江別市	対雁2	2	42	14
70	北埋調報	148	平成11 1999	キウス4遺跡(6)	千歳市	キウス4	7	16	2

	シリーズ名称	発行年度	報告書名	所在地	遺跡名	掲載遺物 コンテナ数	その他 コンテナ数	復元土器 個体数	
71	北埋調報 152	平成12	2000	キウス4遺跡(7)	千歳市	キウス4	18	109	45
72	北埋調報 157	平成12	2000	キウス4遺跡(8)	千歳市	キウス4	49	519	380
73	北埋調報 159	平成12	2000	ユカンボシC15遺跡(4)	千歳市	ユカンボシC15	1	1	3
74	北埋調報 160	平成12	2000	対雁2遺跡(2)	江別市	対雁2	5	32	41
75	北埋調報 173	平成13	2001	チブニー1・チブニー2遺跡	千歳市	チブニー1	4	14	33
76	北埋調報 173	平成13	2001	チブニー1・チブニー2遺跡	千歳市	チブニー2	1	5	0
77	北埋調報 174	平成13	2001	ケネフチ9遺跡	千歳市	ケネフチ9	2	10	1
78	北埋調報 176	平成13	2001	ユカンボシC15遺跡(5)	千歳市	ユカンボシC15	0	0	0
79	北埋調報 177	平成13	2001	対雁2遺跡(3)	江別市	対雁2	1	6	69
80	北埋調報 180	平成14	2002	キウス4遺跡(9)	千歳市	キウス4	90	1623	696
81	北埋調報 187	平成14	2002	キウス4遺跡(10)	千歳市	キウス4	0	0	0
82	北埋調報 188	平成14	2002	オルイカ1遺跡	千歳市	オルイカ1	2	32	2
83	北埋調報 189	平成14	2002	オルイカ2遺跡	千歳市	オルイカ2	5	17	4
84	北埋調報 192	平成14	2002	ユカンボシC15遺跡(6)	千歳市	ユカンボシC15	0	59	0
85	北埋調報 193	平成14	2002	対雁2遺跡(4)	江別市	対雁2	41	81	36
86	北埋調報 204	平成15	2003	対雁2遺跡(5)	江別市	対雁2	3	5	11
87	北埋調報 206	平成15	2003	オルイカ1遺跡(2)	千歳市	オルイカ1	1	2	2
88	北埋調報 207	平成15	2003	チブニー2遺跡(2)	千歳市	チブニー2	2	12	12
89	北埋調報 215	平成16	2004	対雁2遺跡(6)	江別市	対雁2	0	1	0
90	北埋調報 221	平成17	2005	オルイカ2遺跡(2)	千歳市	オルイカ2	23	34	10
91	北埋調報 225	平成17	2005	チブニー2遺跡(3)	千歳市	チブニー2	31	7	27
92	北埋調報 226	平成17	2005	対雁2遺跡(7)	江別市	対雁2	16	38	41
93	北埋調報 231	平成18	2006	対雁2遺跡(8)	江別市	対雁2	33	49	429
94	北埋調報 238	平成18	2006	祝梅川上田遺跡・梅川2遺跡	千歳市	梅川2	3	5	6
95	北埋調報 238	平成18	2006	祝梅川上田遺跡・梅川2遺跡	千歳市	祝梅川上田	5	9	4
96	北埋調報 240	平成18	2006	対雁2遺跡(9)	江別市	対雁2	13	14	22
97	北埋調報 251	平成19	2007	キウス5遺跡(8)	千歳市	キウス5	3	17	10
98	北埋調報 252	平成19	2007	キウス9遺跡	千歳市	キウス9	13	49	181
99	北埋調報 253	平成20	2008	梅川4遺跡(1)	千歳市	梅川4	8	20	51
100	北埋調報 255	平成19	2007	対雁2遺跡(10)	江別市	対雁2	1	2	4
101	北埋調報 267	平成21	2009	オルイカ2遺跡(3)	千歳市	オルイカ2	3	6	53
102	北埋調報 268	平成21	2009	アンカリトロー7・9遺跡	千歳市	アンカリトロー7	3	10	3
103	北埋調報 268	平成21	2009	アンカリトロー7・9遺跡	千歳市	アンカリトロー9	8	1	0
104	北埋調報 269	平成21	2009	梅川4遺跡(2)	千歳市	梅川4	8	57	20
105	北埋調報 284	平成23	2011	キウス5遺跡(9)	千歳市	キウス5	5	22	134
106	北埋調報 285	平成23	2011	祝梅川小野遺跡(1)梅川1遺跡(1)	千歳市	祝梅川小野	31	180	81
107	北埋調報 285	平成23	2011	祝梅川小野遺跡(1)梅川1遺跡(1)	千歳市	梅川1		2	2
108	北埋調報 296	平成24	2012	対雁2遺跡(11)	江別市	対雁2	18	85	101
109	北埋調報 297	平成24	2012	祝梅川小野遺跡(2)梅川1遺跡(2)	千歳市	祝梅川小野	7		54
110	北埋調報 297	平成24	2012	祝梅川小野遺跡(2)梅川1遺跡(2)	千歳市	梅川1	1	27	3
111	北埋調報 299	平成24	2012	キウス5遺跡(10)	千歳市	キウス5	30	112	56
112	北埋調報 300	平成24	2012	祝梅川上田遺跡(2)	千歳市	祝梅川上田	5	30	13
113	北埋調報 306	平成25	2013	梅川4遺跡(3)	千歳市	梅川4	55	201	183
114	北埋調報 307	平成25	2013	祝梅川小野遺跡(3)梅川1遺跡(3)	千歳市	祝梅川小野	2	8	0
115	北埋調報 307	平成25	2013	祝梅川小野遺跡(3)梅川1遺跡(3)	千歳市	梅川1	35	108	0
116	北埋調報 323	平成27	2015	キウス3遺跡(1)11遺跡(1)	千歳市	キウス3	2	3	8
117	北埋調報 323	平成27	2015	キウス3遺跡(1)11遺跡(1)	千歳市	キウス11	13	33	36
118	北埋調報 348	平成29	2017	トブシナイ2遺跡・イカベツ2遺跡	千歳市	トブシナイ2	12	93	29
119	北埋調報 348	平成29	2017	トブシナイ2遺跡・イカベツ2遺跡	千歳市	イカベツ2	7	103	25
120	北埋調報 349	平成29	2017	根志越5遺跡	千歳市	根志越5	16	92	13

(道教委・道埋文センター発掘調査分)					合 計	1037	8334	5543
--------------------	--	--	--	--	-----	------	------	------

1	保第 2	平成7	1995	ボンオサツ・ケネフチ5	千歳市	ボンオサツ	2	1	18
2	保第 2	平成7	1995	ボンオサツ・ケネフチ5	千歳市	ケネフチ5	5	42	0
3	保第 3	平成7	1995	オサツ15・16・18	千歳市	オサツ15	1	14	1
4	保第 3	平成7	1995	オサツ15・16・18	千歳市	オサツ16	4	44	14
5	保第 3	平成7	1995	オサツ15・16・18	千歳市	オサツ18	1	1	0
6	保第 5	平成8	1996	ボンオサツ(2)・オサツ18(2)・ケネフチ5(2)	千歳市	ボンオサツ	1	1	0
7	保第 5	平成8	1996	ボンオサツ(2)・オサツ18(2)・ケネフチ5(2)	千歳市	オサツ18	1	1	8
8	保第 5	平成8	1996	ボンオサツ(2)・オサツ18(2)・ケネフチ5(2)	千歳市	ケネフチ5	5	14	2
9	保第 6	平成8	1996	オサツ15(2)	千歳市	オサツ15	5	47	7
10	保第 7	平成8	1996	オサツ16(2)	千歳市	オサツ16	13	28	8
11	保第 8	平成9	1997	オサツ15(3)	千歳市	オサツ15	6	26	4
12	保第 9	平成9	1997	オサツ16(3)	千歳市	オサツ16	2	14	0
13	保第 10	平成9	1997	ケネフチ5(3)	千歳市	ケネフチ5	11	68	23

(保護協会発掘調査分)					合 計	57	301	85
-------------	--	--	--	--	-----	----	-----	----

総 合 計						1094	8635	5628
-------	--	--	--	--	--	------	------	------

## 2 図書資料

### (1) 購入図書一覧

	書名	編著者	出版社
1	アイヌ文化史辞典		吉川弘文館
2	アイヌもやもや 一見えない化されている「わたしたち」と、そこにふれてはいけない気がしてしまう「わたしたち」の。ー	北原モコットウナシ/田房永子	303 BOOKS
3	アイヌ民族と日本人		吉川弘文館
4	掘るだけなら掘らんでも良い話	藤森栄一	新泉社
5	何が歴史を動かしたか 第Ⅰ巻 自然史と旧石器・縄文考古学	春成秀爾	雄山閣
6	何が歴史を動かしたか 第Ⅱ巻 弥生文化と世界の考古学	春成秀爾	雄山閣
7	何が歴史を動かしたか 第Ⅲ巻 古墳・モニュメントと歴史考古学	春成秀爾	雄山閣
8	復元イラストでみる！人類の進化と旧石器・縄文の暮らし	工藤雄一郎	雄山閣
9	“標本”の発見ー科博コレクションから	国立科学博物館	国書刊行会
10	埋蔵文化財と写真技術 「考古調査ハンドブック 23」	栗山雅夫	ニューサイエンス社
11	縄文時代の生態考古学	山本直人	同成社
12	旧石器狩猟採集民の環境適応史	小原俊行	同成社
13	学芸員の観察日記	滝登くらげ	吉川弘文館
14	古代ゲノムから見たサピエンス史	太田博樹	吉川弘文館
15	明治の地方ビール ー全国醸造所・銘柄総覧ー	牛込 努	吉川弘文館
16	疫病の古代史 ー天災・人災・そしてー 「歴史文化ライブラリー573」	本庄総子	吉川弘文館
17	増補改訂版 猫の日本史 ー猫と日本人がつむいだ千年のものがたりー	桐野作人・吉門裕	吉川弘文館

(2) 受領刊行物一覧（令和5年3月1日から令和6年2月28日受領分）

	[北海道]
	国立アイヌ民族博物館
1	国立アイヌ民族博物館ニュースレター アヌアヌ ANUANU Vol.014
	北海道大学総合博物館
2	北海道大学総合博物館ニュース 46号 July 2023
3	北海道大学総合博物館ニュース 47号 January 2024
	北海道大学社会共創部広報課
4	Vol.70/2023 LITTERAE POPULI 北海道大学の今を伝える広報誌、リテラポブリ
5	Vol.71/2023 LITTERAE POPULI 北海道大学の今を伝える広報誌、リテラポブリ
	教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課
6	アイヌ民族文化財ユーカラシリーズ71 金成マツ筆録 アイヌ叙事詩 メナシサムの厚司メナシサムの帽子(2) 蓮池悦子 訳
7	アイヌ民族文化財ユーカラシリーズ72 金成マツ筆録 アイヌ叙事詩 笹伏せ(1) 萱野志朗 訳
8	アイヌ民族文化財ユーカラシリーズ73 金成マツ筆録 アイヌ叙事詩 女性叙事詩 小島の耳飾り(2) 高橋靖以 訳
9	令和4年度アイヌ民俗文化財調査報告書 アイヌ民俗技術調査14 <生活習慣（食）に関する民俗技術1>
	公益財団法人北海道文学館
10	歿後10年 吉本隆明 廃墟からの出立
11	特別展 細谷源二と齋藤玄 北方詩としての俳句
12	特別展 「地図と文学の素敵な関係」図録
13	北海道文学館 令和3年度 年報
14	特別展 金子みすゞの世界
	札幌市教育委員会
15	市内遺跡発掘調査報告書 15 令和4年度 調査報告書
16	札幌市文化財調査報告書 110 K496遺跡 第2次調査
17	丘珠縄文遺跡年報 4 丘珠縄文遺跡-2021年度活動報告-
	札幌市豊平館
18	国重要文化財 豊平館 情報誌 ウルトラマリンプルー 豊平館 Vol.5
	札幌国際大学縄文世界遺産研究室
19	縄文 年報7 2022年度
	江別市郷土資料館
20	江別市文化財調査報告書 129 西野幌16遺跡
	三笠市立博物館
21	三笠市立博物館紀要 第26号 No.26
22	三笠市立博物館年報 第40号 2021（令和3）年度
	江差町教育委員会
23	令和4年度 開陽丸船体現状確認調査報告書
	美幌博物館
24	美幌町埋蔵文化財各種開発確認調査報告書
	湧別町教育委員会
25	北海道指定史跡 シブノツナイ竪穴住居跡 発掘調査概要報告書（2022年度） 史跡内容確認のための調査
	上士幌町ひがし大雪博物館資料館
26	ひがし大雪自然館研究報告 第10号
27	上士幌町ひがし大雪博物館の図録 第1展示室 上巻 -大雪国立公園の動植物-
	浦幌町立博物館
28	浦幌町立博物館だより 2023（令和5）年3月・4月合併号
29	浦幌町立博物館 紀要 第23号
	公益財団法人北海道新聞野生物質基金
30	モーリー通信 No.2 2023 June
	総合商研株式会社
31	HOKKAIDO MAGAZINE JP01 [ジェイピーゼロワン] 2023 Summer vol.33
	福岡孝
32	ほっかいどう！図解 自然環境&自然災害
	[青森]
	弘前大学人文社会科学部 北日本考古学研究中心
33	JSPS科研費19H01334基盤研究（B）「稲作北限域における農耕化プロセスの研究」（代表 上條信彦）調査研究報告書 若木山麓における弥生時代前半期の研究2 砂沢・湯の沢遺跡発掘調査および昭和33年調査資料の再整理、北東北の土器圧痕調査報告
	[秋田]
	秋田県立博物館
34	秋田県立博物館ニュース MUSEUM NEWS No.176
35	秋田県立博物館ニュース MUSEUM NEWS No.177
36	秋田県立博物館研究報告 第48号
37	秋田県立博物館 年報 令和5年度
	[福島]
	会津若松市教育委員会
38	会津若松市文化財調査報告書第172号 高野地区発掘調査報告書Ⅱ 上高野村前西遺跡 上高野B遺跡
39	会津若松市文化財調査報告書第173号 北会津地区試掘調査報告書 一盃館跡 石田遺跡 堀込遺跡（仮）
	[千葉]
	習志野市教育委員会
40	花咲台遺跡I地点 埋蔵文化財発掘調査報告書
	[東京]
	港区教育委員会事務局教育推進部/図書文化財課文化財係
41	港区立郷土歴史館 館報 -3- 令和3（2021）年度
42	港区立郷土歴史館 研究紀要2
43	港区内近世都市江戸関連遺跡発掘調査報告101 [YM92] 丹波篠山藩青山家屋敷跡遺跡発掘調査報告書
	國學院大學博物館
44	國學院大學博物館 研究報告 第39輯
	明治大学文学部共同研究室
45	駿台史学 第177号
46	駿台史学 第178号
47	駿台史学 第179号
48	駿台史学 第180号
	国際文化財株式会社 東日本支店
49	港区内近世都市江戸関連遺跡発掘調査報告100 [TM087・155] 春桃院跡遺跡・善福寺寺域遺跡発掘調査報告書

	トキオ文化財株式会社
50	東京都 渋谷区 豊沢貝塚第22地点 テイケイトレード株式会社 埋蔵文化財事業部
51	港区内近世都市江戸関連遺跡発掘調査報告98 [TM220] 芝三嶋町屋跡遺跡発掘調査報告書 パリオ・サーヴェイ株式会社
52	港区内近世都市江戸関連遺跡発掘調査報告97 [TM219] 青山御手大工町屋跡遺跡発掘調査報告書 2022
	[神奈川]
	神奈川県教育委員会教育局 生涯学習部文化遺産課
53	神奈川県埋蔵文化財センター 年報34
54	神奈川県 埋蔵文化財調査報告68 令和3年度 神奈川県内埋蔵文化財発掘調査一覧
55	縄文人の環境適応 令和4年度かながわの遺跡展
	公益財団法人かながわ考古学財団
56	かながわ考古学財団調査報告333 上粕屋・秋山上遺跡第2次調査 新東名高速道路(伊勢原市秋山地区)建設事業に伴う発掘調査
57	かながわ考古学財団調査報告334 粟窪・林遺跡 粟窪・林台遺跡 粟窪・四石田遺跡 新東名高速道路(伊勢原市粟窪地区)建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査 第1分冊
58	かながわ考古学財団調査報告334 粟窪・林遺跡 粟窪・林台遺跡 粟窪・四石田遺跡 新東名高速道路(伊勢原市粟窪地区)建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査 第2分冊
59	かながわ考古学財団調査報告334 粟窪・林遺跡 粟窪・林台遺跡 粟窪・四石田遺跡 新東名高速道路(伊勢原市粟窪地区)建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査 第3分冊
60	かながわ考古学財団調査報告335 菖蒲平遺跡 新東名高速道路(秦野市菖蒲地区)建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
61	かながわ考古学財団調査報告338 河村新城跡 新東名高速道路(山北町区間)建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査 第1分冊
62	かながわ考古学財団調査報告338 河村新城跡 新東名高速道路(山北町区間)建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査 第2分冊
63	Kanagawa Archaeology Foundation 考古学財団30年史 公益財団法人かながわ考古学財団 設立30周年記念誌
64	研究紀要 28 かながわの考古学
65	年報29 令和3年度
	横浜市歴史博物館
66	横浜歴史館 News No.54 2023.4
67	横浜歴史館 News No.55 2023.8
	株式会社 アーク・ワールドワークシステム
72	神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書 98 諏訪前A遺跡第17地点 七ノ域遺跡第12地点 都市計画道路3・3・6号湘南新道街路整備事業に伴う発掘調査
	株式会社 イビソク
73	鎌倉市藤塚西やぐら群 一鎌倉市寺分字藤塚460番2地点-
	玉川文化財研究所
68	神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書97 三田林根遺跡第4地点 県道42号(藤沢座間厚木)道路改良工事に伴う発掘調査
69	神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書99 河原口坊中遺跡第12次調査 一級河川相模川河川改修工事に伴う発掘調査 第1分冊
70	神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書99 河原口坊中遺跡第12次調査 一級河川相模川河川改修工事に伴う発掘調査 第2分冊
71	神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書100 新道遺跡第2次調査 都市計画道路 丸子中茶ヶ崎嶺街路整備事業に伴う発掘調査
	[新潟]
	新潟市文化スポーツ部歴史文化課
74	曾我墓所遺跡 第2・3次調査 一横越排水区雨水調整池築造工事に伴う曾我墓所遺跡第2・3次発掘調査報告書-
75	新潟市文化財センター年報 第10号 令和3(2021)年度版-
76	原遺跡第10・11次調査 -2018年度個人住宅建設に伴う原遺跡第2次発掘調査報告書- -2020年度個人住宅建設に伴う原遺跡第1次発掘調査報告書-
77	平遺跡Ⅱ 第9次調査 個人住宅建設に伴う平遺跡第9次発掘調査報告書-
78	程島館跡 第7・9次調査 個人住宅建設に伴う程島館跡第7.9次発掘調査報告書-
	[福井]
	福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館
79	特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡51 令和3年度発掘調査・環境整備事業概報
80	一乗谷朝倉氏遺跡発掘調査報告 第150次調査 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館建設に伴う発掘調査
81	一乗谷朝倉氏遺跡発掘調査報告21 第63・112・113・114・118・128・137・143次調査
82	福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館 要覧
83	福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館 ガイドブック
	[山梨]
	山梨県立考古博物館
84	山梨県立考古博物館だより No.95
85	山梨県立考古博物館だより No.96
86	開館40周年記念特別展 星降る中部高地の縄文世界 黒曜石ネットワークによる物流と人流
	南アルプス市教育委員会
87	2023年 南アルプス市ふるさと文化伝承館テーマ展 かつて牧場があった!南アルプス山麓の古代牧
88	南アルプス市ふるさと文化伝承館テーマ展 にしごおり果物のキセキ
89	南アルプス市埋蔵文化財調査報告書 第70集 山梨県南アルプス市 前御勅使川堤防址群(韮崎南アルプス中央線道路地点)主要地方道韮崎南アルプス中央線(旭・有野バイパス)道路事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
90	南アルプス市埋蔵文化財調査報告書 第71集 山梨県南アルプス市 野牛島・畑返遺跡 県営畑地帯総合整備事業八田西部地区2工区区画整理工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
91	南アルプス市埋蔵文化財調査報告書 第72集 山梨県南アルプス市 令和3年度埋蔵文化財試掘調査報告書 各種開発工事に伴う埋蔵文化財試掘調査報告書
	[長野]
	明治大学黒曜石研究センター
92	「自然首都・只見」学術調査研究助成金事業 東日本地域におけるトチの実食 ～只見町を中心とした南会津地域の特徴とアク抜き調査事例の集成～
	[岐阜]
	養老町教育委員会
93	養老町埋蔵文化財調査報告書 第12集 千人塚1号古墳発掘調査報告書
	[三重]
	三重県埋蔵文化財センター
94	三重県埋蔵文化財調査報告411 朝見遺跡(第7・8・9次)発掘調査報告
95	三重県埋蔵文化財調査報告412 戸隠遺跡発掘調査報告～鈴鹿市徳田町～
96	三重県埋蔵文化財調査報告413 深田古墳群 深田遺跡(第2次・3次) 双ツ塚西方遺跡 中島遺跡 双ツ塚遺跡(第3次) 金沢川遺跡(第1・2次) 発掘調査報告～鈴鹿市東玉垣町・柳町・岸岡町所在～
97	三重県埋蔵文化財調査報告414 上野城跡(第15次)発掘調査報告(藤堂玄蕃屋敷跡) -伊賀市上野丸之内-
98	三重県埋蔵文化財調査報告415 一般国道42号熊野道路建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告
99	令和4年度 三重県埋蔵文化財年報
	[滋賀県]
	滋賀県文化スポーツ部文化財保護課
100	日野徳原線道路整備工事に伴う発掘調査報告書 番場遺跡・播沢遺跡 蒲生郡日野町三十坪・内池

101	名神高速道路(特定更新等)多賀地区車線拡幅工事に伴う発掘調査報告書	土田遺跡	犬上郡多賀町土田	
102	一般国道8号米原バイパス建設工事に伴う発掘調査報告書5	矢倉川遺跡	米原市磯・彦根市松原町	
103	近畿自動車道名古屋神戸線(天津~城陽)建設事業に伴う発掘調査報告書2	椿谷遺跡	大津市枝三丁目	
	大津市埋蔵文化財調査センター			
104	大津市埋蔵文化財調査報告書(150)埋蔵文化財発掘調査集報IX	平津池ノ下遺跡	南滋賀遺跡	大津城跡
105	大津市埋蔵文化財調査報告書(160)坂本城跡出土瓦の再整理			
106	大津市埋蔵文化財調査報告書(165)上高砂遺跡発掘調査報告書			
	守山市教育委員会			
107	下之郷遺跡確認調査報告書XIII -第91次調査報告書-			
108	守山市文化財調査報告書 令和3年度国庫補助対象遺跡発掘調査報告書			
	公益財団法人 栗東市スポーツ協会			
109	古代の郡役所と豪族 栗太郎衛門遺跡発掘35年			
110	栗東歴史文化資産3 東海道と中山道			
111	栗東市 話題の発掘調査 はっくつ2022			
112	栗東市埋蔵文化財調査報告 2021年度(令和3)年度 年報			
	[京都]			
	京都府教育委員会			
113	京都府埋蔵文化財調査報告書 令和4年度			
114	矢田遺跡第5・6次発掘調査報告書			
115	京都府歴史の道調査報告書第二冊 大阪街道・高野街道・郡山街道			
116	天平の都・恭仁宮とその時代			
	京都府立山城郷土資料館			
117	令和5年度文化庁京都移転記念特別展図録 南山城の大型円墳とその時代 -金毘羅山古墳を中心に-			
	京都市文化市民局 文化芸術都市推進室文化財保護課			
118	京都市内遺跡試掘調査報告 令和4年度			
119	京都市内遺跡発掘調査報告 令和4年度			
120	京都市内遺跡詳細分布調査報告 令和4年度			
	[大阪]			
	公益財団法人 大阪府文化財センター			
120	公益財団法人 大阪府文化財センター調査報告書 第324集 吹田市 目伎遺跡・吹田操車場遺跡17			
	吹田総合車両所近代化改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書			
121	公益財団法人 大阪府文化財センター調査報告書 第325集 柏原市 大県郡条里遺跡9			
	寝屋川水系改良事業(一級河川恩智川法善寺多目的遊水地)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書			
122	公益財団法人 大阪府文化財センター調査報告書 第326集 高槻市 梶原南遺跡2			
	高速自動車国道近畿自動車道名古屋神戸線建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書			
123	公益財団法人 大阪府文化財センター調査報告書 第327集 柏原市 大県郡条里遺跡10・山ノ井遺跡4			
	寝屋川水系改良事業(一級河川恩智川法善寺多目的遊水地)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書			
124	日本民家集落博物館 信濃秋山の民家(旧山田家住宅) 保存修理工事(令和二・三年度)竣工記念写真集			
125	50年のあゆみ 公益財団法人 大阪府文化財センター			
126	大阪文化財研究 第55号			
127	大阪文化財研究 第56号			
128	年報 令和3年度			
	堺市文化観光局 文化財課分室			
129	令和3年度 国庫補助事業発掘調査報告書			
130	新修ハンドブック堺の文化財 史跡名勝天然記念物編			
131	堺市文化財調査報告 第53冊 陶器城跡(北村砦跡) 第3・4・5次発掘調査報告			
132	堺市文化財調査報告 第54冊 片蔵遺跡第7次発掘調査報告			
133	堺市文化財調査報告 第55冊 鶴田池東遺跡第7次発掘調査報告			
	岸和田市教育委員会			
134	岸和田市・高石市文化財調査概要1 令和4年度 発掘調査概要			
135	国指定名勝 岸和田城庭園(八陣の庭)景石補修計画書			
136	岸和田城庭園(八陣の庭)保存活用計画			
	門真市市民文化館生涯学習課 歴史資料館			
137	門真市埋蔵文化財発掘調査報告書 第12集 門真市 元町遺跡Ⅱ(仮称)パナソニック株式会社西三荘駅前ビル計画に伴う発掘調査報告書			
138	門真市埋蔵文化財発掘調査報告書 第13集 門真市 西三荘遺跡Ⅱ(仮称)パナソニックホールディングス株式会社技術部門西門真新棟計画に伴う発掘調査報告書			
	[奈良]			
	森田成男			
139	日本語文法、ヲシテ文献のアワウタノアヤ、万葉集、八雲御抄の、相互関係をさぐる			
140	『ミカサフミ』のコレソフノキサキタツアヤ、ハルミヤノアヤ、ナメコトノアヤの考察			
141	『アメリカス研究』第28号抜刷 「現集団」の動態と「コミュニティの品質」の考察 -『ヲシテ文献(ミカサフミ)』のタカマナルアヤと「コミュニティの品質」、そこから「社会政策の基本」と「移民の病理」を読み解く-			
142	ヲシテ文献の栞 -ファースト・コンタクトのために-			
	[和歌山]			
	公益財団法人 和歌山県文化財センター			
143	公益財団法人 和歌山県文化財センター年報 2022			
144	且来V遺跡・且来VI遺跡-秋月海南線道路改良事業に伴う発掘調査報告書-			
145	尼寺観音寺跡 -県営中山間総合整備事業尼寺地区ほ場整備に伴う発掘調査報告書-			
146	小浦I遺跡・小浦II遺跡跡-中山間総合整備事業小浦地区ほ場整備事業に伴う発掘調査報告書-			
147	新堂遺跡 -一般国道42号有田海南道路建設事業に伴う発掘調査報告書-			
148	入郷遺跡 -町道156・176号線改良工事に伴う発掘調査報告書-			
149	地宝のひびき-和歌山県内文化財調査報告会2022-報告資料集			
	[鳥取]			
	鳥取県地域づくり推進部文化財局とっとり弥生の王国推進課			
150	青谷上寺地遺跡発掘調査研究年報2021			
151	鳥取県鳥取市青谷町 青谷上寺地遺跡16 第18次発掘調査報告書			
	鳥取県埋蔵文化財センター			
152	とっとり考古学フォーラム2021 古代の女性史 -卑弥呼から伊福吉部徳足比売臣まで-講演・討議記録集			
153	鳥取県埋蔵文化財センター調査報告書71 鳥取県鳥取市青谷町 因幡国山陰道跡 -養郷遺跡群・善田傍示ヶ崎遺跡発掘調査報告書-			
154	調査研究紀要 15			
	[鳥根]			
	鳥根県教育庁埋蔵文化財調査センター			
155	ドキ土器 まいぶん 鳥根県の埋蔵文化財情報誌 No.69 2023.08			

	[広島]
	公益財団法人広島県教育事業団
156	公益財団法人広島県教育事業団発掘調査報告書第89集 石鎚権現遺跡E地点 津之郷山守線（福山西環状線）道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
157	公益財団法人広島県教育事業団発掘調査報告書第90集 二才原遺跡 新山府中線道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
	[高知]
	高知県文化生活スポーツ部 歴史文化財課
158	文化財こうち 第9号
	[福岡]
	九州大学大学院人文科学研究院 考古学研究室
159	杵岐原の辻遺跡 -東亜考古学会杵岐原の辻遺跡調査報告書Ⅱ-
160	MIYAMOTO, kazuo. ed. Kyushu University, Fukuoka. Excavations at Avdalai Khyasaa Site
	[長崎]
	長崎原爆資料館内 長崎市被爆継承課
161	長崎原爆遺跡調査報告書（Ⅱ） 山王神社
	[大分]
	佐伯市教育委員会
162	佐伯市文化財調査報告書 第13集 佐伯城下町遺跡 松下家屋敷跡 浅沢家屋敷跡 平成23・24年度大手前再開発事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
	[宮崎]
	宮崎県埋蔵文化財センター
163	宮崎県埋蔵文化財センター年報 第27号 令和4年度（2022）
	[鹿児島]
	鹿児島県立埋蔵文化財センター
164	鹿児島県立埋蔵文化財センター 埋文だより第90号
165	鹿児島県立埋蔵文化財センター 埋文だより第91号

## Ⅳ 普及・啓発事業

### 1 展示公開

#### (1) 常設展示「掘り出された北の歴史」

遺物を素材別にまとめ、その変遷や特徴が分かるようにした「石の道具」「木の道具」「金属の道具」「土の道具」のほか、「遺跡調査と保護活用」「装いところ」「動物とひと」「キウスの縄文ムラ」の8つのテーマを常設展示としていたが、今年度新たに「世界文化遺産北海道・北東北の縄文遺跡群」をテーマとしたパネル・ジオラマ展示を10月以降に加え、全体で9つのテーマでの構成とした。

展示にあたっては、国（文化庁）・函館市・七飯町・北斗市・今金町・木古内町・余市町・夕張市・長沼町・遠軽町・福島町・厚真町・江別市・根室市・苫前町の各教育委員会に、展示品借用についての協力を得た。また、企画展示との関係から、展示室とホールを併用して展示を行っている。

##### 【千歳市ママチ遺跡出土土面展示】

国指定重要文化財の「土面」（国保有、昭和63年6月6日指定）を常設展示している。「土面」は、縄文時代晩期終末のもので、昭和61年に千歳市ママチ遺跡から出土した。土面としては最も北方から出土したものである。

##### 【遺跡調査と保護活用】

北海道の遺跡分布、遺跡の調査や整理作業の実際、遺物の分析・保存処理の方法などについて展示・解説している。

##### 【石の道具】

石は人類が最初に利用した素材の一つである。旧石器時代の石の道具は、石刃技法、細石刃技法などの一次剥離技術が卓越することが大きな特徴で、高度な技術で製作されたことが明らかになっている。人々は氷期の厳しい環境を生き抜くため、移動・遊動生活の中で石器の効率的な生産と消費の形態を発達させたが、その具体的な方法の一つが定型的石器製作である。本テーマでは遠軽町（旧白滝村）白滝遺跡群、千歳市柏台1遺跡、今金町ピリカ遺跡（国指定史跡）、木古内町新道4遺跡出土の石器・接合資料などを展示しており、具体的な製作技術を観察することができる。

縄文時代の石の道具は、森林環境の豊富な資源を利用するため多用途に石器が発達していく。刺突・切断の剥片石器類、木材加工の石斧、製粉の礫石器など用途に応じて適した石材を選び、様々な形の石器が作られた。石器製作技術では押圧剥



▲常設展示（重要文化財 千歳市ママチ遺跡出土土面）

離、研磨、敲打整形が石材特性に応じて選択された。本テーマでは千歳市周辺で出土した縄文時代の石器を中心に展示し、自然環境利用のためどのような石器が使われたのかをパネルと実物でわかりやすく解説している。

また、本コーナーでは縄文人がどのような食べ物を四季折々を通じて獲得していたかを示す「縄文食べものカレンダー」をパネル展示し、併せてその内容を楽しく学べるカレンダーシートとシールを提供している。

##### 【木の道具】

木の道具は人間が生活する上で必需品であったと思われるが、通常の遺跡では殆どの場合腐ってしまい残らない。そのため、低温性遺跡など腐食しにくい状況で出土した木の道具は、当時の人々の生活の様子を大変良く伝えてくれる貴重な資料である。

本コーナーでは千歳市美々8遺跡低温部の擦文文化期・アイヌ文化期の遺物を主体に、千歳市ユカンボシC15遺跡の板綴舟、千歳市キウス4遺跡の縄文時代後期の木槌などを展示している。資料は保存処理を経たうえで展示している。中でも千歳市美々8遺跡低温部出土品は、平成17年6月9日国指定重要文化財に指定されており、その一部を定期的に入れ替えながら常設展示している。

##### 【金属の道具】

金属製品は人工的に抽出された材料によって作られた、人類史上最も新しい道具の一つである。北海道においては刀・刀子・鍋等の金属製品は道外から入ってきた移入品で、これら鉄を主とした道具を手に入れるための交易が、北海道社会を変容させる一つの要因となった。金属製品は腐食しやすい材質であり、資料はすべて保存処理を行って展示をしている。今年度はアイヌ文化期の資料

## 常設展示点数一覧

展 示 場 所 ・ コ ー ナ ー		遺物点数	パネル・レプリカなど	合計点数	
ホール・展示回廊		17	125	142	
常設展示室	受付・導入部分	8	23	31	
	「遺跡調査と保護活用」部分	遺跡調査	5	118	123
		遺物の保存と分析	3	118	121
	「石の道具」部分	旧石器時代の石器	140	19	159
		縄文時代の石器	86	11	97
	「木の道具」部分	縄文時代の木製品	8	14	22
		擦文・アイヌ文化期の木製品	6	32	38
	「金属の道具」部分		12	2	14
	「骨の道具」部分		2	3	5
	「土の道具」部分		306	65	371
	「こころの道具」部分	装いところ	486	5	491
		動物とひと	13	9	22
	「キウスの縄文ムラ」		60	7	67
	「遺跡から見たアイヌ文化」		0	3	3
「世界文化遺産北海道・北東北の縄文遺跡群」		0	15	15	
「新しい時代へ」		17	2	19	
屋 外	エントランスひろば	0	1	1	
	中庭	0	1820	1820	
合 計		1169	2392	3561	

である千歳市キウス5遺跡の鍬先や千歳市祝梅川上田遺跡の鉞、千歳市美々8遺跡の袋状鉄斧などを展示している。

### 【土の道具】

粘土を成形し火で焼き上げた土器は、人類が最初に化学変化を利用して作り上げた道具である。水に強く火にかけられる土器は革命的な調理具であり、食材の利用範囲が大きく拡大し縄文時代の生活に安定をもたらしたと考えられている。土器は人々の生活に深く関わることから、集団のアイデンティティが反映されたとみられ、時代や地域によって器形や施文が様々に変化する。中には機能を超越した形態や美しさが造形されたものもみられ、精神世界の一端も垣間見ることができる。

本コーナーでは縄文時代早期から擦文文化期までの土器を深鉢・甕を主体として通時的に展示

し、北海道内の土器の移り変わりが理解できる様努めている。さらに、道指定重要文化財である八雲町野田生1遺跡出土赤彩注口土器（縄文時代後期）の複製品や長沼町12区B遺跡出土赤彩異形環状土器（長沼町教育委員会所蔵）を展示し、繊細な縄文の工芸技術を紹介している。擦文文化期では紡錘車・土錘など土器以外の土製生活用具についても解説し、土の道具の多様さを紹介している。

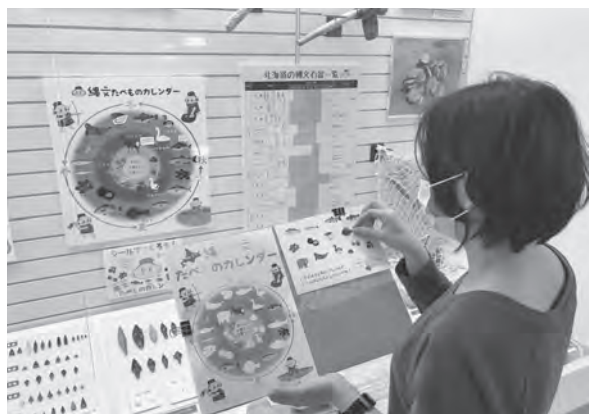
また本コーナーでは土器の特徴を柔らかく表現した子供向けの解説パネルや、土器を型式別に擬人化したキャラクターなどを点在させ、親しみやすい展示も目指している。

### 【こころの道具】

「装いところ」：身を飾った装身具には、ヒスイ製勾玉などの石製の玉類、垂飾、玦状耳飾、粘土を焼いて作られた土玉、土製耳飾などがあり、当時の人々のおしゃれどころを知ることができるほか、社会的な身分を示した威信的性格もみることができる。

また、墓の副葬品は当時の人々の死者に向けられた「こころ」と「評価」が窺える。前者では子供の足形を取った足形付き土版（縄文時代早期）、死者の再生を願って供えられた妊婦の土偶（縄文時代後期）、重要な儀式に用いられたであろう石棒（縄文時代後期）などがあげられる。後者は特定の墓に供えられたヒスイ玉や琥珀玉などの希少品である（縄文時代後期・続縄文文化期）。

本コーナーでは美々4遺跡、キウス4遺跡の資料を中心に、多数の資料を展示した。



▲常設展示 縄文たべものカレンダーとシール体験



▲常設展示 掘り出された北の歴史

【動物とひと】：動物意匠の土器、動物形石製品などは、人と動物とのふれあいを感じさせる。表現された動物たちに、何を感じ、何を求めているのか、当時の人々の自然と向き合う生活の一端を考えさせられる。本コーナーでは江別市対雁2遺跡の動物形土製品（縄文時代晩期）や北斗市茂別遺跡のクマ意匠付き土器（続縄文文化期）の実物資料のほか、国指定重要文化財である千歳市美々4遺跡動物形土製品（縄文時代後期）、羅白町松法川北岸遺跡のクマ形木製容器（オホーツク文化期）などの複製品も展示している。

#### 【キウスの縄文ムラ】

千歳市キウス4遺跡の発掘調査から、周堤墓、盛土遺構、住居跡などをジオラマで復元した。盛土遺構については土層断面の剥ぎ取りや、祭祀に使われたと考えられる赤彩の土器、特殊な形の土器や土製品、玉類、土偶などの出土資料を展示した。

#### 【遺跡から見たアイヌ文化】

小テーマ「コタンについて」では千歳市美々8遺跡のアイヌ文化期の様子を復元したジオラマ「美々ムラ」により遺跡が水上交通の要衝であったことを、小テーマ「チャシについて」では平取町ポロモイチャシとユオイチャシのジオラマによりチャシの立地や景観について、小テーマ「チセについて」では千歳市オリイカ2遺跡で採取したチセの柱穴や炉跡の剥ぎ取りを活用して住居構造などについて、解説した。

#### 【世界文化遺産北海道・北東北の縄文遺跡群】

「世界遺産とは？」及び「北海道・北東北の縄文遺跡群」の二つのテーマに分けてパネルを展示し、前者では世界遺産の種類、世界遺産の意義、登録の基準について、後者では顕著で普遍的な価



▲企画展示 北海道・北東北の縄文遺跡群2

値の内容、シリアル・プロパティの遺産であること、定住の6つのステージの内容について解説を行っている。また定住の6ステージのジオラマを展示し、各ステージの集落の内容と発展の様子が一目で分かる様にしている。

#### 【ビデオコーナー】

遺跡についてわかりやすく解説した『ビビちゃんどフクロウ博士の遺跡ってなーに』『ビビちゃんどフクロウ博士の発掘体験』『ビビちゃんどフクロウ博士の縄文生活体験』などを常時上映している。

#### 【体験コーナー】

火起こし体験コーナー：ひもぎり式、弓ぎり式、まいぎり式による火おこし体験ができる。  
土の道具コーナー：ミニチュア土器・土製耳飾・土偶づくりの他、土器拓本体験ができる。  
石の道具コーナー：滑石を使った石製品づくりを行っている。  
その他：土器のペーパークラフト、砂絵、塗り絵パタパタ絵本づくりが体験できる。

## (2) 企画展示

### ア、北海道・北東北の縄文遺跡群2ーすすめ！ 縄文ワールドー

期 間：令和5年7月8日(土)～9月24日(日)

会 場：常設展示室

目 的：世界文化遺産に登録された北海道・北東北の縄文遺跡群の土地利用や集落の変遷、精神文化を体感的に展示し、世界遺産や縄文文化への関心を高め、理解を深めることを目的とする。

内 容：北海道・北東北の縄文遺跡群では、縄文のムラはどのように変遷（発展）していったのか？、気候の変化に対応しながらどのように自然

を巧く利用して暮らしたのか？、自然と共生しムラを発展させるなかで培われた心の文化はどのようなものか？、「集落展開及び精神文化に関する6つのステージ」に基づき分かりやすく解説する。各ステージでは特徴的な遺構や遺物を「くらし」や「精神文化」を示すものとして展示する。

対象は主に小学校高学年～中学生とし、高校生以上の興味関心も高める内容とする。また分かりやすく記憶に残る展示を目指し、文字は極力排除し、ビジュアルによる伝達を主体とした展示方法を心掛ける。配布物として北海道・北東北の縄文遺跡群の価値を伝えるための絵本を作製する。

#### 【展示小テーマ】

- (1) はじまりの章 世界遺産とは
- (2) 世界遺産になった！ 北海道・北東北の縄文遺跡群
- (3) すすめ！縄文ワールドのはじまり
- (4) ステージⅠa 氷の時代、土器が生まれる
- (5) ステージⅠb 海と森の恵み豊かな世界に！
- (6) ステージⅡa ムラに貝塚が登場！
- (7) ステージⅡb 大拠点ムラあらわる！
- (8) ステージⅢa 小さなムラとストーンサークル！
- (9) ステージⅢb お墓ってだいじだよね！

【展示企画】普及活用課 主査 坂本 尚史

### イ、北海道遺跡百選16-「美々4式」を再考する 縄文時代晩期初頭の土器群-

期 間：令和5年12月2日（土）

～令和6年2月25日（日）

会 場：常設展示室

目 的：昭和51（1976）年に北海道教育委員会により調査された千歳市美々4遺跡、苫小牧市美

沢1遺跡では、マウンドを伴う墳墓群およびその周辺から縄文時代晩期初頭の土器がまとまって出土した。

昭和57（1982）年、林謙作氏はこれらの資料をもとに大洞B式に併行する土器型式として「美々4式」を設定した。「美々4式」は大洞系、類大洞系、非大洞系の3要素で構成され、後期末の御殿山式土器の系譜を引く非大洞系が中核をなすとされた。しかし、その後林謙作氏は「美々4式」を自ら撤回し、その経緯を明らかにせず亡くなってしまった。「美々4式」は報告書に掲載された出土状況が不明瞭で、標式資料が一般に公開されなかったこともあり、長らく幻の土器型式とされてきた。

令和3（2021）年、公益財団法人北海道埋蔵文化財センターにより美々4遺跡の調査が再開され、昭和51年調査範囲に接する北側でマウンドを伴う墳墓（盛土墓）の続きが検出された。これによりマウンドの構造や遺物の層位的な出土状況などが明らかになってきた。

今回は、「美々4式」の標式および関連資料を併せて展示し、晩期初頭の土器群について、最新の知見をもとに解説を行った。

#### 内 容：

##### 1 美々4遺跡の調査

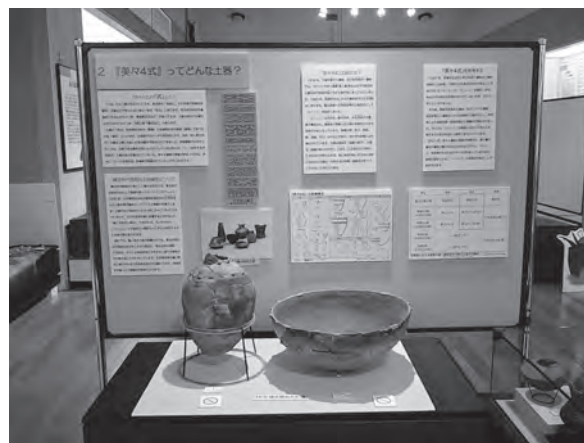
- ・昭和～平成時代の過去の調査の成果
- ・近年の令和3、4年度の調査成果

##### 2 「美々4式」ってどんな土器？

- ・型式設定の経緯、型式の特徴、大洞式土器編年との関係についての説明
- ・昭和51年調査のマウンドを伴う墳墓（盛土墓）とその周辺から出土した縄文時代晩期初頭の土器（「美々4式」土器）を展示



▲企画展示 「美々4式」を再考する



▲「美々4式」を再考する「美々4式」ってどんな土器？

・昭和51年当時の調査状況や検出状況の写真

### 3 「美々4式」土器の仲間たち

・石狩低地帯で出土した当該期の資料を展示

#### 展示資料：

##### 1 千歳市美々4遺跡資料

・盛土墓（M-3・5・6）、土坑（P-313）、包含層出土土器（千歳市教育委員会蔵）

・フクロウ意匠土器、動物形土製品（複製品）、土壙墓P-373土偶など（道立センター蔵）

・盛土墓（M-1）出土の未復元接合土器（令和3年度調査区：公益財団法人北海道埋蔵文化財センターで整理中の遺物）

##### 2 苫小牧市美沢1遺跡資料

・墳墓（M-1・3）、墳墓付近、包含層出土土器（千歳市教育委員会蔵）

##### 3 恵庭市西島松5遺跡資料

・土壙墓（P-395・462・506・508）出土土器（恵庭市教育委員会蔵）

展示点数：90点

【展示企画】普及活用課 主査 芝田 直人

#### ウ、公益財団法人北海道埋蔵文化財センター令和4年度調査成果展

期間：令和5年3月25日（土）～5月28日（日）

会場：常設展示室

目的：公益財団法人北海道埋蔵文化財センターが令和4年度に行った調査成果を紹介する。

内容：出土遺物・写真パネルで発掘調査、整理作業成果の展示を行う。

##### 1 発掘調査成果（パネル展示）

興部町 興部豊野竪穴群（B）

函館市 サルカイ遺跡



▲令和4年度調査成果展

##### 2 発掘調査成果（パネル＋遺物展示）

千歳市 美々4遺跡

縄文時代後期後葉土器・石器等

帯広市 空港南A遺跡

旧石器時代石器

仁木町 モンガクC遺跡

続縄文時代土器・石器等

松前町 福山城下町遺跡

陶磁器・古銭等

【展示企画】第1調査部第1調査課 主査

立田 理

#### エ、北の縄文 世界遺産 北海道・北東北の縄文遺跡群展

会期：通年

（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

目的：令和3年7月に世界遺産となった「北東北・北海道の縄文遺跡群」の内容について、主に写真を用いて紹介する。

展示場所：ホール

【展示遺跡】

北海道：キウス周堤墓群、北黄金貝塚、入江・高砂遺跡、鷺ノ木遺跡（関連資産）、大船遺跡、垣ノ島遺跡

青森県：三内丸山遺跡、小牧野遺跡、是川石器時代遺跡、長七谷地貝塚（関連資料）、亀ヶ岡石器時代遺跡、田小屋野貝塚、二ッ森貝塚、大平山元遺跡、大森勝山遺跡

岩手県：御所野遺跡

秋田県：大湯環状列石、伊勢堂岱遺跡など

【展示企画】普及活用課長 倉橋 直孝



▲北の縄文 世界遺産 北海道・北東北の縄文遺跡群展

## 2 資料の特別利用等

### (1) 特別利用

番号	利用者	利用目的	利用期間	使用方法	利用資料名
1	北海道新聞社編集委員 嵯峨仁朗・カメラマン 植村 佳弘	新聞記事掲載写真の撮影	令和5年 4月10日	閲覧・撮影	八雲町野田生1遺跡出土赤彩土器複製品 1点、キウス4遺跡出土赤彩土器 1点
2	(公財)新潟県埋蔵文化財調査事業団調査課長 荒川 隆史	ヒスイの情報収集および新潟県埋蔵文化財センター所蔵資料の利用方法検討のため	令和5年 5月12日	閲覧・撮影	千歳市美々4遺跡土抗墓群出土ヒスイ製装身具 25点(北埋調報17掲載品)、千歳市キウス4遺跡ヒスイ製装身具 23点(北埋調報134・144・180掲載品)、千歳市ユカンボシC15遺跡木製品 9点(北埋調報159・176掲載品)、千歳市キウス4遺跡木製品 1点(北埋調報180掲載品)
3	北海道大学大学院医学研究院 助教 中沢 祐一	科学研究助成事業「旧石器時代の食料資源究明に関する基礎研究」の調査のため	令和5年 6月7日・ 9日	閲覧・撮影	千歳市柏台1遺跡出土遺物(主に礫群を構成する凝灰岩礫)北埋調報138「千歳市柏台1遺跡」図V-1～図V-63掲載資料
4	国立アイヌ民族博物館 鈴木 健治	国立アイヌ民族博物館令和5年度特別展示における資料選定のため	令和5年 6月12日	閲覧・撮影	千歳市ユカンボシC15遺跡・オルイカ2遺跡出土遺物 北埋調報189「千歳市オルイカ2遺跡掲載資料一式」北埋調報221「千歳市オルイカ2遺跡(2)」掲載資料一式 北埋調報192「ユカンボシC15遺跡」掲載資料木幣(図IV-25 IB2-344、IB2-345、IB3-444) 3点
5	身延山大学仏教学部 講師 保坂 康夫	科学研究助成事業「旧石器時代の食料資源究明に関する基礎研究」の調査のため	令和5年 6月13日	閲覧・撮影	千歳市柏台1遺跡出土遺物(主に礫群を構成する凝灰岩礫)北埋調報138「千歳市柏台1遺跡」礫群構成礫ブロック10凝灰岩礫 89点、北埋調報138「千歳市柏台1遺跡」礫群構成礫ブロック11凝灰岩礫 60点、北埋調報138「千歳市柏台1遺跡」礫群構成礫ブロック13凝灰岩礫 21点
6	北海道大学大学院医学研究院 助教 中沢 祐一	科学研究助成事業「旧石器時代の食料資源究明に関する基礎研究」の調査のため	令和5年 6月13日	閲覧・撮影	千歳市柏台1遺跡出土遺物(主に礫群を構成する凝灰岩礫)北埋調報138「千歳市柏台1遺跡」礫群構成礫ブロック10凝灰岩礫 89点、北埋調報138「千歳市柏台1遺跡」礫群構成礫ブロック11凝灰岩礫 60点、北埋調報138「千歳市柏台1遺跡」礫群構成礫ブロック13凝灰岩礫 21点

番号	利用者	利用目的	利用期間	使用方法	利用資料名
7	(公財) かながわ考古学財団 相良 英樹	かながわ考古学財団が発行する論文(『かながわ考古学財団設立30周年記念論集』かながわ考古学財団研究助成金論文名「ブナ科種子同定方法の開発(3)(仮題)」出版予定日は2024年3月30日)への掲載へ画像およびデータを掲載するため	令和5年 7月2日	閲覧・撮影	千歳市キウス9遺跡コナラ属資料3点(北埋調報第252集掲載品 頁354図版IX-2の26他)、千歳市キウス4遺跡コナラ属資料1点(北埋調報第134集掲載品 頁516と頁520の図版14)
8	京都大学大学院文学研究科博士課程 渡辺 幸奈	土器残存脂質分析を用いた異系統土器の機能と用途復元に関する研究 文部科学省科学研究費変革領域A「土器を掘る」及び計画研究B01「土器の年代と使用法の科学的解明」の若手育成プロジェクト	令和5年 7月18・19日	閲覧・撮影	千歳市キウス4遺跡(北埋119)掲載土器9点、千歳市キウス4遺跡(北埋124)掲載土器197点、千歳市キウス4遺跡(北埋134)掲載土器92点、千歳市キウス4遺跡(北埋144)掲載土器38点、千歳市キウス4遺跡(北埋148)掲載土器13点、千歳市キウス4遺跡(北埋152)掲載土器92点
9	東京都立大学人文社会学部人文学科歴史学・考古学教室助教 岩瀬 彬・公益財団法人山形県埋蔵文化財センター大場 正善	調査研究のため	令和5年 7月24・25日	閲覧・撮影	北埋調報138「千歳市柏台1遺跡」図V-1～図V-63掲載資料
10	東京都立大学人文社会学部人文学科歴史学・考古学教室准教授 出穂 雅実・外国人特別研究員 Nicholas Gala・北海道大学大学院医学研究院助教 中沢 祐一	主に細石刃核の形態分析を実施し、論文を学術雑誌に投稿する	令和5年 7月31日	閲覧・撮影	北埋調報138「千歳市柏台1遺跡」図V-1～図V-63掲載資料、北埋調報189「千歳市オリイカ2遺跡」図VI-9～図VI-17掲載資料、北埋調報221「千歳市オリイカ2遺跡(2)」図VI-16～図VI-69掲載資料
11	北海道大学大学院医学研究院助教 中沢 祐一	調査研究のため	令和5年 8月10日	閲覧・撮影	千歳市アンカリトロー7遺跡出土旧石器資料北埋調報268『千歳市アンカリトロー7遺跡 アンカリトロー9遺跡』図VI-23掲載資料 14点
12	京都大学大学院文学研究科博士課程 渡辺 幸奈	土器残存脂質分析を用いた異系統土器の機能と用途復元に関する研究 文部科学省科学研究費変革領域A「土器を掘る」及び計画研究B01「土器の年代と使用法の科学的解明」の若手育成プロジェクト	令和5年 8月22日	閲覧・撮影	千歳市キウス4遺跡(北埋119)掲載土器9点、千歳市キウス4遺跡(北埋124)掲載土器197点、千歳市キウス4遺跡(北埋134)掲載土器92点、千歳市キウス4遺跡(北埋144)掲載土器38点、千歳市キウス4遺跡(北埋148)掲載土器13点、千歳市キウス4遺跡(北埋152)掲載土器92点
13	中部大学人文学部非常勤講師 長田 友也	論文作成・研究会発表のための資料調査	令和5年 8月29日から 8月31日	閲覧・複写・撮影	千歳市美々4遺跡周堤墓出土玉類等北埋調報14「美沢川流域の遺跡群VII」131点、千歳市美々4遺跡土坑墓群出土玉類北埋調報17「美沢川流域の遺跡群VIII」91点、千歳市オサツ14遺跡土坑墓出土玉類・土器北埋調報96「オサツ2遺跡・オサツ14遺跡」3点、千歳市キウス4遺跡周堤墓出土玉類北埋調報144「キウス4遺跡(5)」8点、千歳市キウス4遺跡土坑墓出土玉類北埋調報157「キウス4遺跡(8)」1点

番号	利用者	利用目的	利用期間	使用方法	利用資料名
14	東北歴史博物館企画部企画班 小野 章太郎・山田 凛太郎 東北放送株式会社事業部長 若生 雄大	特別展事前準備のための 資料見学	令和5年 9月15日	閲覧・撮影	千歳市キウス4遺跡出土赤彩土器一 式、千歳市キウス4遺跡出土赤彩中 空土偶一式、千歳市キウス4遺跡出 土ヒスイ関連資料一式、千歳市美々 4遺跡出土ヒスイ関連資料一式、千 歳市美々4遺跡出土石棒一式
15	京都大学大学院文学研究科博 士課程 渡辺 幸奈	土器残存脂質分析を用い た異系統土器の機能と用 途復元に関する研究 文 部科学省科学研究費変革 領域A「土器を掘る」及 び計画研究B01「土器の 年代と使用法の科学的解 明」の若手育成プロジェ クト	令和5年 9月20日から 9月28日	閲覧・撮影	千歳市キウス4遺跡（北埋119）掲 載土器 9点、千歳市キウス4遺跡 （北埋124）掲載土器 197点、千 歳市キウス4遺跡（北埋134）掲 載土器 92点、千歳市キウス4遺跡 （北埋144）掲載土器 38点、千歳 市キウス4遺跡（北埋148）掲載土 器 13点、千歳市キウス4遺跡（北 埋152）掲載土器 92点
16	株式会社ナチュラルサイエン ス 取締役 工園長 高嶋 章	縄文文化をテーマとした 企画展開催に係る展示内 容及び展示資料検討のた めの事前調査	令和5年 9月24日	閲覧・撮影	千歳市美々4・美々7遺跡企画展示 道埋文取蔵資料 43点、企画展借 用資料 105点、常設展示資料一式
17	中央研究院地球科学研究所 飯塚 義之	化学分析による石器石材 の変遷・分布域の研究の ため	令和5年 10月13日	閲覧・撮影	千歳市美々5遺跡出土塊状耳飾（北 埋調報3「美沢川流域の遺跡群Ⅳ」 図12-7）1点、千歳市美々4遺跡 土坑墓群出土玉類（北埋調報17「美 沢川流域の遺跡群Ⅷ」図52-2、図 56-1）2点
18	北海道大学埋蔵文化財調査セ ンター 高倉 純・東京都清 瀬市史編纂室 敷下 詩乃	科学研究費（新学術領域 研究）「北海道の旧石器 時代から縄文時代にか けての石製装身具の変容 に関する総合的研究」（研 究代表：高倉純）のため	令和6年 1月11日～ 1月13日	閲覧・撮影	千歳市旧石器時代遺跡出土の錐形石 器（37点）北埋調報189集「オリイ カ2遺跡」1点、北埋調報268集「ア ンカリトー7遺跡」5点、北埋調報 299集「キウス5遺跡⑩」3点、北 海道文化財保護協会調査報告書7 「オサツ16遺跡」、北埋調報138集 「柏台1遺跡」10点
19	（公財）新潟県埋蔵文化財調 査事業団 専門調査員 加藤 学	新潟県埋蔵文化財セン ターが調査を実施した村 上市上野遺跡出土資料の 比較調査のため	令和6年 1月23日	閲覧・撮影	千歳市美々4遺跡アオトラ石斧関連 資料（北埋調報3・14掲載資料）、 千歳市美々3遺跡アオトラ石斧関連 資料（北埋調報77掲載資料）、千歳 市キウス5遺跡アオトラ石斧関連資 料（北埋調報299掲載資料）、千歳 市梅川4遺跡アオトラ石斧関連資料 （北埋調報306掲載資料）、千歳市 ママチ遺跡アオトラ石斧関連資料 （北埋調報36掲載品）
20	岩手県文化振興事業団埋蔵文 化財センター調査課 野中 裕貴	岩手県文化振興事業団埋 蔵文化財センターが調査 を実施した花巻市折居遺 跡出土資料との比較検討 のため	令和6年 2月20日	閲覧・撮影	千歳市キウス7遺跡出土石斧関連資 料 3点（北埋調報127 図V-25- 61、62、70）、千歳市キウス5遺跡 出土石斧関連資料 1点（北埋調報 299 図V-3-5-2）

## (2) 模写品等の刊行等の承認

番号	申請者	使用目的	使用方法	利用資料名・点数	申請書	承認書
1	(株)札幌映像プロダクション 越田 華成	BS日テレ「北海道すたい る」テレビ放映に使用	複写	知内町湯の里4遺跡遠景、湯の 里4遺跡コハク玉出土状況写真 写真デジタルデータ 2点	令和5年 4月4日	令和5年 4月11日
2	北海道博物館長 石森 秀三	企画展「ユネスコ世界遺 産登録記念北の縄文世界 と国宝」展に使用	複写	遠軽町奥白滝1遺跡出土彫器写 真ほか デジタルデータ 46 点	令和5年 3月28日	令和5年 4月11日
3	(株)北海道協同組合通信社 清水 章子	『北の縄文さんぽ』に使用	複写	千歳市キウス4遺跡出土赤彩土 偶写真ほか 写真デジタルデー タ 22点	令和5年 4月4日	令和5年 4月11日
4	北海道新聞編集委員 嵯峨 仁 朗	北海道新聞 縄文特集記 事に使用	複写	八雲町野田生1遺跡赤彩注口土 器ほか 写真撮影2点、写真デ ジタルデータ 1点	令和5年 4月10日	令和5年 4月17日
5	北海道胆振総合振興局長 谷内 浩史	「北の縄文パネル展」展 示パネルに使用	複写	豊浦町高岡1遺跡 包含層出土 の土器ほか 写真デジタル データ 11点	令和5年 4月6日	令和5年 4月25日
6	北海道考古学会会長 右代 啓 視	北海道考古学会2023年 度研究大会 資料集に使用	複写	北見市常呂川河口遺跡 副葬品 集合写真 写真デジタルデータ 1点	令和5年 4月19日	令和5年 4月25日
7	恵庭市郷土資料館長 高野 隆 司	第1回カリンバ土曜講座 「西島松5遺跡の擦文墓 について」に使用	複写	西島松5遺跡完掘全景写真ほか 写真デジタルデータ 26点	令和5年 4月20日	令和5年 4月25日
8	福岡 孝	書籍(仮)図解!北海道 /自然環境&自然災害 に使用	複写	新千歳空港土壌断面写真ほか写 真撮影 1点 写真デジタル データ 1点	令和5年 5月12日	令和5年 5月19日
9	株式会社協同通信社 代表取締役 役社長 三土 正司	『発掘された日本列島 2023』(2023年8月下旬、 株式会社 協同通信社より 刊行予定)に使用	複写	根室市穂香竪穴群出土擦文土器 集合写真・根室市トーサムポロ 湖周辺竪穴群出土石刃鎌文化の 黒曜石製石器 写真デジタル データ 2点	令和5年 5月24日	令和5年 5月31日
10	Adeline Grolleau	Printed by "Ancient Japan. Hunter-gatherers in Heian (from-36,000 to the year one thousand)"	複写	幌加沢の露頭写真 写真デジタ ルデータ 1点	令和5年 5月31日	令和5年 6月9日
11	Adeline Grolleau	Printed by "Ancient Japan. Hunter-gatherers in Heian (from-36,000 to the year one thousand)"	複写	千歳市美々4遺跡出土堂林式土 器写真 写真デジタルデータ 1点	令和5年 5月31日	令和5年 6月9日
12	東北大学大学院文学研究科考古 学研究室 鹿又 善隆	学会 International Obsidian Conference (Engaru) 2023学会 発表 表に使用	撮影	千歳市アンカリトー7遺跡出土 資料(細石刃24、75、使用痕 写真) 写真撮影 10点	令和5年 6月20日	令和5年 6月27日

番号	申請者	使用目的	使用方法	利用資料名・点数	申請書	承認書
13	北海道世界文化遺産活用推進実行委員会委員長 越田 賢一郎	ユネスコ世界文化遺産現地研修会 電子版周知用チラシ作成及び火起こし体験にかかるオリエンテーション用スライド作成のために使用	複写	小樽市忍路土場遺跡出土木組遺構写真 ほか 写真デジタルデータ 8点	令和5年 6月22日	令和5年 6月30日
14	株式会社第一学習社 代表取締役 松本 洋介	高等学校の地理歴史科(日本史) 副教材に使用	複写	平取町ボロモイチャシ跡調査状況写真 写真デジタルデータ 1点	令和5年 6月28日	令和5年 7月6日
15	六ヶ所村立郷土館 館長 鈴木 浩	企画展の展示パネル・ホームページに掲載する企画展の展示パネル・事業報告書の作成・YouTube等動画に使用	複写	北斗市館野2遺跡 CH-20床検出状況写真 写真デジタルデータ 1点	令和5年 6月28日	令和5年 7月6日
16	札幌国際大学 越田 賢一郎	「美沢川のほとり」YouTubeドニワ部チャンネル映像に使用	複写	千歳市美々4遺跡出土動物形土製品写真 ほか 写真デジタルデータ 1点 写真転載 43点	令和5年 6月29日	令和5年 7月10日
17	恵庭市郷土資料館長 高野 隆司	黄金ふれあいセンター常設展示「恵庭の縄文時代前期の遺跡」パネル作成に使用	複写	恵庭市西島松3遺跡漆塗織維製品1出土状況(拡大)写真 写真デジタルデータ 1点	令和5年 7月19日	令和5年 8月2日
18	千歳市教育委員会教育長 佐々木 智	千歳・恵庭地域情報誌「ちゃんと」連載中コラムに使用	複写	木古内町大平遺跡出土土器写真 写真デジタルデータ 1点	令和5年 7月19日	令和5年 8月2日
19	岡安 雅彦	『日本における履い焼きの成立と展開(仮題)』に使用	複写	千歳市オサツ2遺跡出土土器1点 千歳市美々8遺跡出土土器1点 写真撮影 2点	令和5年 7月26日	令和5年 8月2日
20	国立アイヌ民族博物館長 佐々木 史郎	『国立アイヌ民族博物館ニュースレターANUANU』13号に使用	複写	千歳市ユカンボシC15遺跡出土木製ヤス(北埋調報 176集_図IV-26) 写真デジタルデータ 1点	令和5年 8月5日	令和5年 8月16日
21	国立アイヌ民族博物館長 佐々木 史郎	国立アイヌ民族博物館第7回特別展示グラフィックに使用	複写	斜里町斜里朱円周堤墓全景写真ほか 写真デジタルデータ 4点	令和5年 8月16日	令和5年 8月24日
22	株式会社有斐閣 代表取締役 江草 貞治	『はじめて学ぶ考古学改訂版』紙版書籍・電子版書籍に説明用の写真に使用	複写	芦別市滝里安井遺跡石鏃出土写真ほか 写真デジタルデータ 3点	令和5年 8月25日	令和5年 9月1日
23	(公財)北海道生涯学習協会 長田 和夫	令和5年度道民カレッジ主催事業インターネット講座教材に使用	複写	遠軽町上白滝8遺跡調査状況写真 写真デジタルデータ 1点	令和5年 9月1日	令和5年 9月8日

番号	申請者	使用目的	使用方法	利用資料名・点数	申請書	承認書
24	中部大学非常勤講師 長田 友也	新潟県考古学会2023年秋季シンポジウム「ヒスイ原産地遺跡から見た縄文～古墳時代のヒスイ玉製作」発表・発表要旨等に使用	複写	千歳市美々4遺跡・オサツ14遺跡出土玉類 写真撮影一式、実測図作成一式	令和5年9月7日	令和5年9月19日
25	株式会社新泉社 代表取締役 石垣 雅設	『つながるアイヌ考古学(仮)』に使用	複写	恵庭市西島松5遺跡P11遺物出土状況写真ほか 写真デジタルデータ 2点	令和5年9月19日	令和5年9月26日
26	株式会社山川出版社 代表取締役 野澤 武史	『30日完成スピードマスター日本文化史問題集』に使用	複写	苫小牧市美沢1遺跡出土石棒写真 写真デジタルデータ 1点	令和5年9月26日	令和5年10月5日
27	株式会社新泉社 代表取締役 石垣 雅設	『つながるアイヌ考古学(仮)』に使用	複写	根室市穂香竪穴群H-11出土玉類等写真 写真デジタルデータ 1点	令和5年9月29日	令和5年10月6日
28	北室 かず子	JR北海道車内広報誌『The JR Hokkaido』11月号に使用	複写	千歳市美々4遺跡出土土偶写真 写真撮影 1点	令和5年10月18日	令和5年10月24日
29	恵庭市郷土資料館長 高野 隆司	千歳・恵庭の遺跡を歩こう！で配布するパンフレットに使用	複写	恵庭市ユカンボシE10遺跡遠景写真 写真デジタルデータ 6点	令和5年10月18日	令和5年10月24日
30	沖縄県立博物館・美術館 館長 里井 洋一	令和5年度 沖縄県立博物館・美術館 博物館特別展「旧石器時代の人類」の展示図録への掲載及び広報物への掲載ならびに来館者とマスコミ各社の撮影に使用	撮影	恵庭市柏台1遺跡出土 顔料関連遺物3点、台石3点 写真撮影 6点	令和5年10月20日	令和5年11月24日
31	北海道大学大学院医学研究院 人類進化学教室 中沢 祐一	北海道大学考古学研究室 研究紀要第3号掲載予定原稿に使用	撮影	千歳市アンカリト7遺跡出土の石製品 写真撮影 6点	令和5年11月16日	令和5年11月24日
32	北の縄文道民会議広報 甲谷 恵	【縄本JOBON】第9号「黒曜石」に使用	撮影・複写	木古内町幸運5遺跡出土黒曜石製石鏃写真ほかデジタルデータ 1点、写真撮影 3点	令和5年12月2日	令和5年12月7日
33	早稲田大学先史考古学研究所 坂口 隆	論文「北海道美々4遺跡BS-3周堤墓の基礎的研究」に使用	撮影・複写	千歳市美々4遺跡BS-3のp-5出土漆器写真ほか 写真デジタルデータ 11点、写真撮影 3点	令和5年12月2日	令和5年12月7日
34	北の縄文道民会議広報 甲谷 恵	北の縄文会議が主催する「縄文雪まつり2024」のチラシ、ポスターに使用	複写	遠軽町上白滝8遺跡出土尖頭器写真 写真デジタルデータ 1点	令和5年12月5日	令和5年12月19日

番号	申請者	使用目的	使用方法	利用資料名・点数	申請書	承認書
35	戎光祥出版株式会社 代表取締役 伊藤 光祥	上田 克彦著『中国古代と日本古代』（発行：戎光祥出版株式会社）に使用	複写	八雲町野田生1遺跡出土 赤彩注口土器 写真デジタルデータ 1点	令和5年 12月5日	令和5年 12月19日
36	千歳市教育委員会教育長 佐々木 智	令和5年度企画展示「あなたのそばの遺跡たち～千歳市内の遺跡紹介 祝梅・根志越・中央地区編～」パネルに使用	複写	千歳市チブニー1遺跡現場撮影写真ほか 写真デジタルデータ 67点	令和5年 12月5日	令和5年 12月19日
37	株式会社朝倉書店 代表取締役 社長 朝倉 誠造	『石の歴史・文化辞典』に使用	複写	遠軽町白滝赤石山八号沢の黒曜石露頭写真 写真デジタルデータ 1点	令和5年 12月19日	令和5年 12月28日
38	柳瀬 由佳	明治大学栗島教授科研費に関わる公開シンポジウム発表に使用	複写	『西島松5遺跡(6)』図版30写真ほか 写真デジタルデータ 1点 写真撮影 2点	令和6年 1月21日	令和6年 1月26日
39	株式会社敬文舎 代表取締役 柳町 敬直	『縄文人の生活世界』電子書籍版「eBook Library」（丸善雄松堂）に使用	複写	函館市中野B遺跡集落跡写真 写真デジタルデータ 1点	令和6年 1月15日	令和6年 1月26日
40	株式会社ナチュラルサイエンス 取締役北海道支店長 高島 章	「ナチュの森で縄文にであう」展展示パネルに使用	複写	白老町虎杖浜2遺跡貝塚調査状況写真ほか 写真デジタルデータ 3点	令和6年 2月2日	令和6年 2月8日
41	株式会社新泉社 代表取締役 石垣雅設	『オホーツクの古代文化 東北アジア世界と北海道・史跡常呂遺跡』東京大学文学部常呂実習施設/考古学研究室 編に使用	複写	遠軽町上白滝8遺跡出土石器ほか 写真デジタルデータ 13点	令和6年 2月20日	令和6年 2月29日
42	北海道胆振総合振興局 局長 関 俊一	「北の縄文パネル展」の展示パネルに使用	複写	厚真町朝日遺跡遠景ほか 写真デジタルデータ 11点	令和6年 2月20日	令和6年 2月29日
43	越田 賢一郎	『北海道考古学』第60輯に使用	複写	『美沢川流域の遺跡群V』図版8掲載写真 写真デジタルデータ 3点	令和6年 2月22日	令和6年 2月29日
44	千歳市埋蔵文化財センター長 久保田 健司	千歳市遺跡調査報告会ポスターに使用	複写	千歳市美々4遺跡発掘調査写真 写真デジタルデータ 3点	令和6年 2月27日	令和6年 3月2日
45	いしかり市民カレッジ運営委員会 委員長 山田 治己	市民カレッジ講座案内チラシに使用	複写	遠軽町上白滝8遺跡調査状況写真 写真デジタルデータ 1点	令和6年 2月27日	令和6年 3月2日
46	南崎 美玖	4月7日放送予定NHK「のど自慢」遠軽町大会での、町紹介VTRに使用	複写	遠軽町上白滝8遺跡調査風景写真デジタルデータ 1点	令和6年 3月8日	令和6年 3月15日
47	南崎 美玖	4月7日放送予定NHK「のど自慢」遠軽町大会での、町紹介VTRに使用	複写	遠軽町上白滝8遺跡西地区石器出土状況写真 写真デジタルデータ 1点	令和6年 3月26日	令和6年 2月29日

番号	申請者	使用目的	使用方法	利用資料名・点数	申請書	承認書
48	恵庭市郷土資料館 館長 高野隆司	第44回日本貿易陶磁研究会において「恵庭・千歳出土の貿易陶磁器」報告・資料集などに使用	撮影	千歳市祝梅川上田遺跡（北埋調報300）GP-1出土の青磁平皿写真撮影 1点	令和6年3月26日	令和6年3月29日

### (3) 資料の貸出

番号	申請者	利用目的	利用期間	利用資料名・点数	申請書	承認書
1	北海道環境生活部文化局文化振興課縄文世界遺産推進室長 家山正吾	「G7札幌 気候・エネルギー・環境大臣会合」地元主催レセプション会場での展示のため	令和5年4月7日から令和5年4月21日まで（14日間）	土偶（複製 函館市著保内野遺跡出土）1点	令和5年4月4日	令和5年4月6日
2	国立アイヌ民族博物館長 佐々木 史郎	国立アイヌ民族博物館特別展示室への出品に使用	令和5年7月25日から令和5年11月30日（129日間）	千歳市オリカ2遺跡出土旧石器1式（6点） 細石刃・細石刃核、千歳市ユカンボンシC15遺跡木製品14式（44点）ヤス・機織具・イクパスイほか	令和5年6月30日	令和5年7月18日
3	北海道環境生活部文化局文化振興課縄文世界遺産推進室長 家山正吾	「北の縄文展2023 in 北斗市」展示のため	令和5年11月28日から令和6年4月5日（130日間）	美々3遺跡・ママチ遺跡出土遺物9点	令和5年11月17日	令和5年11月24日
4	千歳市教育委員会 教育長 佐々木 智	千歳市埋蔵文化財センター令和5年度展示のため	令和5年12月25日から令和6年4月17日（115日間）	千歳市チブニー1遺跡出土資料ほか 144点	令和5年12月6日	令和5年12月7日
5	世界遺産登録の縄文遺跡群と全北海道の縄文遺跡群の活用を推進する道民会議代表 荒川裕生	「縄文雪まつり2024」会場での展示のため	令和6年2月3日から令和6年2月4日（2日間）	土偶（複製 函館市著保内野遺跡出土）1点、大型尖頭器（複製 遠軽町上白滝8遺跡出土）1点、計2点	令和6年1月10日	令和6年1月22日
6	北海道環境生活部文化局文化振興課縄文世界遺産推進室長 家山正吾	「北の縄文展2024 in チ・カ・ホ」展示のため	令和6年2月5日から2月15日（11日間）	令和5年度道立埋蔵文化財センター企画展示「北海道・北東北の縄文遺跡群」展2作成の展示パネル・ジオラマ・展示パネル（文字・図・写真パネル一式）・ジオラマ（定住の6ステージ1セット）・ジオラマ（竪穴建物1点）	令和6年1月31日	令和6年1月31日
7	国立歴史民俗博物館館長 西谷 大	総合展示第1展示室（先史・古代）において展示するため	令和6年4月1日から令和7年3月31日（365日間）	千歳市オサツ16遺跡出土資料ほか25点	令和6年2月8日	令和6年2月19日

番号	申請者	利用目的	利用期間	利用資料名・点数	申請書	承認書
8	株式会社ナチュラルサイエンス 取締役北海道支店長 高嶋 章	「ナチュの森で縄文にであう」展で展示のため	令和6年2月15日から9月30日 (240日間)	千歳市美々7遺跡足形付き土版ほか5点	令和6年1月26日	令和6年2月1日
9	株式会社ナチュラルサイエンス 取締役北海道支店長 高嶋 章	「ナチュの森で縄文にであう」展で展示のため	令和6年7月10日から8月29日(51日間)	国宝土偶複製(函館市著保内野遺跡)1点	令和6年1月26日	令和6年2月1日
10	独立行政法人国立科学博物館 館長 篠田 謙一	国立科学博物館の常設展示に展示するため	令和6年4月1日から令和7年3月31日 (365日間)	千歳市柏台1遺跡出土顔料ほか3点、千歳市オルイカ2遺跡出土細石刃核ほか6点、計9点	令和6年2月27日	令和6年3月11日
11	千歳市教育委員会 教育長 佐々木 智	千歳市教育委員会埋蔵文化財センター常設展示のため	令和6年4月1日から令和7年3月31日 (365日間)	北埋調報86 千歳市ユカンボシC2遺跡土器[図版48(H3-13)]、土器[図版49(H4-22)]、土器[図版50(H4-23)]、計3点	令和6年2月21日	令和6年3月11日
12	北海道環境生活部文化局文化振興課縄文世界遺産推進室長 家山 正吾	「縄文回廊」展示のため	令和6年3月30日から令和7年3月31日まで (367日間)	千歳市キウス4遺跡出土土器4点、石棒2点、計6点	令和6年3月5日	令和6年3月15日
13	国立アイヌ民族博物館 館長 佐々木 史郎	国立アイヌ民族博物館基本展示に出品のため	令和6年4月1日から令和7年3月31日 (365日間)	千歳市キウス4遺跡出土土器ほか16点	令和6年3月1日	令和6年3月22日

### 3 講座等の開催

#### (1) 一般道民対象の講座

##### ア、「縄文から弥生・続縄文へ 1」

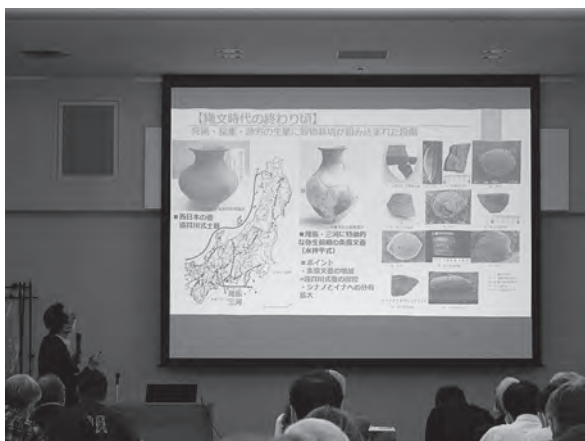
「中央高地の縄文文化から弥生文化―石器の移り変わりに見る当時の生活と地域間交流―」

日時：令和5年5月27日（土）13：30～15：30

講師：長野県教育委員会事務局 文化財専門員  
馬場 伸一郎 氏

参加者：58名

内容：縄文時代の終わり頃、雑穀栽培に関係の深い石製道具へと変化する中央高地では、弥生時代中頃以降、本格的な水稻農耕の導入とともに道具の鉄器化が進む。しかし、広い中央高地の各地を比べると、道具の変化の過程は決して同じではなかった。その背景を、地形と隣接地域との関係から当該地域での研究を続けてきた講師に解説していただいた。



▲縄文から弥生・続縄文へ 1 馬場講師

##### イ、「キーワードで読み解く北海道・北東北の縄文遺跡群2」「北海道・北東北の貝塚」

日時：令和5年7月22日（土）13：30～15：30

講師：公益財団法人北海道埋蔵文化財センター  
主査 福井 淳一

参加者：62名

内容：道立センター5期目の要求水準書に、年1回以上「北海道・北東北の縄文遺跡群」の講座・講演会を行うよう指示があり、それに合わせて、令和4年度から「キーワードで読み解く北海道・北東北の縄文遺跡群」のシリーズを開始した。貝塚・集落・墓の観点から1年1回の講座を通して、解説していくこととし、2回目は、北海道・北東北の貝塚調査からの知見を講師に解説をいただいた。

##### ウ、「縄文人に挑戦」

日時：令和5年10月28日（土）13：30～15：30

講師：普及活用課主査 坂本 尚史

参加者：23名



▲縄文人に挑戦 坂本講師



▲北海道・北東北の貝塚 福井講師



▲縄文から弥生・続縄文へ 3 鈴木講師

**内 容**：縄文人が利用した素材と道具で、遺物を再現。どれだけ縄文人に迫ることができるのか。今年度はベンケイガイを素材とした貝輪づくりをテーマとした。講座では①貝輪の諸特徴・歴史・素材貝の種類などの解説、②貝輪実物観察、③貝輪製作体験を通して縄文時代のものづくりの技術と資料の観察方法を学習した。

### エ、「縄文から弥生・続縄文へ 3」

#### 「道央部の遺跡からみる縄文時代晩期から続縄文時代前半期」

**日 時**：令和5年11月18日（土）13：30～15：30  
**講 師**：公益財団法人北海道埋蔵文化財センター  
常務理事 鈴木 信

**参加者**：59名

**内 容**：道央部における縄文時代晩期から続縄文文化前半期は、東北地方の弥生文化の受容、道東北地域の続縄文文化の流入など、他地域との交流もあり特色あるものとなっている。江別市対雁2遺跡の調査に携わり当該期の研究を続けてきた講師が成果を紹介した。

### オ、「比べてわかる道内の竪穴群2」「北東アジアの集落遺跡と北海道東部の竪穴住居跡群」

**日 時**：令和6年3月16日（土）13：30～15：30  
**講 師**：札幌学院大学人文学部教授 白杵 勲 氏  
**参加者**：63名

**内 容**：道立センター5期目の要求水準書に、年1回以上「北海道内の竪穴群」の講座・講演会を行うよう指示があり、それに合わせて、令和4年度から「比べてわかる道内の竪穴群」のシリーズを開始した。2回目は、「北東アジアの集落遺跡

と北海道東部の竪穴住居跡群」と題して、当該地域の先史考古学について、造詣の深い講師から話をいただいた。

## (2) 児童生徒学生対象の体験型講座

### ア、「こども考古学教室」

まいぶん遺跡探検隊（第1次）

土器「科捜研のこども」

**日 時**：令和5年8月5日（土）13：30～15：30

**講 師**：普及活用課 主査 坂本 尚史

**参加者**：8名

**内 容**：圧痕レプリカ法をテーマとし、複製の圧痕土器からシリコンレプリカを取り植物種子を同定する内容で、考古学と科学分析の関係、縄文時代の植物栽培について体験を通して学習した。

縄文時代に起こった事件を、犯人が残した「圧痕土器」の手掛かりから解決するストーリーを導入とし、参加者は標本つくりとレプリカ圧痕づくりを通して、土器に残された小さな穴からも多くの情報を知り得ることを体験した。参加者は普段触れることのない実験器具や薬剤に高い興味・関心を示し、積極的に実験を進め、配布の探検手帳に成果を記録した。

### イ、「こども考古学教室」

まいぶん遺跡探検隊（第2次）

縄文土器のヒミツをさぐれ！ 拓本に挑戦しよう！

**日 時**：令和5年8月12日（土）13：30～15：30

**講 師**：普及活用課主査 芝田 直人

**参加者**：14名

**内 容**：主に土器の拓本をテーマにした体験学習を通じて、埋蔵文化財への関心を高めることを目



▲比べてわかる道内の竪穴群2 白杵講師



▲まいぶん遺跡探検隊（第1次）



▲まいぶん遺跡探検隊（第2次）

的としている。

前半は、縄文土器について解説した後、実際に縄文時代早期～晩期、続縄文時代、擦文文化期の復元土器を観察し、触れてみるという体験を行った。

後半は拓本の概要・方法について、パワーポイントの画像や担当者の実技により、初心者にも理解しやすい説明を試みた。その後、参加者は縄文時代早期～晩期、続縄文、擦文の各時期の土器片（7点）について拓本体験を行った。拓本には千歳市キウス4遺跡、同祝梅川小野遺跡、江別市対雁2遺跡などから出土した土器片を使用した。このほか探検手帳も配布し、それぞれのオリジナル拓本を時期ごとに貼り付けられるようにした。

参加者は、土器の文様の変遷や遺物の整理・記録方法について意欲的に学習し、ちょっとした力加減で変化する拓本の出来栄えに関心を示していた。

#### ウ、「こども考古学教室」

##### 親子ガラス玉づくり教室

日時：令和5年11月11日（土）13：30～15：30

講師：遠軽町教育委員会 瀬下 直人 氏

参加者：20名

内容：巻付け法によるガラス玉づくり教室を実施した。内容は①製作方法・注意事項に関する座学、②講師による実演、③ガラス玉づくり体験、④製作体験の振り返り、⑤ガラス玉模様付け体験（トンボ玉）、⑥ガラス玉の歴史講座・講師による引き延ばし法実演、⑦徐冷したガラス玉の回収であった。ガラス玉づくりでは子供一人につきガスバーナーを一つ設置し、保護者には子供のサポートをお願いした。2時間ほどの間で、一人に



▲親子ガラス玉づくり教室

つき5～6個程度のガラス玉と1つ程度のトンボ玉を製作した。参加した子供達は普段扱うことがないガスバーナーの使用や、製作難易度の高いガラス玉づくりに緊張しながらも真剣に取り組んでいた。特に④の製作体験の振り返りでは、失敗や成功の理由を考えることで参加者各々が次の製作へ向けて改善点を見つけ出しており、自分で考え実践する効果的な学習が行われていた。

#### エ、「こども考古学教室」

##### まいぶん遺跡探検隊（第3次）

##### 火おこしに挑戦！

日時：令和6年1月6日（土）13：30～15：30

講師：普及活用課主査 坂本 尚史

参加者：14名

内容：教室は座学と体験学習の二部構成とし、親子での参加をお願いした。第一部は謎解き形式の座学「人と火の歴史を探れ」で、①火と人類の歴史、②火がもたらした恩恵、③火おこしの方法について学習した。また謎解きだけではなく、人間が火を使った証拠にはどんなものが考えられるか、火が人にもたらした恩恵とはなにか、のテーマについても活発に意見交換した。さらに収蔵資料である千歳市ユカンボシC15遺跡出土の火おこし具（アイヌ文化期）を観察し、資料の形状や焼け焦げの状態について参加者に発言して貰った。

第二部は体験学習の「火おこしに挑戦」で、回転摩擦式の①きりもみ式、②弓ぎり式、③ひもぎり式、④舞いぎり式と、⑤火花式の火おこしを親子で協力して行った。参加者は火おこしの効率の良い操作方法を考えながら取組み、火おこしに成功していた。本年度は綿布を蒸し焼きにして炭化させた「チャークロス」を予め製作し、火花式の



▲まいぶん遺跡探検隊（第3次）

火口とした。

### オ、「こども考古学教室」

#### まいぶん遺跡探検隊（第4次）

#### 雪の中で発掘調査に挑戦！

日 時：令和6年1月13日（土）13：30～15：30

講 師：普及活用課主査 芝田 直人

参加者：8名

内 容：雪を掘り込み、埋め戻した模擬的な土坑の発掘調査体験を実施した。検出から完掘までの発掘調査の手順を体験することにより、埋蔵文化財調査の観点や遺構の性格についての判断などを学ぶことを目的としている。

第1部「発掘調査のヒミツをさぐれ！」では埋蔵文化財や発掘調査について基本的な説明を行った。第2部「どうしてお墓だとわかったの？」では土坑の種類や墓の認定について解説した。第3部の「発掘調査にちょうせん！」では、まず発掘調査の道具・手順などを説明した。その後、屋外



▲まいぶん遺跡探検隊（第4次）

で雪に埋もれた墓坑を模した穴を検出することから始まり、半截、断面観察、出土遺物の記録、完掘といった一連の発掘体験を行った。最後は、掘り出したミニチュア（模造品）のママチ遺跡の土面、美々4遺跡の土偶・動物形土製品について展示室で解説した。このほか探検手帳も配布し、体験中にスマートフォンで撮影した調査写真を貼り付けられるようにした。

北海道という寒冷地で、冬季に積雪が豊富にあるという条件を生かしての体験企画である。一方、屋外での体験時に吹雪など荒天への対応や寒さ対策、時間配分などが今後の課題である。

### (3) 児童生徒対象の出前講座

#### ア、事業目的

完全学校週5日制に対応して、土曜日や日曜日の休日に、市町村教育委員会との連携の下で、子供たちにとってわかりやすく地域の歴史や文化を説明するとともに、それらを大切にすることを養い、体験学習を通して豊かな人間性や多様な個性を育むことを目的とする。

これまで、道立センター内で行ってきた考古学教室を、全道の市町村に向いて地元教育委員会と連携を図って実施することにより、市町村独自の事業実施の契機となるよう努めている。

#### イ、事業内容

##### (ア) 地域の遺跡を学ぶ

##### 一実物に触れてみよう一

地元市町村出土の遺物や北海道立埋蔵文化財センター保管の土器・石器類に触れてもらいながら、地元市町村の埋蔵文化財についての説明を行う。また、埋蔵文化財センター紹介のビデオ『遺跡ってなーに』を鑑賞する。

##### (イ) 体験学習

子供たちの歴史・文化に対する関心を高めるために、縄文時代等にアクセサリーとして使用されていた「勾玉」を、滑石を材料にして、製作する。

体験メニューとして、このほか「ミニ土器づくり」、「ミニチュア土偶づくり」も行っている。

47ページの表のとおり8か所で実施した。

### (4) 教育連携講座

小学校、大学を対象とする体験型教育連携講座を、48ページの表の通り28回実施した。火おこし・勾玉作り・ミニチュア土器づくり・拓本体験学習、収蔵庫・展示収蔵庫・展示室などの見学な

どを内容とする。

また、北海道教育委員会からの依頼により、平成25年度から「道立埋蔵文化財センター活用学習のための指導者研修」（夏・冬季休業期間分、教職員対象）を実施している。令和5年度に関しては、冬季に1名参加があった。

## (5) 一般道民対象の講演会

### ア、秋季講演会「縄文から弥生・続縄文へ 2」 「東北地方における縄文文化から弥生文化」

日時：令和5年9月16日（土）13：30～15：30

講師：元仙台市教育委員会 斎野 裕彦 氏

参加者：60名

内容：東北地方の一部には、中部、関東地方を通り越すように、いち早く西日本の弥生文化が到達するが、生業の編成・展開には地域性がみられる。北日本の続縄文文化と西日本の弥生文化に挟まれた、東北地方の特色ある弥生文化について詳しい講師より解説していただいた。

### イ、冬季講演会「縄文から弥生・続縄文へ 4」 「道東北の遺跡からみる縄文時代晩期から 続縄文時代前半期」

日時：令和6年1月20日（土）13：30～15：30

講師：東京大学大学院人文社会系研究科教授  
熊木 俊朗 氏

参加者：64名

内容：道東北地域における縄文から続縄文への移行期は、東北地方当該期の文化受容や道央部への文化流入がみられ、特色あるものとなっている。北見市常呂にある東京大学常呂実習施設で長年学術調査に携わってきた講師より、研究成果を解説していただいた。



▲秋季講演会 斎野講師



▲冬季講演会 熊木講師



▲令和4年度調査報告会

## (6) 公益財団法人北海道埋蔵文化財センター令和4年度調査報告会

日時：令和5年4月15日（土）13：30～16：30

内容：発掘調査成果に加え、整理作業からわかった成果を紹介することを目的とした。内容は以下のとおりである。

- 1 興部町 興部豊野竪穴群 (B)  
第1 調査部普及活用課主査 立田 理
- 2 松前町 福山城下町遺跡  
第2 調査部第2 調査課主査 山中文雄
- 3 帯広市 空港南A遺跡  
第2 調査部第1 調査課長 鈴木宏行
- 4 仁木町 モンガクC遺跡  
第2 調査部第1 調査課主査 末光正卓
- 5 千歳市 美々4遺跡  
第1 調査部第2 調査課長 藤井 浩

## 4 協力

### (1) 職場体験

江別市教育委員会の依頼によるキャリア教育事業（中学生の職場体験）は、今年度から新型コロナウイルスが5類に移行したため、再開となり、48ページの表のとおり、5校、19名を受け入れた。

### (2) 博物館実習

大学の依頼により博物館実習の学生を48ページの表のとおり7名受け入れた。

## 5 周辺施設・大学・諸機関との連携

江別市から札幌市北東部に所在する各文化施設や大学と、以下の連携を行っている。各連携参加状況等については45ページの表のとおり。

### (1) 文京台地区道立教育3施設連携

江別市文京台地区にある北海道立図書館、北海道立教育研究所、北海道立埋蔵文化財センターが、今後さらに地域に根ざし、開かれた「施設」を目指すため、平成15年から連携事業を行っている。今年度も、7月以降に実施する事業を紹介するリーフレットを合同で作成し、配布した。

### (2) かるちやるnet

新札幌から江別市南西には社会教育的文化施設が集中し、地域に暮らす人たちにとって恵まれた環境にある。各文化施設は地域文化の向上や知的財産の継承など重要な役目を担っているが、財政の悪化により運営・事業の見直しを迫られ、取り巻く情勢は厳しさを増している。このような状況を踏まえ、各施設が協力・連携を強化し、意見交換・連携事業・広報事業などの実施を協議する場として結成された。

平成21年に北海道がイオン北海道(株)との包括的連携協定を締結する際に北海道開拓記念館が企業側に提案した「道の教育・文化施設の広報活動への協力・協働事業」を基礎とする。

#### ア、施設紹介パネル展

日 時：令和5年8月13日（日）

場 所：サンピアザ光の広場

内 容：各施設の紹介パネルを展示して、広報資料を配布した。また、新型コロナウイルスが5類に移行したことにあわせて、いくつかのワークショップも実施し、当センターからは砂絵体験を

提供した。

#### イ、施設紹介パネル展 inまいぶんセンター

日 時：令和5年11月9日（木）～11月26日（日）

場 所：北海道立埋蔵文化財センターエントランス

内 容：各施設の紹介パネルを展示して、広報資料を配布した。

### (3) のっぽろ11ネット

今年度は活動していない。

### (4) 北海道生涯学習協会まなびの広場公益財団法人北海道埋蔵文化財センター令和4年度発掘調査成果展

会 期：令和5年8月2日（水）～8月31日（木）

会 場：かでの2・7 9階 情報交流広場「まなびの広場」

内 容：道民への学習情報の提供を体系的に行う「まなびの広場」を活用して、生涯学習の普及啓発に関する情報や北海道立埋蔵文化財センターおよび公益財団法人北海道埋蔵文化財センターの生涯学習の取り組みやその成果などを展示・発表することを主眼とし、公益財団法人北海道埋蔵文化財センターが令和4年度に実施した発掘調査の成果を紹介した。今年度は千歳市美々4遺跡及び松前町福山城下町遺跡の解説パネル、写真パネル、図パネルのほか、出土遺物を豊富に展示した。福山城下町遺跡は近世陶磁器が主体で、注目ポイントや不思議ポイントなどを解説したパネルを設置し、見学者の興味関心を高めるための工夫を施した。



▲北海道生涯学習協会まなびの広場展示

周辺施設との連携参加一覧

名 称	文京台地区道立教育3施設連携	かるちやるnet	のっぽろ11ネット
江別市郷土資料館		○	
江別市スポーツ振興財団			○
野幌自治会			○
北海道情報大学			○
野幌中学校			○
江別市セラミックアートセンター		○	○
野幌総合運動公園事務所			○
酪農学園大学			○
北海道立図書館	○	○	
北海道立教育研究所	○		
北海道立文書館		○	
札幌学院大学			○
北翔大学			○
北海道立埋蔵文化財センター	○	○	○
自然ふれあい交流館		○	
道立自然公園野幌森林公園			
北海道博物館		○	
北海道開拓の村		○	○
サンピアザ水族館		○	
札幌市青少年科学館		○	

## 6 利用状況

### (1) 入館者数一覧

#### ア、月別入館者数

	開館日数			大人(男性)			大人(女性)			子供			合計		
	5年度	4年度	前年度比(%)	5年度	4年度	前年度比(%)	5年度	4年度	前年度比(%)	5年度	4年度	前年度比(%)	5年度	4年度	前年度比(%)
4月	26	26	173.3%	285	255	111.8%	242	242	100.0%	156	173	90.2%	683	670	101.9%
5月	24	23	400.0%	278	343	81.0%	212	248	85.5%	222	296	75.0%	712	887	80.3%
6月	26	26	104.0%	231	195	118.5%	235	179	131.3%	252	365	69.0%	718	739	97.2%
7月	26	27	96.3%	342	283	120.8%	310	273	113.6%	257	193	133.2%	909	749	121.4%
8月	27	26	103.8%	276	221	124.9%	331	253	130.8%	377	315	119.7%	984	789	124.7%
9月	25	26	96.2%	316	300	105.3%	295	262	112.6%	181	161	112.4%	792	723	109.5%
10月	25	26	92.6%	259	338	76.6%	235	253	92.9%	215	207	103.9%	709	798	88.8%
11月	25	25	108.7%	298	248	120.2%	191	221	86.4%	151	158	95.6%	640	627	102.1%
12月	24	24	100.0%	176	196	89.8%	130	109	119.3%	118	77	153.2%	424	382	111.0%
1月	23	23	104.5%	167	120	139.2%	137	100	137.0%	183	98	186.7%	487	318	153.1%
2月	23	23	104.5%	130	163	79.8%	103	81	127.2%	47	41	114.6%	280	285	98.2%
3月	23	23	109.5%	243	204	119.1%	201	135	148.9%	193	141	136.9%	637	480	132.7%
合計	297	264	112.5%	3001	2866	104.7%	2622	2356	111.3%	2352	2225	105.7%	7975	7447	107.1%

#### イ、平成11から令和4年度までの月別入館者数

##### (ア)【平成11から17年度までの月別入館者数】

	11	12	13	14	15	16	17	①計
4月		758	656	545	538	831	595	3923
5月		709	453	656	1081	964	716	4579
6月		652	621	808	1299	1054	858	5292
7月		527	303	633	922	828	1124	4337
8月		673	388	662	789	747	851	4110
9月		544	374	631	762	1020	727	4058
10月		650	302	649	991	1027	773	4392
11月	1988	467	659	445	836	669	618	5682
12月	687	286	326	669	505	330	318	3121
1月	593	218	411	287	229	189	240	2167
2月	366	129	240	212	270	187	189	1593
3月	469	221	362	297	331	296	366	2342
合計	4103	5834	5095	6494	8553	8142	7375	45596

##### (イ)【平成18から令和4年度までの月別入館者数】

	指定管理者1期				指定管理者2期				指定管理者3期				指定管理者4期				指定管理者5期		②合計	①②合計			
	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31・元	2	3	4	5					
4月	830	669	904	1192	799	920	1244	1201	1150	969	1103	1143	1005	920	250	636	670	683	16288	20211			
5月	1440	1228	1403	1978	1755	1223	1127	1359	967	991	1330	1405	1485	1476	100	311	887	712	21177	25756			
6月	768	1099	1150	934	1597	1277	1143	1360	1207	1345	1527	1555	1554	1314	342	123	739	718	19752	25044			
7月	1138	1425	1126	1537	1117	1278	1243	1590	1296	1100	1689	1165	1107	1042	589	755	749	909	20855	25192			
8月	1238	1517	1267	1370	982	1230	1727	1809	1291	1709	1257	1511	1518	1121	600	369	789	984	22289	26399			
9月	790	907	768	1169	995	1110	1018	1242	825	1178	988	1113	726	1050	740	0	723	792	16134	20192			
10月	945	939	1267	1120	1214	839	1019	1382	903	910	758	819	912	745	771	966	798	709	17016	21408			
11月	669	627	653	745	794	539	736	714	686	911	720	748	944	760	476	421	627	640	10722	16404			
12月	232	536	488	577	370	423	426	411	344	513	431	433	616	591	238	237	382	424	7672	10793			
1月	462	633	488	516	344	379	551	603	413	685	763	683	724	789	253	239	318	487	9330	11497			
2月	226	329	450	374	268	286	405	524	283	542	361	466	480	459	388	163	285	280	6569	8162			
3月	329	528	549	472	511	696	654	622	381	706	866	843	939	0	392	396	480	637	10001	12343			
合計	9067	10437	10513	11984	10746	10200	11293	12817	9746	11559	11793	11884	12010	10267	5139	4616	7447	7975	179493	225089			
期合計	42001				45056				44982				32032										

### ウ、企画展示期間中の入館者数

展示タイトル	期 間	入館者数
(公財)北海道埋蔵文化財センター令和4年度調査成果展	3月25日(土)～5月28日(日)	1,557
「北海道・北東北の縄文遺跡群 2」展	7月8日(土)～9月24日(日)	2,423
「北海道遺跡百選16」展	12月2日(土)～令和6年2月25日(日)	1,162
特別展示期間中の入館者数合計		5,142
世界遺産をめざす北の縄文展	4月1日(土)～令和6年3月31日(日)	7,975

### エ、一般道民対象の講座

事 業 名	実 施 日	参加人数
「縄文から弥生・続縄文へ 1」 「中央高地の縄文文化から弥生文化―石器の移り変わりに見る当時の生活と地域間交流―」	5月27日(土)	65
「キーワードで読み解く北海道・北東北の縄文遺跡群2」「北海道・北東北の貝塚」	7月22日(土)	58
「縄文人に挑戦」	10月28日(土)	23
「縄文から弥生・続縄文へ 3」「道央部の遺跡からみる縄文時代晩期から続縄文時代前半期」	11月18日(土)	63
「比べてわかる道内の竪穴群2」「北東アジアの集落遺跡と北海道東部の竪穴住居跡群」	3月16日(土)	66
計		275

### オ、児童生徒学生対象の体験型講座

年	月	日	曜	事 業 名	参加人数
令和5年	8	5	土	まいぶん遺跡探検隊(第1次)	8
	8	12	土	まいぶん遺跡探検隊(第2次)	14
	11	11	土	親子ガラス玉づくり教室	20
令和6年	1	6	土	まいぶん遺跡探検隊(第3次)火おこしに関する体験	14
	1	13	土	まいぶん遺跡探検隊(第4次)雪中発掘体験	8
計					64

### カ、児童生徒対象の出前講座

市町村	実施場所	実施日	担当	備 考	参加人数
1 苫前町	苫前町公民館	6月24日(土)	坂本・芝田	苫前町公民館講座として実施	9
2 京極町	京極町立京極中学校	7月14日(金)	坂本	中学校授業として実施	25
3 占冠村	占冠村立トマム学校	8月23日(水)	倉橋	小学校授業として実施	33
4 愛別町	愛別町B&G海洋センター	8月9日(水)	坂本	愛別町学力向上支援事業「愛別天神クラブ2023」講座として実施	51
5 岩見沢市	岩見沢市郷土科学館	9月2日(土)	倉橋・芝田	岩見沢市郷土科学館講座として実施	19
6 白老町	仙台藩白老元陣屋資料館	12月23日(土)	坂本	仙台藩白老元陣屋資料館講座として実施	17
7 新冠町	新冠町レ・コード館	令和6年 2月3日(土)	倉橋	新冠町郷土資料館・ふるさと再発見講座として実施	21
8 音更町	音更町生涯学習センター	令和6年 2月10日(土)	倉橋	音更町音更こども探検隊講座として実施	29
計					204

### キ、講演会

年	月	日	曜	事 業 名	参加人数
令和5年	9	16	土	秋季講演会「縄文から弥生・続縄文へ 2」 「東北地方における縄文文化から弥生文化」	58
				冬季講演会「縄文から弥生・続縄文へ 4」 「道東北の遺跡からみる縄文時代晩期から続縄文時代前半期」	
令和6年	1	20	土	計	64
計					122

### ク、報告会

年	月	日	曜	事 業 名	参加人数
令和5年	4	15	土	公益財団法人北海道埋蔵文化財センター令和4年度調査報告会	48
計					48

## ケ、職場体験

	学 校 名	受 入 期 間	備 考	受入人数
1	江別市立野幌中学校	令和5年9月12日、13日(火、水)	実習の内容は、無料体験学習「縄文工房」の準備作業。ホール、展示室受付作業など	3
2	江別市立大麻東中学校	令和5年10月17日、18日(火、水)		4
3	江別市立中央中学校	令和5年10月19日、20日(木、金)		4
4	江別市立大麻中学校	令和5年10月24日、25日(火、水)		4
5	江別市立江別第一中学校	令和5年10月26日、27日(木、金)		4
計				19

## コ、博物館実習

	学 校 名	受 入 期 間	備 考	受入人数
1	札幌学院大学・札幌大学・北翔大学・北海道大学	7月18日(火)～21日(金)、 7月25日(火)～28日(金)	受付・展示・図書に関する作業、体験学習での教材づくり	7
計				7

## サ、教育連携講座

### (ア) 小学校

	年	月	日	曜	団体名・見学・体験等	人 数
1	令和5年	5	9	火	江別市立上江別小学校団体(男性2名、女性2名、こども100名、計104名)	104
2		6	20	火	江別市立文京台小学校2年生授業施設見学(男性1名、女性3名、こども28名、計32名)	32
3		6	27	火	札幌市立小野幌小学校施設見学体験学習(男性1名、女性1名、こども29名、計31名)	31
4		6	28	水	札幌市立小野幌小学校施設見学体験学習(男性1名、女性2名、こども32名、計35名)	35
5		6	29	木	札幌市立小野幌小学校施設見学体験学習(男性1名、女性1名、こども27名、計29名)	29
6		7	12	水	江別市立文京台小学校2年生親子レク体験学習(男性2名、女性31名、こども29名、計62名)	62
7		9	6	水	江別市立文京台小学校特別支援学級親子レク(男性3名、女性15名、こども12名、計30名)	30
計						293

### (イ) 大学

	年	月	日	曜	団体名・見学・体験等	人 数
1	令和5年	4	21	金	札幌学院大学大塚先生地域文化演習A講義利用(男性17名、女性7名、計24名)	24
2		5	17	水	札幌学院大学大塚先生考古学A①(男性18名、女性12名、計30名)	30
3		5	25	木	札幌学院大学大塚先生博物館資料論①(男性11名、女性5名、計16名)	16
4		5	28	日	北翔大学短期大学部菊地先生選択社会講義利用(男性1名、女性4名、計5名)	5
5		6	8	木	札幌学院大学国際交流課タイチェンマイ大留学生施設見学体験学習(男性4名、女性7名、計11名)	11
6		6	22	木	北翔大学榎木先生介護演習施設見学(男性3名、女性3名、計6名)	6
7		7	2	日	北翔大学短期大学部菊地先生社会科指導法(男性4名、女性5名、計9名)	9
8		7	12	水	札幌学院大学大塚先生考古学A講義利用(男性17名、女性10名、計27名)	27
9		7	20	木	札幌学院大学大塚先生博物館資料論②(男性11名、女性3名、計14名)	14
10		10	4	水	北翔大学吉田先生講義利用(男性20名、女性16名、計36名)	36
11		10	17	火	札幌学院大学大塚先生博物館経営論①(男性8名、女性6名、計14名)	14
12		10	24	火	札幌学院大学大塚先生博物館経営論②(男性6名、女性3名、計9名)	9
13		11	8	水	北翔大学小杉先生情報メディア論①(男性7名、女性9名、計16名)	16
14		11	15	水	北翔大学小杉先生情報メディア論②(男性4名、女性4名、計8名)	8
15		11	17	金	札幌学院大学菊地先生自然地理学概説(男性25名、女性8名、計33名)	33
16		11	17	金	札幌学院大学菊地先生人文地理学概説(男性23名、女性16名、計39名)	39
17		12	3	日	札幌国際大学越田先生考古学講義利用(男性10名、女性12名、計22名)	22
18		12	6	水	北翔大学小杉先生情報メディア論③(男性8名、女性8名、計16名)	16
19		12	19	火	北翔大学小杉先生専門演習Ⅱ(男性4名、女性1名、計5名)	5
20		12	19	火	北星学園大学齊藤先生調査(男性2名、女性1名、計3名)	3
21	令和6年	1	30	火	札幌学院大学国際交流課留学生体験学習(男性3名、女性11名、計14名)	14
計						367

## (2) 団体利用者対応

### ア、児童団体関連

	年	月	日	曜	団 体 名	人 数
1	令和5年	4	4	火	児童通所支援センター「クオレ文京台」縄文工房利用(男性2名、女性2名、こども3名、計7名)	7
2		4	4	火	放課後等ディサービス「CLOVER」縄文工房利用(男性1名、女性2名、こども11名、計14名)	14
3		4	4	火	放課後等ディサービス「笑」縄文工房利用(男性2名、女性2名、こども4名、計8名)	8
4		4	5	水	児童福祉サービス「ゆうきゅん」縄文工房利用(男性1名、女性2名、こども6名、計9名)	9
5		4	7	金	放課後等ディサービス「ぶらぼーたいはい」縄文工房利用(男性2名、こども3名、計5名)	5

6		4	13	木	児童ディサービス「ぶらぼーたくほく」縄文工房利用(女性2名、子ども4名、計6名)	6
7		5	5	金	放課後等ディサービス「ぐりんカレッジ」縄文工房利用(男性2名、女性2名、子ども6名、計10名)	10
8		5	6	土	放課後等ディサービス「こどもの森アウルジョイ」縄文工房利用(女性3名、子ども2名、計5名)	5
9		5	6	土	放課後等ディサービス「アミティエ東苗穂」縄文工房利用(男性3名、女性2名、子ども7名、計12名)	12
10		5	13	土	児童発達支援センター「たくあいアクティビティむう」縄文工房利用(男性1名、女性1名、子ども5名、計7名)	7
11		5	20	土	児童ディサービス「あんあんclass菊水ルーム」縄文工房利用(男性2名、女性2名、子ども8名、計12名)	12
12		6	10	土	児童ディサービス「トーマス」縄文工房利用(男性2名、女性4名、子ども10名、計16名)	16
13		6	24	土	児童ディサービス「ぬくもりの森」縄文工房利用①(女性3名、子ども5名、計8名)	8
14		6	24	土	児童ディサービス「ぬくもりの森」縄文工房利用②(男性1名、女性1名、子ども7名、計9名)	9
15		7	1	土	児童発達支援・放課後ディサービス「スマイルナイン」縄文工房利用(男性1名、女性2名、子ども5名、計8名)	8
16		7	1	土	児童ディサービス「輝厚別西」縄文工房利用(男性1名、女性3名、子ども4名、計8名)	8
17		7	5	水	児童ディサービス「きずな」縄文工房利用(男性1名、女性2名、子ども4名、計7名)	7
18		7	8	土	児童発達支援・放課後ディサービス「天使のえがお」縄文工房利用(男性2名、女性1名、子ども15名、計18名)	18
19		7	8	土	児童発達支援センター「たくあいアクティビティむう」展示見学(女性4名、子ども4名、計8名)	8
20		7	15	土	児童発達支援・放課後ディサービス「みらくる」縄文工房利用(男性1名、女性1名、子ども4名、計6名)	6
21		7	25	火	通所支援事業所「ほほ笑み」縄文工房利用(男性1名、女性3名、子ども7名、計11名)	11
22		7	29	土	児童発達支援放課後等ディサービス「そらいろりんくす」縄文工房利用(男性2名、女性2名、子ども6名、計10名)	10
23		8	1	火	児童ディサービス「すいっち」縄文工房利用(男性3名、女性1名、子ども10名、計14名)	14
24		8	1	火	放課後等ディサービス「なないろclubすてっぷ」縄文工房利用(女性2名、子ども4名、計6名)	6
25		8	3	木	児童通所支援施設「moreぶらす」縄文工房利用(男性1名、女性2名、子ども4名、計7名)	7
26		8	9	水	秋ヶ岡児童センター縄文工房利用(女性2名、子ども2名、計4名)	4
27		8	18	金	児童発達支援放課後等ディサービス「なないろclubすてっぷ」(男性1名、女性3名、子ども8名、計12名)	12
28		8	24	木	児童ディサービス「moreぶらす」縄文工房利用(男性1名、女性1名、子ども4名、計6名)	6
29		8	25	金	児童ディサービス「moreぶらす」縄文工房利用(男性1名、子ども2名、計3名)	3
30		8	26	土	放課後等ディサービス「糸ひろは」縄文工房利用(男性2名、子ども4名、計6名)	6
31	令和5年	8	31	木	児童ディサービス「なないろclub」縄文工房利用(女性2名、子ども4名、計6名)	6
32		9	1	金	児童ディサービス「なないろclubスマイル」縄文工房利用(女性2名、子ども8名、計10名)	10
33		9	16	土	児童ディサービス「ゆうあい」縄文工房利用(男性2名、女性1名、子ども5名、計8名)	8
34		9	22	金	児童通所支援センター「クオレ平岡」縄文工房利用(女性2名、子ども4名、計6名)	6
35		9	30	土	児童ディサービス「子どもの森アウルジョイ」縄文工房利用(女性2名、子ども2名、計4名)	4
36		9	30	土	放課後等ディサービス「こんぼす」縄文工房利用(男性2名、女性2名、子ども15名、計19名)	19
37		10	3	火	児童通所支援センター「クオレ平岡」縄文工房利用(男性1名、女性5名、子ども7名、計13名)	13
38		10	7	土	児童ディサービス「きゃんぼす」縄文工房利用(女性3名、子ども8名、計11名)	11
39		10	13	金	江別市第一小学校児童クラブ施設見学・体験学習(男性1名、女性3名、子ども21名、計25名)	25
40		10	13	金	児童ディサービス「ポップHUG東川下」縄文工房利用(男性1名、女性1名、子ども3名、計5名)	5
41		10	17	火	児童ディサービス「ぶらぼーとんでん」縄文工房利用(男性1名、女性1名、子ども5名、計7名)	7
42		10	17	火	児童ディサービス「ぐりんカレッジ」縄文工房利用(男性1名、女性3名、子ども7名、計11名)	11
43		10	21	土	児童ディサービス「パブリカ」縄文工房利用(女性3名、子ども8名、計11名)	11
44		11	1	水	放課後等ディサービス「clovers」縄文工房利用(男性2名、子ども4名、計6名)	6
45	11	4	土	児童ディサービス「もしもし」縄文工房利用(男性2名、女性3名、子ども12名、計17名)	17	
46	11	11	土	共同児童保育所「チボリーノ児童育成会」縄文工房利用(男性1名、女性1名、子ども6名、計8名)	8	
47	11	11	土	放課後等ディサービス「レインボーシェル」縄文工房利用(男性1名、子ども3名、計4名)	4	
48	11	18	土	児童ディサービス「ぬくもりの森東」縄文工房利用(男性1名、女性2名、子ども4名、計7名)	7	
49	12	2	土	児童ディサービス「ウェルネス」縄文工房利用(女性4名、子ども10名、計14名)	14	
50	12	2	土	児童ディサービス「たくあいアクティビティむう」縄文工房利用(男性1名、女性1名、子ども5名、計7名)	7	
51	12	8	金	児童ディサービス「笑」縄文工房利用(男性1名、子ども3名、計4名)	4	
52	12	9	土	児童ディサービス「コドモノ」縄文工房利用(男性3名、女性1名、子ども6名、計10名)	10	
53	12	16	土	児童ディサービス「たくあいアクティビティむう」縄文工房利用(男性2名、子ども4名、計6名)	6	
54	12	26	火	放課後等ディサービス「こんぼす」縄文工房利用(男性2名、女性3名、子ども16名、計21名)	21	
55	12	26	火	通所支援事業所「ほほえみ」縄文工房利用(男性1名、女性3名、子ども9名、計13名)	13	
56	12	27	水	児童発達支援・放課後ディサービス「moreぶらす」縄文工房利用(男性1名、女性2名、子ども7名、計10名)	10	
57	12	28	木	児童通所施設「べりいべりいモア」縄文工房利用(女性2名、子ども3名、計5名)	5	
58	令和6年	1	10	水	児童ディサービス系「いろは」縄文工房利用(男性2名、子ども5名、計7名)	7
59		1	10	水	共同児童保育所「チボリーノ児童育成会」縄文工房利用(女性2名、子ども8名、計10名)	10
60		1	10	水	児童ディサービス系「いろは」縄文工房利用(男性2名、子ども5名、計7名)	7
61		1	11	木	児童ディサービス「わくわくキッズ 笑」縄文工房利用(男性3名、女性1名、子ども3名、計7名)	7
62		1	12	金	放課後等ディサービス「おひさまの森」縄文工房利用(男性2名、女性1名、子ども6名、計9名)	9
63		1	12	金	児童通所支援センター「クレオ平岡」縄文工房利用(女性5名、子ども4名、計9名)	9
64		1	16	火	もみじ台幼稚園縄文工房利用(女性4名、子ども52名、計56名)	56
65		1	16	火	児童ディサービス「わくわくキッズ 笑」縄文工房利用(男性2名、子ども5名、計7名)	7
66		1	17	水	児童ディサービス「こんぼすme」縄文工房利用(男性2名、女性1名、子ども1名、計4名)	4
67		1	17	水	児童ディサービス「わくわくキッズ 笑」縄文工房利用(男性3名、子ども5名、計8名)	8
68		1	17	水	児童通所支援センター「クレオ平岡」縄文工房利用(女性4名、子ども4名、計8名)	8
69		1	18	木	児童発達支援放課後等ディサービス「そらいろひばりが丘」縄文工房利用(男性1名、女性4名、子ども7名、計12名)	12
70		1	18	木	自立特化型放課後等ディサービス「ぐりんカレッジ白石」縄文工房利用(女性2名、子ども2名、計4名)	4
71		1	19	金	児童発達支援放課後等ディサービス「輝厚別西」縄文工房利用(男性1名、子ども1名、計2名)	2
72		1	19	金	児童発達支援・放課後等ディサービス「こどもの森アウル」縄文工房利用(男性3名、女性1名、子ども5名、計9名)	9
73		2	2	金	社会福祉法人「汰功樹会」縄文工房利用(男性1名、子ども1名、計2名)	2

74	令和6年	2	2	金	移動支援「わくわくつばさ」縄文工房利用（女性1名、子ども2名、計3名）	3
75		2	16	金	移動支援「わくわくつばさ」縄文工房利用（女性1名、子ども2名、計3名）	3
76		2	17	土	放課後等ディサービス「レインボーシェル」縄文工房利用（男性1名、女性1名、子ども2名、計4名）	4
77		2	17	土	児童ディサービス「めばえ」縄文工房利用（女性4名、子ども5名、計9名）	9
78		3	2	土	放課後等ディサービス「ぶるーむ7丁目」縄文工房下見（女性5名、子ども10名、計15名）	15
79		3	6	水	移動支援事業所「わくわくつばさ」縄文工房利用（女性1名、子ども2名、計3名）	3
80		3	9	土	放課後等ディサービス「リーフ白石」縄文工房利用（男性2名、女性2名、子ども13名、計17名）	17
81		3	26	火	児童ディサービス「そらいろネクスト」縄文工房利用（男性1名、女性2名、子ども5名、計8名）	8
82		3	28	木	児童ディサービス「こんぼす」縄文工房利用（男性4名、女性5名、子ども18名、計27名）	27
83		3	28	木	児童ディサービス「きずな見晴台」縄文工房利用（男性2名、女性5名、子ども12名、計19名）	19
84		3	28	木	児童ディサービス「笑」縄文工房利用（男性3名、女性2名、子ども3名、計8名）	8
計						807

### イ、そのほかの団体

年	月	日	曜	団 体 名	人 数	
1	令和5年	4	21	金	障害就労支援事業所「いるば28」施設見学（男性5名、女性3名、計8名）	8
2		4	25	火	障害就労支援事業所「いるば28」施設見学（男性7名、女性2名、計9名）	9
3		4	26	水	障害就労支援事業所「いるば28」施設見学（男性2名、女性7名、計9名）	9
4		5	10	水	日本橋トラベラーズクラブ施設見学（男性1名、女性4名、計5名）	5
5		6	1	木	ディサービス「らいふてらす東野幌」展示室見学（男性5名、女性5名、計10名）	10
6		6	10	土	高齢者クラブ「もみじ台みなみ会」展示見学（男性4名、女性4名、計8名）	8
7		6	14	水	石狩市花川北民生委員児童委員協議会施設見学（男性15名、女性7名、計22名）	22
8		6	18	日	清田町内会展示室見学（男性11名、女性22名、子ども3名、計36名）	36
9		6	24	土	長沼町教育委員会史跡巡り施設見学体験学習（男性2名、女性1名、子ども15名、計18名）	18
10		6	25	日	大麻沢町歩こう会施設見学（男性13名、女性20名、子ども2名、計35名）	35
11		7	2	日	視覚障害者9条の会施設見学体験学習（男性13名、女性13名、計26名）	26
12		8	1	火	小樽市小学校社会科部会施設見学（男性4名、女性10名、計14名）	14
13		8	30	水	アルテピア北海道美術館協力会施設見学（男性2名、女性21名、計23名）	23
14		9	9	土	苫小牧縄文会施設見学（男性7名、女性6名、子ども1名、計14名）	14
15		9	15	金	高齢者ディサービス「らいふてらす東野幌」縄文工房利用（男性1名、女性15名、計16名）	16
16		9	16	土	北広島市森林ボランティアメーブル施設見学（男性11名、女性9名、計20名）	20
17		9	16	土	余市水産博物館活動協力会施設見学（男性6名、女性10名、計16名）	16
18		10	1	日	北広島市市民大学OB会施設見学（男性14名、女性10名、計24名）	24
19		10	11	水	中重度化予防ディサービス「らいふてらす東野幌」縄文工房利用（男性4名、女性9名、計13名）	13
20		10	15	日	文京台第二自治会施設見学（男性7名、女性11名、計18名）	18
21		10	18	水	日本橋トラベラーズ施設見学（男性1名、女性4名、計5名）	5
22		12	7	木	縄文ボランティアガイド養成講座（男性8名、女性8名、計16名）	16
23		令和6年	3	12	火	ディサービスセンター「結いの家」展示室見学（男性3名、女性12名、計15名）
24	3		27	水	札幌北野地区福祉のまち推進センター施設見学（男性8名、女性5名、子ども11名、計24名）	24
計						404

## 7 講演会要旨

### (1) 秋季講演会

#### 「東北地方における縄文文化から弥生文化」

講師：斎野 裕彦 氏

(元仙台市教育委員会)

#### <はじめに>

皆さん、こんにちは。

本日は、北海道立埋蔵文化財センターの講演会にお招きいただき、ありがとうございました。

私が大学4年生の時、知床での発掘調査に参加いたしました。その翌年から、仙台市教育委員会で文化財主事として発掘調査等に携わるようになって、札幌、釧路、常呂など、北海道を訪ねることが多く、考古学に関してさまざまなことを学ばせてもらってきました。昨日も北大に行って、資料調査をしてきたところです。

こうして北へ足を運ぶのと同じくらい、若い頃から西、主に九州にも足を運び、東北地方の弥生文化研究を続けてきました。それは、地域の歴史を、自分たちの視点だけではなく、外から見つめる視点も大切にしていたからです。その点で北からの視点として、北海道は私にとって欠かせない地域になっているのです。

昨年3月に仙台市の再任用も終わり、それからは、見たかったけれども、なかなか見に行けなかった資料を調査してきましたので、今日は、そうした新たな知見を含めてお話していきたいと思えます。

冒頭のタイトルスライドには、札幌市H508遺跡出土の内面渦状土製品と唐津市大友遺跡の南海産のイモガイ製貝輪を示しました。H508遺跡の土製品の時期は縄文晩期末葉。ほぼ同じ頃、九州では既に弥生文化が成立していて、大友遺跡の貝製品の時期は弥生前期中葉です。東北地方の弥生文化の成立に、この土製品と貝製品が関連しているのではないか。という仮説を立てて、去年から追いかけているところです。私たちの年代観でいうと、縄文時代の終わりころ、晩期の後半くらいから、日本海を通る海上の道が活性化してきます。それをたどっていくと、九州地域と、北海道・東北地方とが、非常に密接な関係を持っていたことがわかるのです。地域は大きく離れていますが、年代・時期を比較しながら考えるために広域土器編年表を配布資料に入れてあります。参考にしてください。

さて、今日の話ですが、冒頭の土製品と貝製品を手がかりにして、縄文文化から弥生文化への移り変わりを説明したいと思います。内容を7項目に分けて、順に進めていきます。

1つ目は、福岡市にある板付遺跡。日本列島では一番古い水田跡が見つかった遺跡です。この遺跡の2023年3月にあった調査に参加する機会があったので、発掘調査の様子を紹介します。

2つ目は、南海産イモガイ製装身具の話。縄文文化の出土例は函館市戸井貝塚などにあり、続縄文文化では伊達市有珠モシリ遺跡にあります。

3つ目は、弥生文化を特徴づける遠賀川系土器です。この土器の分布は北海道には及んでいませんが、東北地方には多く認められます。

4つ目として、弥生文化、続縄文文化も含めて、他の地域の土器や石器に似ている資料が、模倣なのか、搬入なのかを考えます。

5つ目に、縄文文化から弥生文化へ、続縄文文化へ移り変わるのにつれて、石鏃と尖頭器の変化にどのような違いが出てきたのかを話します。

6つ目に、縄文文化から弥生文化への集落構造の変化について話します。

最後、7つ目に全体のまとめとして、石器や土器の変化、あるいは集落構造の変化が、どのような要因で生じているのか。北海道・東北地方に限らず、少し視野を広げて東アジアの中で考えてみます。

#### <地域区分と主な遺跡>

最初に、地域区分と主な遺跡をのせた配布資料(図版1)を見てください。A~Gに地域を分けています。海の一点鎖線は、8月の海面水温25度を示しています。日本海側は対馬暖流が流れて



▲図版1 地域区分と主な遺跡

いるので、男鹿半島ぐらいます。逆に太平洋岸は銚子沖くらいまでにとどまります。そのため、水田稲作を行ううえでBの東北地方の太平洋側は、気候的にあまり適さないのですが、発掘調査では、北緯40度を越えて弥生時代の水田が青森県の砂沢遺跡や垂柳遺跡等で見つかっています。寒冷地でも水田稲作を行う技術をもっていたのです。

目を韓半島に向けてみると、初期の水田稲作を行う遺跡は、南の方に偏り、北の方では見つかりません。その範囲は、半島の北緯37度線の南の方だけで、8月の海面水温25度のラインの南になります。

このように、水田稲作遺跡の分布は、地域により偏りがあることがわかります。韓半島では自然環境に適応して温暖な地域で水田稲作を行っていますが、日本列島では、そうした温暖な地域を超えて、より北方の東北地方でも水田稲作を行っていました。

### ＜各地域の時代・時期区分と土器編年＞

図版2の各地域の時代・時期区分と土器編年表は、さきほど講師紹介をしていただきました常務理事の鈴木信さんが書かれた本の編年観も参考にして作成しました。

このなかで、東北地方の弥生前期は、西日本の弥生前期（初頭・前葉・中葉・末葉）の時期区分における末葉の時期だけなので、前期（末葉）と標記することもあります。そして、西日本との関係で注意してほしいのは、板付遺跡等、九州で水田稲作が始まる頃の土器は、突帯文土器、型式名では夜臼式土器というのですが、この位置づけです。弥生早期とする研究者も多いのですが、それは縄文晩期で、次の板付I式土器の成立をもって弥生時代が始まるとする研究者もいるのです。私

地域	時代・時期	土器型式	編年
東北地方	弥生前期	板付I式土器	前期
	弥生前期	板付II式土器	前期
	弥生前期	板付III式土器	前期
	弥生前期	板付IV式土器	前期
関東地方	弥生前期	板付I式土器	前期
	弥生前期	板付II式土器	前期
	弥生前期	板付III式土器	前期
	弥生前期	板付IV式土器	前期
中国地方	弥生前期	板付I式土器	前期
	弥生前期	板付II式土器	前期
	弥生前期	板付III式土器	前期
	弥生前期	板付IV式土器	前期
四国・九州	弥生前期	板付I式土器	前期
	弥生前期	板付II式土器	前期
	弥生前期	板付III式土器	前期
	弥生前期	板付IV式土器	前期

※時代・時期区分は、従来編年2017『弥生時代の研究』(改訂版)に準じている。なお、本編年表は、本邦各地域の弥生時代の土器型式をまとめたもので、各地域の土器型式を個別に示している。また、本邦各地域の弥生時代の土器型式をまとめたもので、各地域の土器型式を個別に示している。また、本邦各地域の弥生時代の土器型式をまとめたもので、各地域の土器型式を個別に示している。

▲図版2 各地域の時代・時期区分と土器編年

もその一人です。そして、突帯文土器の時期から水田稲作が始まるのは、皆さんも認められるところですが、その始まりの年代をおよそ紀元前1000年とする研究者もいます。ですが、それよりも新しく、紀元前600~800年頃に落ちつきそうだと考える研究者も多く、私は紀元前600年頃と思っています。

なぜこのような推定年代の違いが生じるのかというと、<sup>14</sup>C年代測定法は、精度は高まってきているのですが、総合化する方法が確立していないことに要因があると考えられます。今日の話は、日本列島の土器の編年観にもとづいて進めていきます。

### ＜1 2023年3月板付遺跡の水田跡調査＞

皆さんも福岡に行かれた時は、福岡空港、昔の板付空港に降り立ったこともあったかと思えます。板付遺跡は、その空港の南西方向にあります。図版3の写真でわかるように、遺跡の東を三笠川が流れています。遺跡には環濠があって、復元整備がされています。この環濠が飛行機からも見えるのです。

環濠の西側で水田跡が見つかったのは、1977年の調査で、理事長の長沼孝さんは、その当時板付遺跡の調査に参加されていたようです。この調査区から西に50mくらい離れたところが2023年3月に調査されました(図版4)。そこの地形面は、100mで1.5mくらい下がる勾配があり、棚田状の水田が復元されています。私が参加したのは数日で、3月8、9日と22日でした。現地表面から発掘調査を行う遺構面まで、深さは3mほどです。この調査現場に、数年前まで愛媛大学の教授をしていた田崎博之さんがいて、連絡をもらって参加することになりました。この発掘調査で



▲図版3 2023年3月板付遺跡水田跡発掘調査区



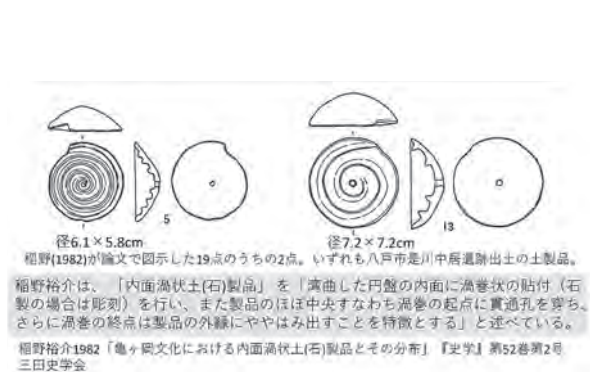
▲図版4 板付遺跡2023年3月調査地点と周辺調査区

は、複数時期の水田が調査されましたが、詳しい内容は、報告書の刊行を楽しみにしたいと思います。

## <2 南海産イモガイ製装身具と貝の道>

「内面渦状土(石)製品」は、稲野裕介さんが1982年に提唱した名称です。稲野さんが最初の論文で使用した実測図の一部が、図版5です。現在の私の研究成果では、右側に掲載した資料が新しく、左側の資料が古いと考えています。それは、縄文晩期の後半に、径7cmくらいの大型の内面渦状土(石)製品が現れるようになるからです。左側は八戸市の是川遺跡出土品で、径は5cmくらいで、詳しい時期がよくわかりませんが、渦の回転数や個体の大きさの違いで、分類できると考えています。渦巻きの中央部に穿孔して、紐を通して垂飾にしていたのでしょう。

イモガイで作られた製品は、縄文後期の戸井貝塚や礼文島にある船泊遺跡でも出土しているので、それらを模倣したと考えられます。その頃のイモガイの産地は伊豆諸島なのでしょう。



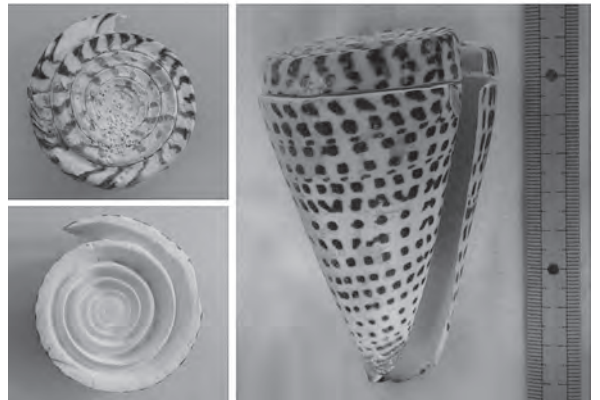
▲図版5 縄文文化とイモガイ 内面渦状土(石)製品

## <内面渦状土(石)製品の製作と名称>

イモガイで作られた装身具は、図版6のように巻貝の上の部分を取り取って製作しており、それを模倣して製作した土製品、石製品が、内面渦状土(石)製品です。これをイモガイ形土(石)製品と呼ぶ研究者もいるのですが、稲野さんは、不適切な名称である。という論文を書いている、理由として、イモガイの形をしていないからと主張しています。同感です。

石製品には、縄文晩期中葉後半の仙台市川前遺跡出土資料、縄文晩期後葉から末葉の宮城県蔵王町鍛冶沢遺跡出土資料があります。これらは、かなり細かく渦を刻んでいます。図版7の川前遺跡の大きな資料は、土偶や石刀などとともに、生活の場ではなく、盛土遺構から見つかっています。

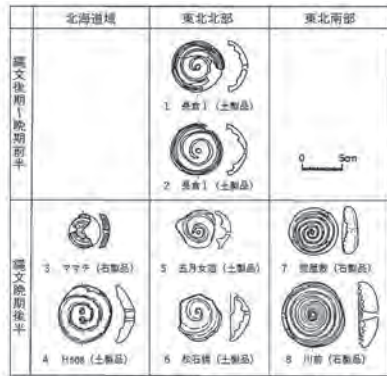
皆さんにお渡しした図版8の資料をご覧ください。縄文晩期の後半になると、分布域が拡大し、4、6、8のような大きな資料が現れます。ただし、この時期にも小型の資料も見つかっています。では、なぜ晩期の後半にこのような変化がみられるのでしょうか。そこで北海道でも資料調査



▲図版6 イモガイ(アンボンクロザメ)



▲図版7 川前遺跡の縄文晩期中葉の遺物



第9図 縄文後期～晩期の内面渦状土(石)製品

▲図版8 縄文晩期後半分布域の拡大・大型化・厚手化



▲図版9 札幌市H508遺跡4a層・4b層

を重ねてきました。

まずは、H508遺跡の4b層から出土した内面渦状土製品。図版9のように、4b層からは縄文晩期の土器、4a層からは続縄文初頭の土器が見つかっています。土器は、続縄文時代になり、多少口縁部分が外反する傾向がみられます。それに東北北部の弥生初頭の砂沢式土器が伴っています。4b層の内面渦状土製品は、晩期の終わり頃と考えられます。札幌市には、続縄文初頭の遺跡としてH37遺跡があり、土器群に口縁部の外反もみられ、砂沢式土器が伴っており、東北北部の弥生文化との関係がうかがわれます。

次に、この会場のある北海道立埋蔵文化財センターへ、千歳市ママチ遺跡の石製品を見に来ました。内面渦状石製品が2点あり、その調査の折、長沼さんから同じような石製品が千歳市梅川4遺跡からも出土しているとご教示いただきました。資料調査は手続きを踏まなければいけないので、改めて申請書を出して、再び調査に来た経緯があります。ママチ遺跡の資料2点(図版10・11)のうち、1点は中央に穿孔しており、もう1点は



▲図版10 千歳市ママチ遺跡第I黒色土層(第Ⅲ層)



▲図版11 千歳市ママチ遺跡第I黒色土層(第Ⅲ層)



▲図版12 千歳市梅川4遺跡イモガイ(アンボンク ロザメ)

2か所穿孔していました。第1黒色土層出土で、時期は縄文晩期後葉～末葉です。梅川4遺跡の資料(図版12)は、中央に穿孔しています。

そして、釧路市幣舞遺跡では、41号墓(縄文晩期末葉から続縄文初頭)から内面渦状石製品が1点出土しています。完形ではなく、残存部分に穴が1か所ありますが、中央からずれた位置に穿

孔しているのです、おそらくこの資料は、2か所穿孔と考えられます。

こうしてみると、北海道には、2か所穿孔の内面渦状土(石)製品が多いように思われます。

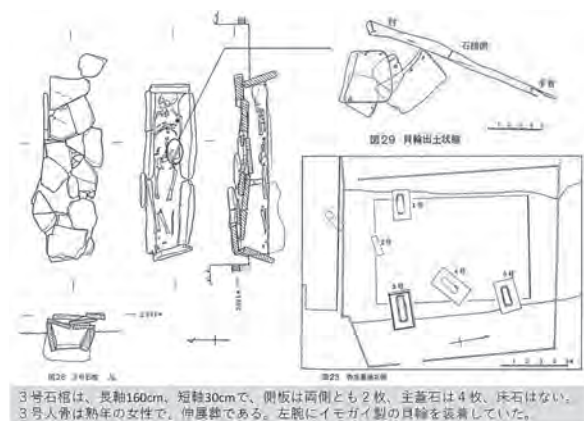
＜縄文晩期後半 西の貝の道の活性化＞

図版13のように、縄文後期から晩期にかけて、伊豆諸島から東北・北海道にもたらされる東の貝の道がありましたが、縄文晩期後半になると、伊豆諸島では採集できない大きなイモガイで作った製品を模倣したような資料が見つかり始めます。そうした大きな貝の原産地が沖縄付近であることから、西の貝の道がより活性化したと考えられます。沖縄付近ではイモガイを集積している遺跡が見つっています。そこへ玄界灘沿岸部の九州の人たちが来て、それらの貝を九州まで運び、加工して貝輪などを製作しました。佐世保市宮の本遺跡では、図版14のように、お墓の中に貝輪を装着した人が葬られていました。



第10図 貝の道の概念図と主な内面渦状土(石)製品出土遺跡の分布

▲図版13 縄文晩期後半西の貝の道の活性化



▲図版14 佐世保市宮の本遺跡3号石棺(3号人骨)

＜内面渦状土(石)製品の変化とその要因＞

内面渦状土(石)製品は縄文後期に出現し、晩期中葉前半(大洞C1式期)以前は主に東北部に分布し、大きさは径4～6cm前後で、大洞C2式期以降は、北海道と東北南部に広がり、厚手でより大型(径7cm前後以上)の製品が含まれるようになります。

厚手で大型のイモガイは、伊豆諸島では、南部以南に生息していますが、遺跡からは出土していません。そのため、この変化は貝の生息地に起因すると理解され、南西諸島のイモガイの中で、嘉門貝塚でも集積対象だったアンボンクロザメやクロフモドキに相当し、北部九州では突帯文期になると、それらを用いて貝輪を製作し、東北には、原材となる貝が日本海側を北上してもたらされ、厚手化・大型化した内面渦状土(石)製品を製作するようになったと考えられます。

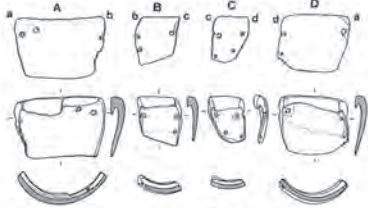
東北の縄文晩期中葉は、九州北部では縄文晩期後半～突帯文期に相当し、半島からさまざまな情報が流入してきます。突帯文期に水田稲作が始まり、その技術や関連物資がイモガイとともに東北にもたらされる一方で、北部九州などで亀ヶ岡系土器が出土しているように、双方向的な交渉がありました。

＜弥生文化・続縄文文化とイモガイ＞

有珠モシリ遺跡7号墓(改葬墓)から出土したイモガイ製の装身具7点(続縄文文化前半)は、図版15のように、接合して半円状の3点に復元できます。類例には、図版16のように、宮の本遺跡の3号石棺(箱式)に伸展葬で埋葬されていた3号人骨(熟年女性)の左腕に装着されていたイモガイ製ヨコ型貝輪1点(割れた4点を繋ぐ紐孔



▲図版15 有珠モシリ遺跡7号墓出土イモガイ製装身具3点

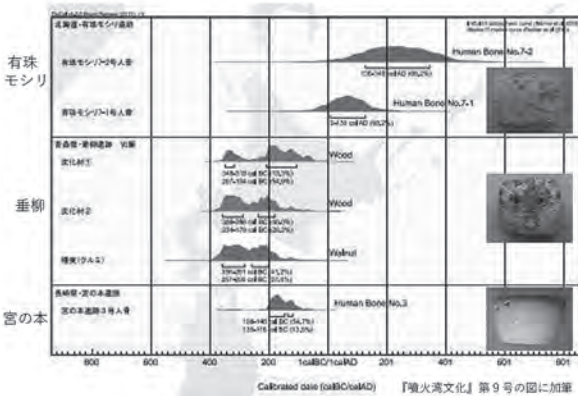


宮の本遺跡3号人骨装着  
佐世保市宮の本遺跡3号箱式石棺に埋葬されていた3号人骨(熟年女性)は、左腕にイモガイ製ヨコ型貝輪(4片よりなり、小穴が設けられて紐繋ぎ)を装着していた。長く使われていたため、いずれも側面は磨滅しており接合はしない。  
佐世保市教育委員会1986『宮の本遺跡』

▲図版16 弥生文化・続縄文文化とイモガイイモガイ製ヨコ型貝輪と類例



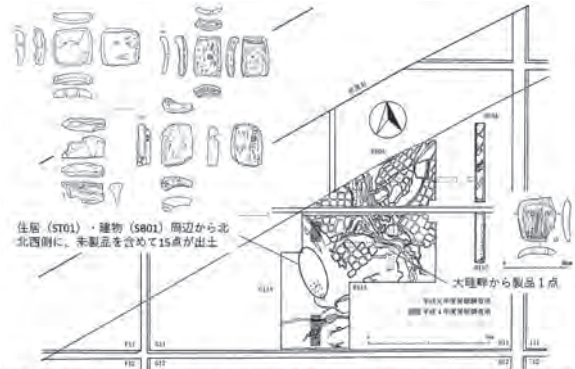
▲図版17 2015年『噴火湾文化』第9号



▲図版18  $^{14}\text{C}$ 年代測定値(較正年代)と貝製品・石製品

がそれぞれの側縁部にある：報告書では時期は弥生前期末葉)があります(図版17)。両者の時期差は大きいのですが、 $^{14}\text{C}$ 年代測定値では、200~400年の年代差になっています(図版18)。

また、類似する石製品が、垂柳遺跡で複数出土しており(弥生中期前葉~中葉)、両者との関連性が注目されます。垂柳遺跡の石製品は、図版19のように、水田のすぐ近くから出土していま



田舎館村教育委員会1990『垂柳遺跡発掘調査報告書(5)』田舎館村埋蔵文化財調査報告書第5集  
田舎館村教育委員会2009『垂柳遺跡発掘調査報告書(13)』田舎館村埋蔵文化財調査報告書第16集

▲図版19 垂柳遺跡石製品出土地点

す。住居(ST01)・建物(SB01)周辺から未製品を含めて15点が出土しており、そこで製作もしていたようです。

### <有珠モシリ遺跡のイモガイ製品>

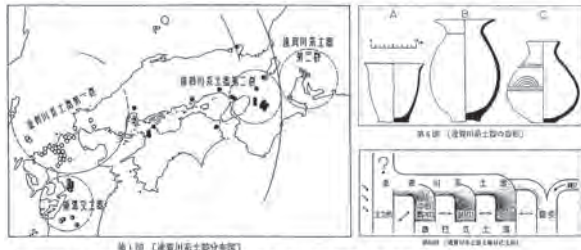
九州北部のイモガイ製ヨコ型貝輪には、有珠モシリ7号墓(改葬墓)から出土した貝製品3点のような二個一対の穿孔がなされた例はありません。有珠モシリ貝製品3点は復元しても半周程度で、二個一対の穿孔は、殻頂側の側縁寄りにあることから、イモガイの殻頂側を上にした垂飾用の紐孔の可能性があります。

そして、有珠モシリ貝製品3点はいずれも折れ面で接合します。接合資料の側面と折れ面では磨滅の程度が異なっており、折れた後に必要な穿孔を行い、紐で繋いで再び用いられた可能性があります。それらの形態は垂柳遺跡の石製品と類似しています。

### <3 遠賀川系土器と水田稲作の開始>

小林行雄さんは、1933年10月に書いていた論文「遠賀川系土器東漸形態研究」において、仮称「遠賀川系土器」を提唱し、それらが最古の弥生土器として斉一性をもって西日本に広がり、伊勢湾地域を東限とする分布を複数の図を用いて明らかにしています(図版20)。東北地方では、1980年代になってから遠賀川系土器が確認されてきています。

図版21の写真に見えているのが遠賀川。河口から少し入ったところに橋があって、その左横くらいに立屋敷遺跡があります。そこから出土した土器が遠賀川式土器と呼ばれています。それと様式特徴を同じくして他地域へ広がった土器が遠賀川系土器です。



小林行雄2005「遠賀川系土器東漸形態研究」『小林行雄考古学選集1』真福社  
 小林行雄は、1933年10月に書いた論文「遠賀川系土器東漸形態研究」において、仮称「遠賀川系土器」を提唱し、それらが最古の弥生土器として斉一性をもって西日本に広がり、伊勢湾地域を東限とする分布を複数の図を用いて明らかにしている。その後、1980年代以降、東北地方で遠賀川系土器が確認されてきている。

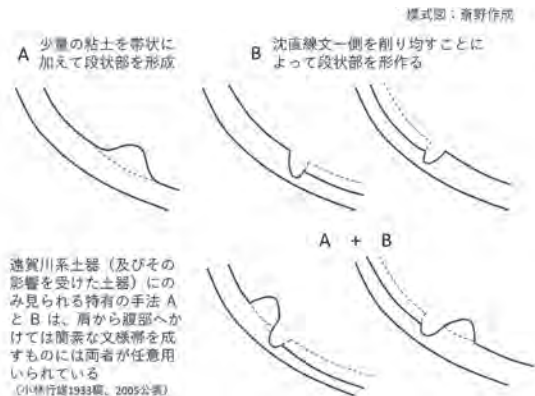
▲図版20 板付I式土器の成立と遠賀川系土器



▲図版21 九州地方北部

＜遠賀川系土器の様式標徴：段状部の理解＞

遠賀川系土器（及びその影響を受けた土器）にのみ見られる特有の手法「段状部」（AとB）は、図版22のように、肩から腹部へかけて簡素な文様帯を成すものには両者が任意に用いられています（小林行雄1933稿、2005公表）この手法は、亀ヶ岡式土器にもみられ、両者には関係があると考えられます。



▲図版22 遠賀川系土器の様式標徴：段状部の理解

＜大洞A'式期の遠賀川系土器ほか＞

東北地方の遠賀川系土器の壺には、九州地方のように頸部と段をもつものと、頸部が短めで段をもつものの2種類があります。段状部は、北部九州において前期初頭の板付I式土器の成立に伴う特徴で、西日本の遠賀川系土器には前期後葉まで認められ、前期末葉になる傾向にあります。東北では、段状部を形成する手法は亀ヶ岡式土器には一般的な特徴で、縄文晩期末葉の大洞A'式期に出現する遠賀川系土器の壺にもみられ、弥生前期（末葉）になる傾向にあります。

東北の遠賀川系土器の壺の器形には、図版23のように、搬入品の1種と、この地域で作られた2種があり、ほとんどが2種です。その理由として、1種の器形は亀ヶ岡式土器に存在し、板付I式土器の壺の器形に共通し、後に2種の器形とともに遠賀川系土器として東方へ広がる経緯が、東北では認識されていたため、2種を新たな器形として受け入れたと考えられます。

＜遠賀川系土器 海峡以北と以南＞

内面渦状土（石）製品は、弥生前期（末葉）、続縄文初頭には姿を消します。東北地方では、図版24のように、遠賀川系土器の壺2種が、内面渦状土（石）製品が存続している大洞A'式期に出現し、八戸市畑内遺跡で確認できます。この遺跡は弥生前期の砂沢式期まで営まれており、設楽博己さんたちの研究で、砂沢式期の遠賀川系土器にイネの糲圧痕を検出しています。

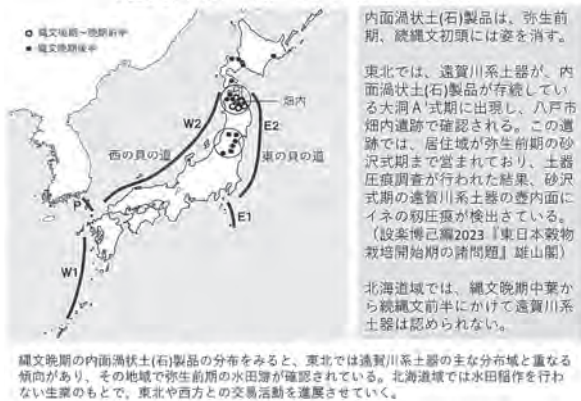
北海道では、縄文晩期中葉から続縄文前半にかけて遠賀川系土器は認められません。

縄文晩期の内面渦状土（石）製品の分布をみると、東北では遠賀川系土器の壺の主な分布域と重なる傾向があり、その地域で弥生前期の水田跡が



「段状部」は、北部九州において前期初頭の板付I式土器の成立に伴う特徴であり、西日本の遠賀川系土器には前期後葉まで認められ、前期末葉になる傾向にある。東北では、「段状部」を形成する手法は亀ヶ岡式土器には一般的な特徴で、縄文晩期末葉の大洞A'式期に出現する遠賀川系土器の壺にもみられ、弥生前期（末葉）にはなくなる傾向にある。東北の遠賀川系土器の壺の器形には、搬入品の1種と、この地域で作られた2種があり、ほとんどが2種である。その理由として、1種の器形は亀ヶ岡式土器に存在し、板付I式土器の壺の器形に共通し、後に2種の器形とともに遠賀川系土器として東方へ広がるが、東北ではそうした経緯が認識されていたため、2種を新たな器形として受け入れたと考えられる。

▲図版23 大洞A'式期の遠賀川系土器ほか



▲図版24 遠賀川系土器海峡以北と以南

営まれています。北海道では、水田稲作を行わない生業のもとで、東北や西方との交易活動を進展させていきます。

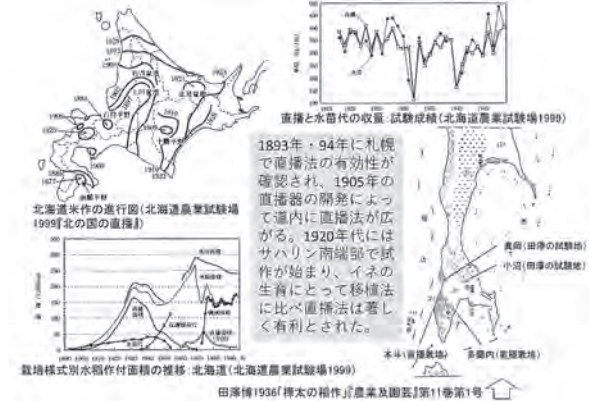
縄文晩期には、西の貝の道でイモガイなどの交易品が東北・北海道に伝わるのとは逆に、東北地方の土器などの情報が西日本にも伝わっていきます。また、東北と北海道の地域間の関係は、縄文晩期後葉までは土器の文様の共通性などが認められますが、晩期末葉になると交流は停滞し、弥生時代、続縄文時代の初めには、地域色が強くなります。北海道では、水田稲作は行わず、コハク製の平玉が多くみられるようになり、東北地方では、遠賀川系土器を製作し、水田稲作を行うようになり、大陸系管玉が現れます。

<水田稲作技術と水田域の拡大>

東北では、21遺跡で弥生水田が見つかります。前期（末葉）の水田は、弘前平野の砂沢遺跡、仙台平野の元袋遺跡、富沢遺跡で確認されています。仙台平野と弘前平野には、緯度や冬の降雪量に違いはありますが、水稲耕作を行う4月から10月までの気候条件は、ほぼ同じです。

<近代の北海道・サハリンの水田稲作>

近代の北海道の水稲耕作技術で注目されるのが、1910年代から30年代にかけて普及した直播栽培です。図版25のように、1893年・94年に札幌で直播法の有効性が確認され、1905年の直播器の開発によって道内に直播法が広がります。これは、札幌周辺の2か所の農業試験場で試されて、成功したことによります。1920年代にはサハリン南端部の農業試験場で試作が始まり、イネの生育にとって移植法に比べ直播法は著しく有利とされました。理由は、田植えをする場合、根を



▲図版25 近代の北海道・サハリンの水田稲作

一度切ってしまうので、植えたいみが発生し、それによって生育期間が長くなるのが寒冷地ではリスクとされたからです。この直播法は、苗代技術が普及すると、1930年代以降、衰退していきます。

<富沢遺跡の弥生前期～中期中葉の水田域>

これまでの40年の調査成果をまとめてみると、図版26のように、弥生前期（末葉）の富沢15次13b層水田跡は北東部で見ついています。小区画の水田で、1,000㎡くらいの水田域しかありません。弥生中期前葉になると、水田域は3か所に増え、面積もそれぞれ数haになります。弥生中期中葉には、面積が10hから20hという規模の水田に拡大していきます。

<生業の再編と水田の特徴>

仙台平野では、弥生前期（末葉）に小規模な水田が営まれており、複数の類型が認められます。集落を維持しながら生業を再編していく過程で、当初は試行的な水田稲作を行い、その中で、寒冷



▲図版26 富沢遺跡の弥生前期～中期中葉の水田域

地に適応したⅡB類の水田類型を主とするようになります。この類型は、開田地の地形面の勾配を重視する水田で、低平な地形面に小さな水田区画をたくさん作って、点播によるイネの直播栽培が行われていました。それによって中期前葉から中葉にかけて、水田域を徐々に拡大しながら、集落群は沿岸部へ進出し、水田稲作を主として集約的で安定した農耕集落が広く営まれていました。

東北地方には、ⅡB類の水田が、富沢遺跡だけではなく、垂柳遺跡にもあります。東アジアの中で、韓半島にはなく、東北地方に認められる点で、寒冷地において稲を生育させる工夫だったと考えられます。

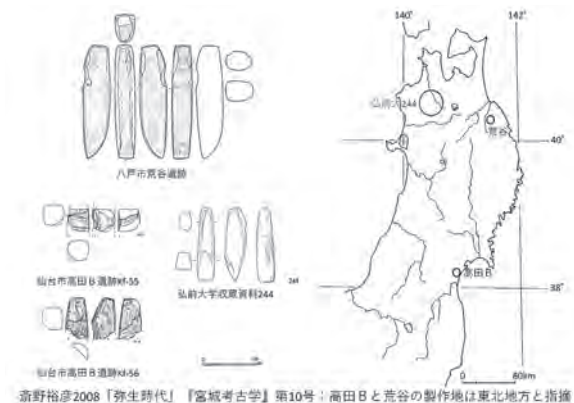
#### < 4 搬入品と模倣品 >

##### < 挿入柱状片刃石斧 >

東北では、挿入柱状片刃石斧が4点出土しています(図版27)。八戸市荒谷遺跡の挿入柱状片刃石斧は、時期は前期(末葉)で、長さ20数cmの大型です。後主面に挟りがあり、平面形には、上から見るとエンタシス状に膨らむ特徴があります。横断面の角には1~2mm幅で面取り加工をしています。弘前大所蔵の挿入柱状片刃石斧にも同じ特徴がみられます。

福岡県の京都(みやこ)平野にある行橋市下稗田遺跡から数多くの挿入柱状片刃石斧が出土しています。石斧は、下から見ると側縁はまっすぐで、角の面取り加工はありません。側面は、定規をあててみると、ほぼ平らです。石材の多くは、平行に節理が発達しており、この石質を利用して方柱状の石斧を効率よく製作し、破損しても上手に再利用していました。

九州地方北部と東北地方の2つの地域での挿入柱状片刃石斧の特徴を比較してみると、図版28



▲図版27 東北地方の挿入柱状片刃石斧

項目	東北地方	九州地方北部
a 横断面側面のふくらみ	有り	無し
b 主面側縁の稜の面取り	有り	無し
c 主面の両側縁の平面形	やや弧状にふくらむ	直線平行
d 前主面の縦断面形	直線・弧状	直線・弧状
e 挟り部の緊縛用溝	無し	有り・無し
f 刻み目状敲打痕	無し	有り

いくつかの項目で両地域の挿入柱状片刃石斧を比べると、東北地方には、aとbが認められ、cは、やや弧状にふくらみ、形態が異なっている。これらは、東北地方の定角式石斧に認められる特徴と類似しており、東北地方の挿入柱状片刃石斧は、この地域で製作されたことを示している。

石材や土器の胎土の産地同定は、そのための全球的な辞書を作成することから始める必要がある。現状では、地球科学的な研究水準の適用範囲は限定的であり、その向上をはかりながら、考古学的な研究を積み重ねていくべきであろう。

#### ▲図版28 挿入柱状片刃石斧の地域性

のように、製作方法に違いが認められ、形態も異なっていました。そして、東北地方の挿入柱状片刃石斧は、縄文時代の定角式石斧に認められるいくつかの特徴と類似しており、この地域で製作していることがわかります。

##### < 石製農具 >

仙台平野では、石庖丁で稲の穂首を刈って、穂首刈りが終わると、大型直縁刃石器で根から刈りにとって藁などを利用していました。これを二度刈りといい、民族事例があります。水田跡を調査すると、これらの石器が出土します。日本列島全体でみると、図版29のように、石庖丁のある地域に、大型直縁刃石器もあります。中部、関東地方ではあまり出土していません。

図版30は、実験の様子です。仙台平野の石庖丁は、有孔磨製の外湾刃が多い。大型直縁刃石器には、Ⅰ類：打製、Ⅱ類：刃部磨製、Ⅲ類：磨製(大型石庖丁)があり、多くは板状節理を有する安山岩で製作したⅠ類の板状石器です。石庖丁の使い方として、図版30左のように穂首を刈ります。顕微鏡による使用痕分析を行うと、イネと接



▲図版29 石製農具

石庖丁でイネの穂を摘み、その後、大型直縁刃石器で根を刈る二度刈りが行われた。



仙台平野の石庖丁は、有孔磨製の外湾刃が多い。大型直縁刃石器には、Ⅰ類：打製、Ⅱ類：刃部磨製、Ⅲ類：磨製（大型石庖丁）がある。仙台平野では、板状節理を有する安山岩で製作されたⅠ類の板状石器が多い。

### ▲図版30 石庖丁と大型直縁刃石器（複製石器）の使用実験

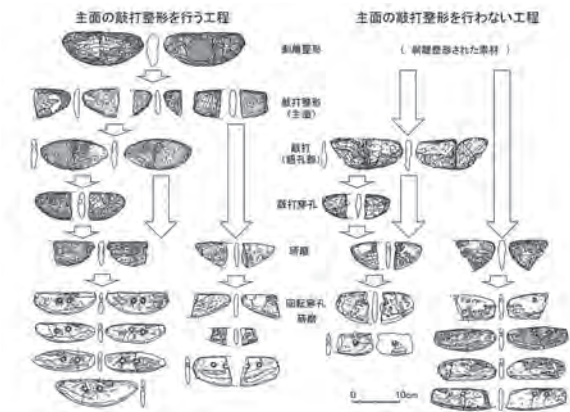
触した範囲にイネなどを刈ると形成される使用痕光沢面が確認できます。図版30右が根を刈る様子。根を刈るときには、根株の厚さに対して幅の広い大型の石器が効率的です。幅が狭いと根株に石器をもった手が当たってしまうからです。顕微鏡で観察すると、イネ科植物によく見られる特徴的な使用痕光沢面が確認されて、その表面には石器の運動方向を示す横方向の線状痕も認められます。

### <高田B遺跡の石庖丁製作工程（前期～中期中葉）>

仙台平野の高田B遺跡の石庖丁製作工程（図版31）。素材に対して敲打による整形の有無で大別、さらに紐孔の穿孔方法によって細別されます。弥生中期中葉まで、複数の製作方法があったことがわかります。

### <木製農具>

図版32の5・6は仙台平野の木製の鋤身です。



### ▲図版31 高田B遺跡の石庖丁製作工程（前期～中期中葉）

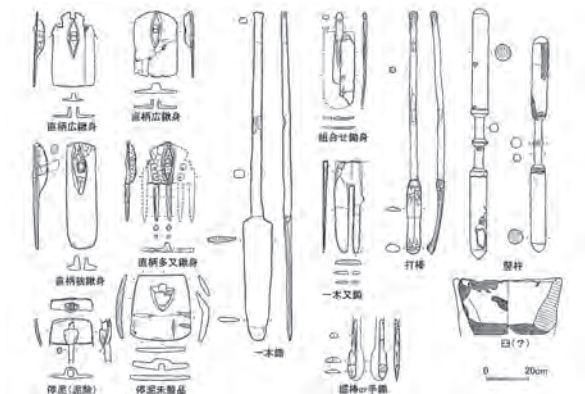


### ▲図版32 木製農具

庇ゲタ仕様で、緊縛柄孔と紐掛側縁仕様を併用し、舟形隆起は上下対称形という形態の共通性から、京都市の北九州市長野小西田遺跡の1・2と形態が共通します。1・2は弥生前期末葉と考えられるので、その時期に、東北は、東北部九州と、広鋤、狭鋤、多又鋤を直接共有していました。こうした木製の鋤身は、北部九州には認められないので、仙台平野の木製農具のルーツは、北九州市域とその周辺の東北部九州にあるといえます。そして、図版33の仙台平野の弥生中期中葉の木製農具を見ると、弥生前期の形態を残しているのがわかります。図版34には、中在家南遺跡の広鋤（単体）、狭鋤（単体）、泥除（単体）の製作工程を示しました。広鋤は、弥生前期には単体で1個ずつ作っていますが、弥生中期前葉になると、連式で作る方法も併存します。連式は、中期に北陸地方から伝わったと考えられます。

### <大型蛤刃石斧>

仙台平野と東北部九州には、前述の弥生前期の木製農具（鋤身）とともに、石斧（大型蛤刃石斧）にも形態的な類似性が認められます（図版35）。



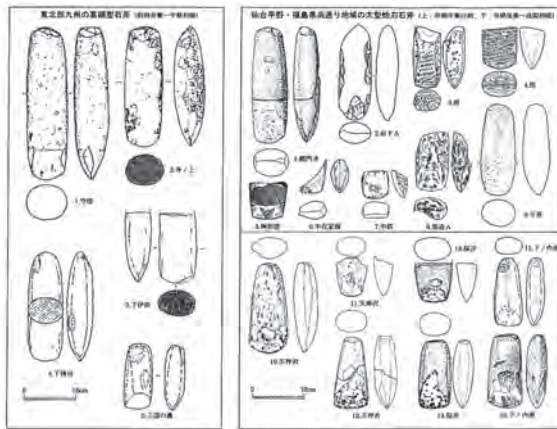
### ▲図版33 仙台平野の木製農具と農具



▲図版34 中在家南遺跡の直柄平鋏・泥除製作工程



▲図版35 太型蛤刃石斧  
仙台平野と東北部九州には、前述の弥生前期の木製農具（鋏身）とともに、石斧（太型蛤刃石斧）に形態的な類似性が認められる。



▲図版36 仙台平野の太型蛤刃石斧

図版36左は、東北部九州の高槻形石斧（前期末葉～中期前半）、図版36右上はそれに類似する仙台平野・福島県浜通り地域の太型蛤刃石斧（前期末葉～中期中葉）です。横断面は円形～楕円形、器体中位に最大径があります。

仙台平野では、弥生中期中葉に大きな震災があり、地震と津波で沿岸部の集落がすべて廃絶してしまいます。それ以降、石斧の形態が変わって

くことがわかっています。図版36右下のように、断面形は楕円形で、刃部に近い位置に最大径があります。この石斧の形態は、長野県や関東地方の石斧と類似しています。

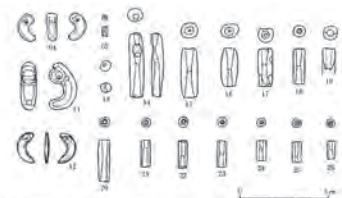
### <大陸系管玉>

大陸系管玉は、列島では、唐津市菜畑遺跡のように、突帯文期から認められます（図版37）。14～16は、エンタシス状にややふくらみ、漏斗状の穿孔がなされる縄文系管玉（長崎ヒスイ製等）、05・17～26は、側縁、穿孔が直線的な大陸系管玉（碧玉製）です。碧玉製の大陸系管玉は、列島では、弥生中期前葉になって西日本での製作が始まるため、それ以前は半島からもたらされており、東北地方でも出土しています。

宮城県大崎市の根岸遺跡から、大陸系管玉が1点出土しています。1998年に、地底の森ミュージアムの企画展で展示され、時期は縄文晩期後葉～末葉と紹介されています。長さ13.1mm、幅5.2mm、孔径2.8mm、うすい緑色の凝灰岩製です。近年、この大陸系管玉が出土したAR100・6a層の土器の検討が行われ、一部、弥生前期の青木畑式土器が含まれていることがわかったので、現状では、この管玉の時期は、縄文晩期後葉～末葉で、弥生前期（末葉）の可能性もあると理解しておきたいと思います。

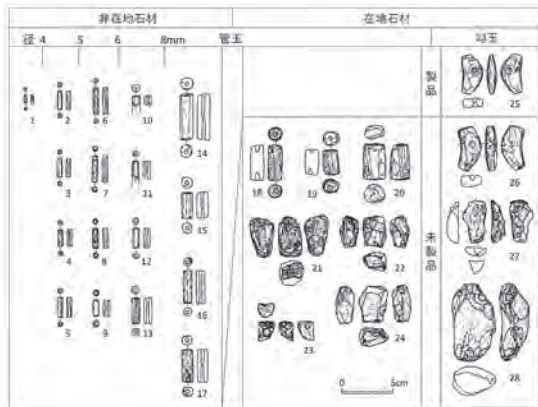
弥生前期（末葉）の大陸系管玉は、八戸市是川中居遺跡の土器棺墓（4号埋設土器）の棺内から10点見つかっています。径は7～8mmの太型です。すべて折れていて、折れた面同士は、摩擦が進んでいて接合しませんが、折れた後も利用していたようです。

高田B遺跡では、弥生前期から中期までの時期幅はありますが、管玉には図版38のように碧玉製の製品と緑色凝灰岩製の未製品があります。製

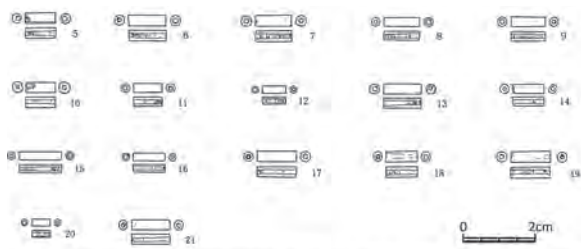


▲図版37 大陸系管玉  
唐津市菜畑遺跡の突帯文期の玉類（04・11・12：勾玉 13：小玉 05・14～26：管玉）  
 半島を故地とする大陸系管玉は、列島では、菜畑遺跡のように、突帯文期から認められる。14～16は、エンタシス状にややふくらみ、漏斗状の穿孔がなされる縄文系管玉（長崎ヒスイ製等）、05・17～26は、側縁、穿孔が直線的な大陸系管玉（碧玉製）である。碧玉製の大陸系管玉は、列島では、弥生中期前葉になって西日本での製作が始まるため、それ以前は半島からもたらされていた。  
 唐津市1982【菜畑遺跡】

▲図版37 大陸系管玉



▲図版38 高田B遺跡の管玉・勾玉



弥生中期前葉の二枚橋式期の土壙墓 (SK85) に伴う。長さは5.2mm~12.0mm、幅は1.8mm~3.1mm。調査区内からは遠賀川系土器が破片で数点出土している。

東北では、弥生前期から中期前葉にかけて、碧玉製の太型管玉 (幅6mm以上) と細型管玉 (幅6mm未満) が、墓からまとまって見つかることがある。北海道域では、続縄文切頭から、コハク製玉が、墓からまとまって見つかるようになり、その後、大陸系管玉も伴う。

▲図版39 むつ市二枚橋(1)遺跡の大陸系管玉

品は太型と細型があります。未製品の18~20は両側から穿孔され、途中で終了しています。これは、この地域の石材で模倣しようとしたけれども、自分たちの技術では穿孔できず、製作をあきらめたことを示しているのでしょう。

むつ市二枚橋(1)遺跡では、弥生中期前葉の二枚橋式期の土壙墓 (SK85) に細型の大陵系管玉が伴っています (図版39)。すべて碧玉製で、長さは5.2mm~12.0mm、幅は1.8mm~3.1mm。調査区内からは遠賀川系土器が破片で数点出土しています。

このように、東北地方では、弥生前期から中期前葉にかけて、碧玉製の太型管玉 (幅6mm以上) と細型管玉 (幅6mm未満) が、墓からまとまって見つかることがあります。同じ頃、北海道では、続縄文切頭から、コハク製玉が、墓からまとまって見つかるようになり、やや遅れて大陸系管玉も伴うようになります。

### <磨製石剣>

半島を故地とする磨製石剣 (図版40) は、列島では、栗畑遺跡2のように、突帯文期から認められます。福岡県糸島市の曲り田遺跡では突帯文期の製品とともに未製品も出土しており、初期段階から搬入された石剣と列島でそれを模倣して製作した石剣があります。

東北地方では、宮城県丸森町の河原岡遺跡で、1点、磨製石剣が見つっています (図版41)。石材は東北地方にはない層灰岩とみられ、搬入品と考えられます。この図は長沼さんの論文を引用しています。遺跡は、阿武隈川中流域に位置し、図版42のように、東北南部の内面渦状土 (石) 製品の分布範囲内にあります。西の貝の道を通じて西方からもたらされた物資のなかには、イモガイや大陸系管玉などとともに、磨製石剣も含まれていたのでしょう。

### <5 石鏃と尖頭器の変化>

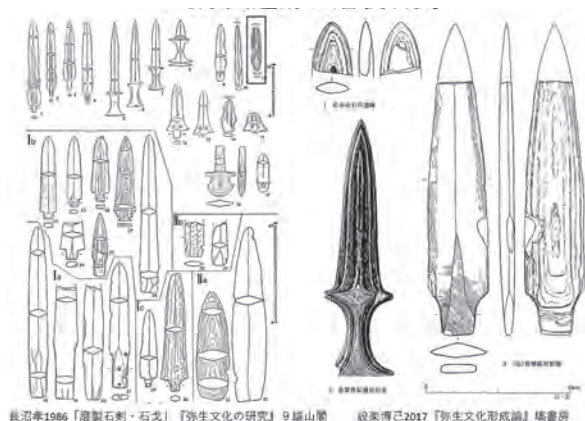
宮城県大崎市の北小松遺跡では、約4,500点の石器 (石核・剥片を除く) が出土しており、狩猟具とされる石鏃・尖頭器の割合は10%前後です。



唐津市栗畑遺跡の磨製石剣 (1・3: 弥生前期 2: 突帯文期)

半島を故地とする磨製石剣は、列島では、栗畑遺跡2のように、突帯文期から認められる。糸島市の曲り田遺跡では突帯文期の製品とともに未製品も出土しており、初期段階から、船載されてきた石剣と列島で製作した石剣が存在する。  
長沼 幸1986『石の兵器』『弥生文化の研究9 弥生人の世界』雄山閣

▲図版40 磨製石剣



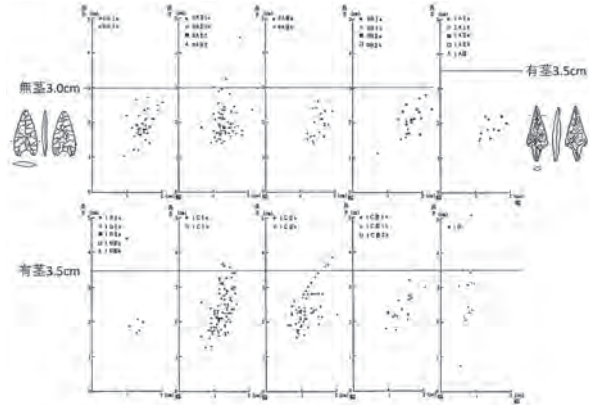
▲図版41 河原岡遺跡の磨製石剣



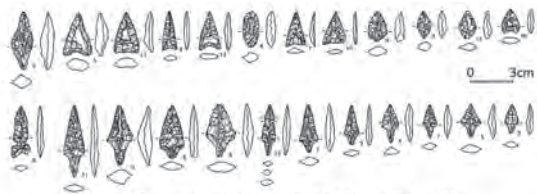
遺跡は、阿武隈川中流域に位置し、東北部の内面潟状土(石)製品 の分布範囲内にある。  
 西の貝の道を通して西方からもたらされた物資のなかには、イモガイや大陸系管玉などとともに、磨製石剣も含まれていたのだろう。  
 河原田遺跡の磨製石剣は採集品であるが、そこから出土した状況は詳細に報告されている(伊東1950)。

伊東信雄1950『東北地方の弥生式文化』『文化』8

▲図版42 河原田遺跡の位置



▲図版44 石鏃の長さとお幅(縄文後期~晩期中葉:宮城県田柄貝塚)

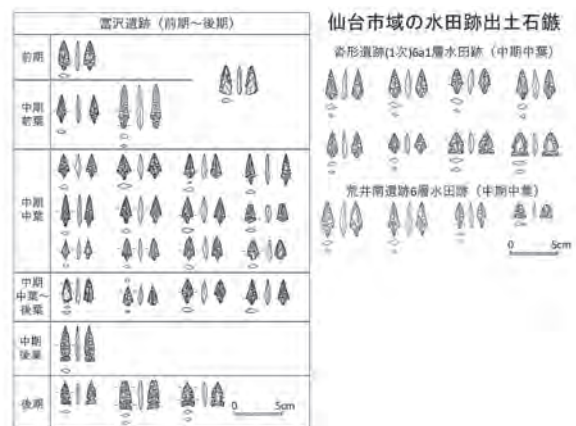


大崎市北小松遺跡の石鏃(縄文晩期中葉~弥生前期)

北小松遺跡では、約4500点の石器(石核・剥片を除く)が出土しており、狩猟具とされる石鏃・尖頭器の割合は10%前後である。石鏃には、長さや形態に多様性が認められ、基部の形からは、有茎石鏃、無茎石鏃(平基、凹基、円基等)に大きく分けられる。そのほか、アメリカ式石鏃が1点出土している。

宮城県教育委員会2021『北小松遺跡(ほか)宮城県文化財調査報告書第225集』

▲図版43 大崎市北小松遺跡の石鏃(縄文晩期中葉~弥生前期)



▲図版45 仙台市域の水田跡出土石鏃

石鏃には、図版43のように、長さや形態に多様性が認められ、基部の形からは、有茎石鏃、無茎石鏃(平基、凹基、円基等)に大きく分けられます。そのほか、アメリカ式石鏃が1点出土しており、弥生前期には出現していることが明らかになりました。

宮城県田柄貝塚(縄文後期~晩期中葉)では、有茎石鏃の長さは、多くが3.5cm以下に収まることがわかっています(図版44)。川前遺跡では、晩期中葉の盛土遺構から、それより長い石鏃も比較的多く出土していますが、弥生時代になると、長い石鏃がほとんど見られなくなる変化があります(図版45)。そして、仙台平野では、縄文時代に山形県域の最上川流域に産出する良質の珪質頁岩が多く用いられていましたが、弥生時代になるとその数は少なくなり、図版46のように、それらの剥離面に風化度(パティナ)の違いも認められるようになります。

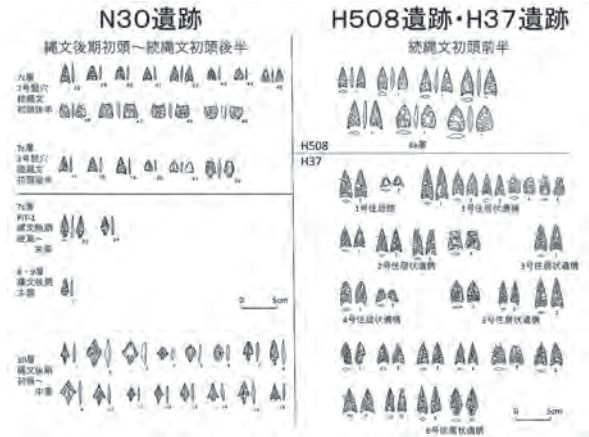
北海道では、有茎石鏃より平茎式が多くみられます。道央から道北・道東にかけては、続縄文時代になると、平茎式になります(図版47)。弥生初頭の東北地方では、ほとんどが有茎石鏃になる



▲図版46 富沢遺跡と高田B遺跡の石鏃

ので、これらの地域と石鏃の形は全く違うことがわかります。

次に、尖頭器をみると、北小松遺跡で石器が最も多く出土した東7地点南遺物包含層では、その数は1,274点(石核・剥片を除く)で、狩猟具は約10%の118点です。内訳は、石鏃が105点、尖頭器が13点(図版48)と、その割合はおよそ10:



▲図版47 N30遺跡・H508遺跡・H37遺跡出土の石鏃



大崎市北小松遺跡の尖頭器（縄文晩期中葉～弥生前期）  
北小松遺跡で石器が最も多く出土した東7地点両遺物包含層では、その数は1274点（石核・剥片を除く）で、狩猟具は約10%の118点である。内訳は、石鏃が105点、尖頭器が13点と、その割合はおよそ10：1である。尖頭器は、石鏃より先端角が大きく、厚みもあり、槍先に装着された石器と考えられ、小型品から重量感のある大型品まである。その重さは、多くは10g以下であるが、40gを超えるものまである。  
宮城県教育委員会2021『北小松遺跡ほか』宮城県文化財調査報告書第225集

▲図版48 大崎市北小松遺跡の尖頭器（縄文晩期中葉～弥生前期）

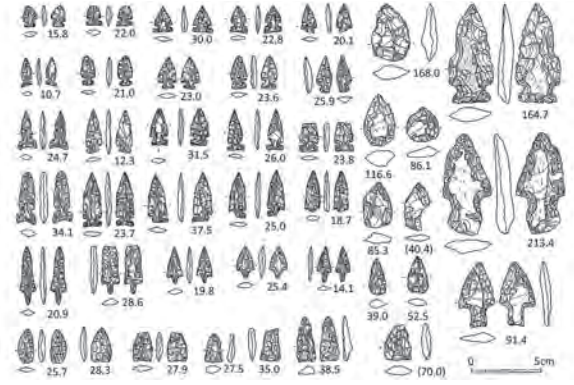
1です。

尖頭器は、石鏃より先端角が大きく、厚みもあり、槍先に装着する石器と考えられます。小型品から重量感のある大型品まで、その重さは、多くは10g以下ですが、40gを超えるものまであります。尖頭器の先端部横断面面積：TCSA値（tip cross sectional area）を調べてみると、宮城県域では、弥生中期前葉～中葉に小さくなりますが、大きな震災があつて、生業形態が変わる弥生中期後葉から後期初頭にかけて、尖頭器が大型化する傾向がみられます（図版49・50）。

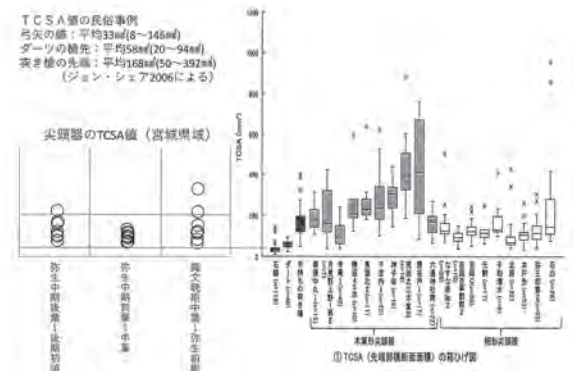
### <6 集落構造の変化>

岩手県軽米町における居住の変遷を馬場野・吠屋敷・大日向遺跡群（図版51）でみると、縄文中期末葉から後期初頭には小規模分散化していますが、それ以降は、徐々に二極化し、晩期後葉～弥生初頭には、二つの大きな集落に分かれて、住居も大きくなっています。

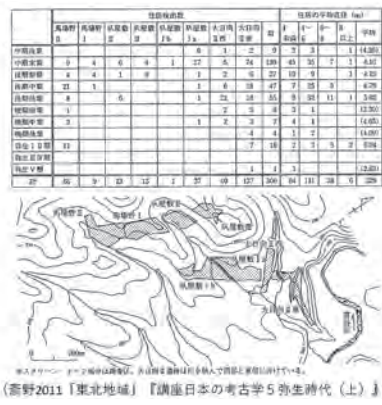
根岸洋さんの東北北部を対象とした研究では、縄文晩期後葉～弥生前期にかけて近接する居住集



▲図版49 下ノ内浦遺跡の石鏃と尖頭器（弥生中期後葉～後期初頭）



▲図版50 先端部横断面面積：TCSA値（tip cross sectional area）



▲図版51 馬場野・吠屋敷・大日向遺跡群の居住の変遷

団を段階的に統合していくなかで、晩期末葉の大洞A'式期における住居の大型化が顕著であり、居住システムが稲作農耕を受容する以前に変質していたことをこの地域の特質であると指摘しています。

仙台平野では、図版52のように、縄文晩期の終わりから弥生前期にかけて、居住域が少しずつ



どなく、この傷が致命傷となってほどなく死亡したようです。石鏃身部がすぐ近くから2点に割れて出土しています。これは、集落間の抗争ではなく、半島からの渡来人と、玄界灘沿岸部の人たちとの関係が、多少は上手くいかなかったことを想起させます。

そして、列島内でも、そうした事態は共有されており、福岡市雀居遺跡SD003溝（夜白Ⅱa式期）からは、青銅器時代の韓半島から搬入された粘土帯土器とともに、亀ヶ岡系土器が出土しています（図版57）。北部九州において、この大洞C2式新段階の亀ヶ岡系土器の出土が示すように、西の貝の道を通じた東西交渉によって、大洞A式古段階の時期、北部九州では、有文の板付Ⅰ式土器が成立して弥生文化へ移行します。

その頃、大陸は戦国時代になっていて、燕国で鉄器生産が始まり、生産量は徐々に増えて、戦国晩期（弥生前期末葉頃）には、大量の鉄器が半島にもたらされます（図版58・59）。列島では、板付Ⅰ式土器の系譜をひく有文の遠賀川系土器とともに農耕が列島へ広がっていくなかで、そうした



▲図版59 戦国時代燕下都と鉄器生産

事情に通じていた東北・北海道では、鉄器（片）が半島から列島に流入するようになる弥生前期（末葉）・続縄文初頭を画期として、大洞A～A'式期に集落の統合をより進めていた東北の人々は、水田稲作を生業活動に加え、海峡を挟んで、土地に対する資源観を変更しなかった北海道の人々は、東北とは異なる生業活動の道を選択したのです。

＜おわりに＞

最後になりましたが、大陸を舞台とした映画「キングダム」を紹介しておきます。紀元前3世紀の戦国晩期。列島では、縄文晩期後葉から、東北の弥生初頭・北海道の続縄文初頭頃。大陸では秦が台頭。この映画は秦と趙の戦い。こうした映画を見ながら、今日の話をも東アジア的な視点で考えていただければと思います。

ご清聴ありがとうございました。

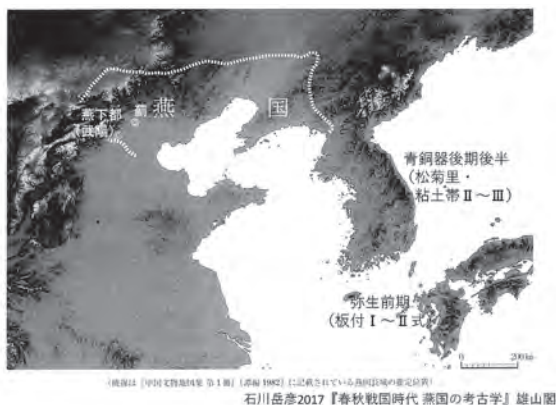
【参考文献】

斎野裕彦

- 2022 「東北地方の弥生文化からみた中里遺跡」 『南関東の弥生文化』 吉川弘文館
- 2023 「東北からみた弥生文化」 『弥生文化博物館研究報告』 第8集



▲図版57 福岡市雀居遺跡SD003溝(夜白Ⅱa式期)



▲図版58 燕国位置図(戦国時代)

## (2) 冬季講演会

### 「道東北の遺跡からみる縄文時代晩期から続縄文時代前半期」

講師：熊木 俊朗 氏

(東京大学大学院人文社会系研究科教授)

#### <はじめに>

みなさん、こんにちは。

私の肩書きは東京大学大学院人文社会系研究科所属の教員であるが、北見市常呂町にある常呂実習施設に20年以上勤務している。

ちなみに、常呂実習施設に付随する展示施設や常呂町の遺跡の館、埋蔵文化財センターを利用したことがある方は会場にどのくらいいるだろう。本講座参加者では意外と少ないようである。先月、千葉にある国立歴史民俗博物館で講演して210名くらいご参加いただいたが、その際、オホーツク海沿岸へ行ったことがある方を同じく確認したところ、半数くらいが挙手された。本日の参加者は、常呂町周辺については、初めての方が多いということでお話をすすめたい。

私もこちらのセンターには何度かお邪魔したことがあるが、講演会は初めて。多くの方々にご参加いただき、ありがたく思っている。パワーポイントの画面には、昨年開設した東京大学常呂実習施設の公式YouTubeチャンネルのアドレスを示してある。図版1は、その公式サイトにあるドローンで撮影した動画を切り取ったもの。公式YouTubeチャンネルもご興味がある方、ぜひご覧いただきたい。

#### <自己紹介を兼ねて>

自己紹介を兼ねて、私と続縄文文化とのかかわりをお話したい。

北大を卒業した後、明治大学に入学し、東京大学の大学院に進学した。東大の大学院は、常呂実



▲図版1 常呂川河口遺跡遠景

習施設があり、考古学を現地での実習や学術調査を通じて学べる魅力があり、進学した。1994年、修士1年のとき、利尻富士町役場遺跡の調査に参加した。

東大の大学院に進学する少し前、明治大学4年のころ、北海道教育委員会に明治大学の先輩である種市さんがおり、「オホーツク文化を研究している関係者から、君はオホーツク文化を研究していると聞いた。5月から利尻島でオホーツク文化の遺跡を調査するが、君は参加する希望はあるか」と自宅に声かけの電話をいただいた。当時、まだ考古学を初めて2年ほど。ただ、修士1年になれば、現場の調査もある程度できるというのが、通常だった。このような機会はなかなかないと考え、東大の先生へのご挨拶もそこそこのころ、利尻富士町役場遺跡の調査に参加した。

利尻富士町の鴛泊港。稚内や礼文からのフェリーが入港する港である。その港に後背する高台の縁が、道路拡幅工事で削られることになり、調査を行うことになった。利尻富士町役場遺跡は、鈴谷式期からオホーツク文化期の遺跡で、初めて道内の発掘調査に参加した。当時、鈴谷式期の遺跡調査はなく、数十年ぶりの調査であった。現場での働きはあまり芳しくなかったはずだが、報告書の執筆も依頼された。

役場Ⅱ類土器は、通常いわれている鈴谷式土器になる。この遺跡では、これまでみたことがない、役場Ⅰ類土器と分類したグループの土器群が出土した。役場Ⅰ類土器、役場Ⅱ類土器とも、地文に縄文が施されるので、続縄文文化の時期に並行するだろうと見通しを立てた。

この土器群の位置づけをしっかりと報告書に記載していくためには、北海道の北部、東部の続縄文土器について、勉強する必要がある。例えば、写



▲図版2 利尻富士町役場遺跡遠景

真で示した稚内市声間川Ⅲ群b類土器なども関連しそうである。また、常呂町にいき、宇津内Ⅱa式土器を実見し、同じく関連性を確認した。

このように調査と調査関連の勉強にばかり没頭していたため、東大の方では、熊木は進学してきたが、東大の講義には顔を出さず、大丈夫だろうかといわれていたようだ。北海道での研究のきっかけ、また、私自身の研究テーマのきっかけは、この調査にある。

1. 道東北における縄文-続縄文の移行期とは？

最初に道東北における縄文-続縄文の移行期について4つの側面からお話する。

土器型式からみた地域区分では、道内でどのような型式設定がなされ、時期が区分されるか、説明する。

遺跡数と立地の変化では、縄文から続縄文への移行期に遺跡数の変化、立地の変化などがみられるのか、データが少なく難しいところではあるが、解説する。

生業の様子。こちらもなかなかデータが限られ、はっきりしたことを述べるのが難しいが、現状の研究を説明していく。

サハリン・千島列島への進出。この連続講座・講演会は、昨年度九州地方の話からスタートし、関西、東海まで、本年度、中部から本日の道東北までとつながってきていると聞いている。

縄文-続縄文の移行期というテーマでは、弥生文化からの影響がまずは問題になる。しかし、道東北は弥生文化からは位置的に最も遠く、影響も少ない。縄文的な生活が続いたと言い換えることもできようが、さらに北の地域であるサハリンや千島列島との関係はどうか。弥生文化の影響に加

えて、北との関係という視点も重要となる。

①土器型式からみた地域区分

<概要>

本日お話する縄文時代から続縄文時代への移行期について、関連する地域の土器編年表を用意した。太い点線が、縄文と弥生の境目。

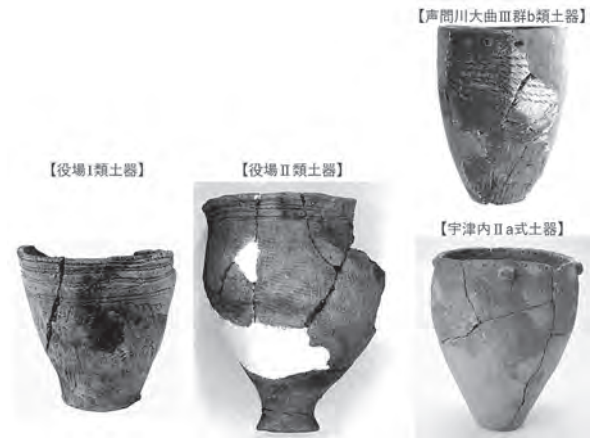
東大の考古学研究室におられる福田先生が2007年に地域間の関係について論文をまとめている。

縄文時代晩期後半は分離の時期といえる。幣舞式が道東にある。道央と道南は聖山式がある。聖山式は、東北の亀ヶ岡式土器の影響を大きく受けている。道央ではそれが混ざり合っており、聖山式とタンネットウL式がみられる。東北の影響を受ける道南、道央と独自の土器型式がある道東北の間では、分離がみられる。

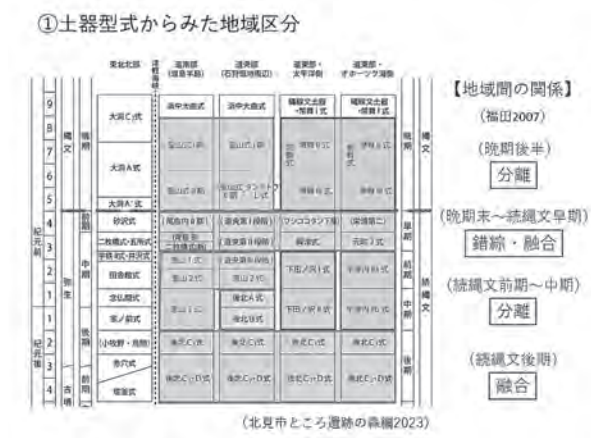
縄文時代晩期末から続縄文時代早期にかけては、錯綜と融合の時期といえる。全道で斉一性のある、共通性の高い土器群になる。それぞれの様相は、のちほど詳述する。

続縄文時代前期から中期になると、また分離の時期となる。道東オホーツク海側では宇津内式が展開する。道東太平洋側では、下田ノ沢式。道央部では恵山式。道東と道央・道南で大きく分かれる。

続縄文時代後期は、融合の時期。道南から道東まで、後北C<sub>1</sub>式の時期から全道的に後北式が使用されるようになり、後北C<sub>2</sub>・D式まで全道的に利用されていく。土器の型式とその分布に関しては、分離と融合を繰り返している様子がうかがえる。この後、オホーツク文化が流入し、北大式の文化と並行する時期となり、また分離の時期に



▲図版3 利尻富士町役場遺跡出土土器



▲図版4 土器型式からみた地域区分

なっていく。

それぞれ具体的に土器群のセットをみていくことにする。

<晩期後半【道東の型式 幣舞式土器】>

常呂川河口遺跡295a号土坑出土の土器セット。典型的な幣舞式の土器群である。中央の土器は、東北の亀ヶ岡式土器の影響を受けた道南の浜中大曲式の対向入組文からの影響を受けている。ただし亀ヶ岡式土器そのものとはかなりかけ離れており、回転部を強調するという独自性を持っている。

<晩期後半【分離】>

写真は、幣舞式。北見市常呂川河口遺跡出土資料。幣舞式の分布は、道東北を中心に石狩低地帯まで広がっている。その一方で、実測図で示したのが、東北の亀ヶ岡式土器の影響を受けた聖山

式。こちらの分布は、道南を中心に石狩低地帯まで広がっている。道央では聖山式と幣舞式が併存し、石狩市シビシウス第1遺跡の資料などがみつまっている。大きくみて道南と道東という二極化がみられる。

<晩期後半 道東における地域間交渉の例>

道南と道東で二極化がみられるとはいっても、地域間交渉がないわけではない。

常呂川河口遺跡213号土坑出土の墓からは3点の土器が出土した。右は東北の亀ヶ岡式土器で、道南からの搬入品と思われる大洞C<sub>2</sub>式土器。左は、地元道東の幣舞式土器。3つ目の中央は、大洞式と幣舞式の折衷的な要素をもつ土器である。さらにこのお墓からは新潟県糸魚川エリア産出のヒスイ製勾玉が出土している。南からの資料が常呂まで到達していた証拠としてあげられる。

<晩期末から続縄文早期【道東の型式 栄浦第二・第一段階の土器群】>

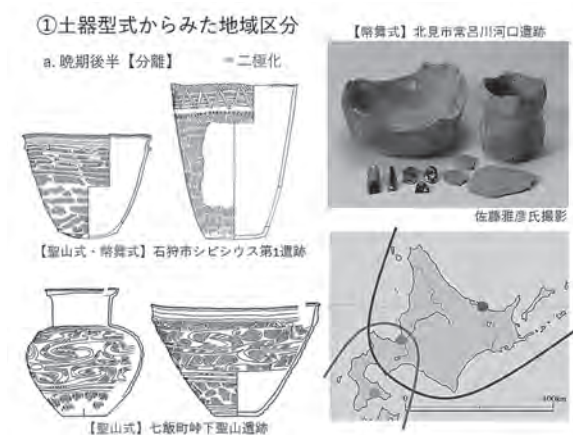
常呂川河口遺跡329b号土坑出土のセット。道東の型式の、栄浦第二・第一段階の土器群である。縄文時代晩期末から続縄文時代早期にかけては、全道的に斉一的な様相を示す時期になる。器形や文様が単純化しているのが見てとれる。異形の土器もみられるが、基本的には深鉢形の土器となり、文様帯が土器上部に集約される。

<晩期末から続縄文時代早期【錯綜・融合】>

三角形やひし形の文様のルーツは、東北の亀ヶ岡式土器にあると考える。ただし、道東では独自の解釈をした文様になっている。このような土器



▲図版5 晩期後半【道東の型式 幣舞式土器】 佐藤雅彦氏撮影



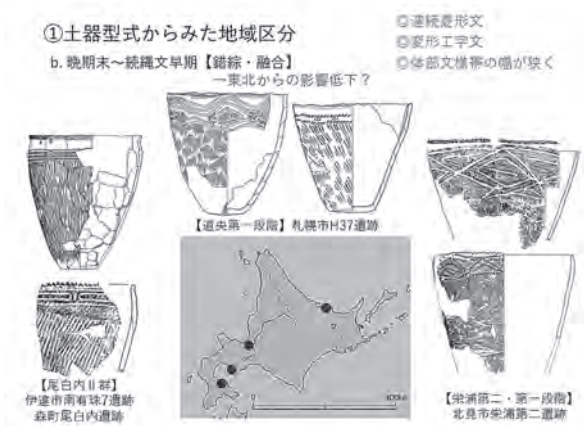
▲図版6 土器型式からみた地域区分 晩期後半【分離】



▲図版7 道東における地域間交渉の例 佐藤雅彦氏撮影



▲図版8 道東の型式 柴浦第二・第一段階の土器群 佐藤雅彦氏撮影



▲図版9 晩期末～続縄文早期【錯綜・融合】

群は、ひろく全道的に使用された。このように斉一性がみられるのは、東北からの影響が低下したからかと考えている。

＜続縄文時代前期から中期【道東網走側の型式 宇津内Ⅱa式】＞

次は分離の時期。図版10左は、岐阜第三遺跡出土の宇津内Ⅱa式土器。口縁部につく突瘤文が特徴的な土器群である。

＜続縄文時代前期から中期【分離】＞

この時期は、地域ごとの分離があり、道南から道央では恵山式、道東北ではオホーツク海側で宇津内Ⅱa式、太平洋側で下田ノ沢Ⅰ式が使用された。

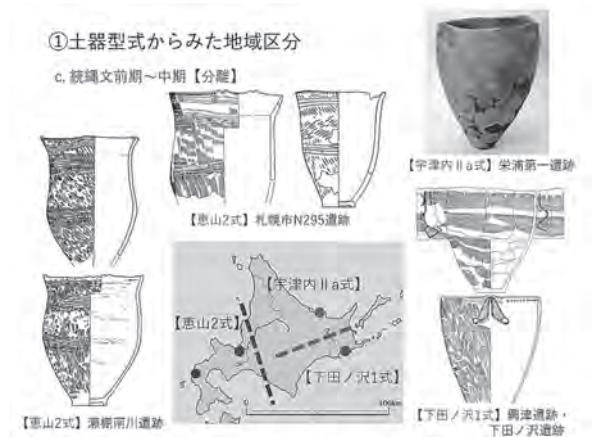
道南から道央では東北地方の影響が再び強くなったと考えられる。



岐阜第三遺跡

柴浦第一遺跡

▲図版10 道東網走側の型式 宇津内Ⅱa式



▲図版11 続縄文時代前期から中期【分離】

②遺跡数と立地の変化

＜常呂川下流域の遺跡数の推移＞

遺跡数と立地の変化について、道東のエリア全体で、検討できるデータはない。市町村合併後の北見市における常呂川下流域の遺跡数の推移を、旧市町村ごとに集計してみた。

草創期並行から続縄文期後半までを取り扱った。草創期から縄文中期まではそれほど遺跡数に変化がない。大きな変化が現れるのは、北筒式期。急に遺跡の数が増える。また、エリア的にも北見、端野、常呂と各地域で遺跡数が増加する。後期中葉に一度遺跡数が少なくなる。その後、晩期後半になると、遺跡数が増加する。続縄文時代になっても、遺跡数自体はあまり変わっていないようである。

遺跡の規模や竪穴住居跡の数などを比較してみると、縄文時代晩期の後半から住居の検出数も大幅に増加する。ほかの地域でも同じような傾向になるかはわからない。斜里や釧路川流域では違う傾向になるかもしれない。

＜常呂川河口遺跡の遺構数（全体）＞

次に地域を常呂川河口部にある常呂川河口遺跡に限定して考えていく。

常呂川河口遺跡のエリアは、点線で囲まれたところ。河口に近く、縄文海進の頃は、このエリアは海だった。

縄文時代中期では土器や屋外炉などが見つっている。縄文時代晩期後半から墓が、続縄文時代前期からは竪穴住居が激増する。それ以降も遺跡は営まれている。

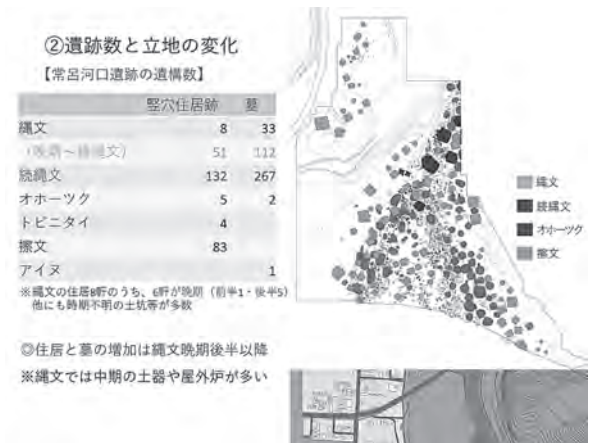
住居跡を色分けして確認してみると、縄文時代晩期から続縄文時代の紫がまずは多く作られ、それを避けるように青のオホーツク文化期、オレンジの擦文時代の住居が建てられている傾向がある。

＜常呂川河口遺跡の遺構数（縄文晩期～続縄文）＞

さらに細かく土器型式ごとに、縄文時代晩期後半から続縄文時代中期までの竪穴住居、墓の数を確認してみる。

晩期後半、幣舞式の時期に墓の数が増加する。晩期後半は、墓の数に比べると、竪穴住居の数が少ないように見える。しかし、少し離れた地点の遺跡では竪穴住居跡が16軒検出されている。たまたま常呂川河口遺跡では、竪穴住居が少なかったが、晩期後半周辺の遺跡も含めて、地域全体で考えると、竪穴住居も墓も増加しているといえる。

続縄文時代後期から竪穴住居の検出例が少なくなる。これは生活様式の変化で、お墓の数は、続縄文時代早期以降は、続縄文時代後期まで、変化は少ない。続縄文時代早期前半と後期前半に若干少なくなる傾向がある。



▲図版12 常呂川河口遺跡の遺構数

竪穴住居については、続縄文時代前期から増加する。常呂川河口部一帯では他の遺跡でも同様の傾向がみられる。

端野や北見などの中流域では、前期以降の増加がみられない。河口部への遺跡の集中が顕著になる。

＜斜里平野の遺跡分布＞

斜里町の遺跡分布をみってみる。図上が縄文時代晩期、図下が続縄文時代。縄文時代晩期は、海岸砂丘列の後背地と内陸の段丘上に立地している。続縄文時代になると、段丘上の遺跡は減少し、知床半島部の断崖の下の開けた部分に立地する遺跡が増える。続縄文時代になると海岸部への偏りが強くなる傾向がみられる。

以前から、この傾向については指摘されており、釧路周辺も同様の傾向があるといわれている。最近のデータでも、旧来の説と同じ様相がみえる。

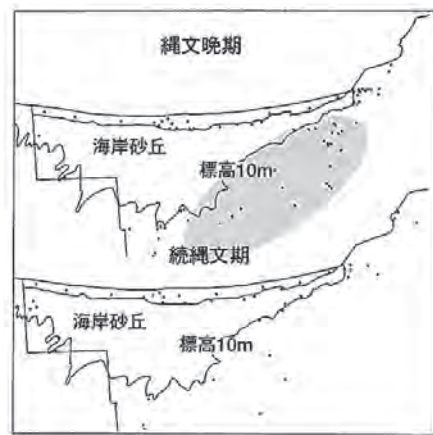
③生業

＜動物遺存体の内容（代表例から）＞

ここでは、遺跡から出土した動物遺存体からわかったこととお話します。ただし、このようなデータが得られている遺跡は限られている。北海道大学の高瀬先生が、続縄文時代の動物利用についてまとめている。オホーツク海側ではデータが少ない。あまり頼れるデータがないが、代表的なものをまとめてみた。

＜幣舞遺跡 第3号貝塚（続縄文早期）（金子1999）＞

釧路市幣舞遺跡第3号貝塚は、縄文時代晩期幣



▲図版13 斜里平野の遺跡分布

舞式期から続縄文時代早期にかけての貝塚である。貝類、魚類、哺乳類、鳥類の各種が出土している。分析者の金子先生がまとめられているが、そこではそれ以前の縄文時代に比べて、大型のメカジキへの特殊な関心が目立つ。そのほか、イヌを食用として利用していること、縄文時代にみられなかった大型のイヌがみつかったこと。アホウドリの利用などが特徴的である。

#### <礼文町浜中2遺跡 R地点Ⅲ層（続縄文早期）（西本編2000）>

地域は道北になるが、礼文町浜中2遺跡の包含層に魚骨層がみられ、その分析を国立歴史民俗博物館の西本先生が担当された。

貝類では、アワビ。私もこの発掘調査に参加していたが、魚骨層に径20cmほどのアワビの貝殻が敷き詰められていた。貝類の中ではアワビが突出している。地元の漁師さんも見学にみえたが、このまとまった出土状況には驚かれていた。

魚類は出土しているが、数が比較的少ない。

哺乳類では、イヌの割合が8割と、島というロケーションを考えると非常に多く感じる。

鳥類ではアホウドリが多くみつかった。

周囲の環境から考えると、動物遺存体の内容はやや特異であり、日々の食料獲得以外の生業内容を示しているのかもしれない。

#### <種屯内遺跡 魚骨層②・④、貝層（縄文晩期末～続縄文早期）（内山2004）>

もうひとつ。利尻島の種屯内遺跡でも分析が行われている。

貝類などでは、ウニとアワビが多く出土している。魚類は、地元でとれる魚類が各種みついている。哺乳類では、イヌの利用がここでも多くなっている。

ただし、東京大学の米田先生が行った同じ時期の墓坑出土人骨のコラーゲンの同位体比分析では、タンパク質の多くを海獣から摂取しているという結果がでていた。

タンパク質の多くを海獣から摂取しているという傾向は、縄文時代以降、北海道では継続的に認められる。出土遺物との傾向の違いがみられるところは、気になる点である。

#### <続縄文期の動物利用の特徴（高瀬2022）>

続縄文期の動物利用の特徴については、北大の高瀬先生が以下のようにまとめている。

石狩低地帯北部では、縄文時代には哺乳類が多数を占めているが、続縄文時代には魚類（サケ）の利用が活発化する。

続縄文以降アイヌ文化に至るまで、サケを利用するという北海道の特徴が、この時代からみられるようになった。

石狩低地帯北部以外では、縄文時代には哺乳類・貝類が多数を占める（魚類の比率が高い例も）が、続縄文時代では、魚類の出土が哺乳類・貝類を凌駕していく。

他の地域でも、魚類の利用が多くなる傾向がみられる。なかでも、道東太平洋側では、続縄文時代には、特にヒラメ、カレイ類、メカジキの利用が特徴的である。渡島半島と同様に大型の個体を狙った捕獲を行っていた可能性が高い。

続縄文時代のオホーツク海側ではデータが少ないこともあり、まだ、同様の傾向がみられるかどうか確認できていない。

これらの傾向をまとめて、高瀬先生は、「資源構造の拡張的開発」と述べている。続縄文期になり、縄文時代にもその地域には生息していたが、あまり利用していなかった資源を利用するようになる、という意味である。浜中2遺跡の状況も同様と評価できるのか。何か目的をもって、これまで重視していなかった資源を積極的に利用するようになったのか。今後の検討が必要である。

#### <動物遺存体の内容（道東部オホーツク海側の例）>

##### <谷田遺跡（縄文晩期前葉・続縄文前半期）（西本1988）>

では、オホーツク海沿岸のデータについて。全くないのかというとそういうわけでもない。

ひとつは、斜里町谷田遺跡の例。魚類はサケ類が多く、哺乳類は、エゾシカと海獣類が多い。

##### <常呂川河口遺跡（続縄文早期から後期〔中期と後期が主体〕※縄文晩期も若干含む）>

常呂川河口遺跡は、住居内からの出土例が多い。続縄文の中期と後期が主体になる。魚類ではニシンが飛び抜けて多い。常呂川河口遺跡では、後の擦文時代、オホーツク文化期ともニシンが多い点は、同じ傾向を示す。常呂川河口遺跡の特徴ともいえそうである。

常呂川河口遺跡でサケの出土が少ないことは気になる点である。この地域では魚類の比率が高まると評価できるか。「資源構造の拡張的開発」は

みられるのか、今後検討が必要である。

#### ④サハリン・千島列島への進出

##### <サハリン南部 アニワ文化>

戦前、樺太南部が日本領だった頃から、続縄文土器がサハリンでも出土していることはわかってきた。

写真左は、稚内市声間川大曲遺跡出土の宇津内Ⅱa式並行の土器。同じような土器がサハリン南部、小満別2遺跡でも出土している。

1990年代以降、ロシアの研究者による発掘調査により、より具体的な様子がわかってきている。サハリン国立大学のワシレフスキー先生達が調査したユージナヤ2遺跡では、宇津内Ⅱa式土器に近いものが出土している。琥珀玉も出土し、おそらく道内産の黒曜石を用いた石器類もみつかった。

まさに続縄文文化そのものと言っても良いものがサハリンからみつかった。ロシアではこの

文化をアニワ文化としている。時期は、土器型式からみると、続縄文時代早期から前期くらいになる。

##### <サハリン北部 カシカレバグシ文化>

スライドは、サハリン国立大学のグリシェンコ先生達が調査したカシカレバグシ5遺跡の様子。1990年代以降、サハリンでの調査がすすみ、サハリン北部の遺跡も調査事例が増えた。

土器は縄文が施文されておらず、口縁部に円孔文がある、平底のもの。破片で出土した資料に縄線文が付けられた例がある。続縄文文化の影響かどうか断定は難しい。大陸側にも縄線文を施した土器があるからである。

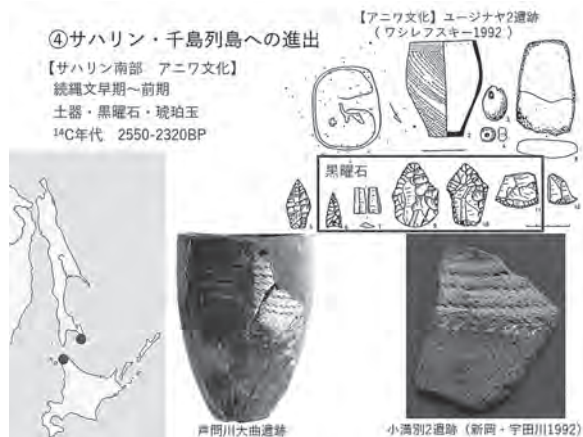
注目したいのは、琥珀玉。こちらは南からの影響が及んだものと考えられる。黒曜石製の石器。この黒曜石は北海道産であると考えられている。

もう一つ注目されたのは、出入り口のある竪穴住居である。この住居形態は続縄文文化と関連するのではと考えられている。<sup>14</sup>C年代では、2895-2330BPとなり、縄文時代晩期ごろの年代がでている。

##### <サハリン北部 ナビリ文化・ピリトゥン文化>

グリシェンコ先生が調査したカシカレバグシ5遺跡が報告される少し前、ワシレフスキー先生とグリシェンコ先生が調査したチャイヴォ1遺跡の報告が出された。鈴谷式土器との関係で注目された遺跡である。

ナビリ文化の土器は、尖底で口縁部が内湾する。ピリトゥン文化の土器は、口頸部がくびれ、口縁部に施文が集約される。底部も丸底である。



▲図版14 サハリン南部 アニワ文化



▲図版15 サハリン北部 カシカレバグシ文化



▲図版16 サハリン北部 ナビリ文化・ピリトゥン文化

ナビリはナビリ湾、ピリトゥンはピリトゥン湾といった地名からとった命名と思われる。ピリトゥン湾はカシカレバグシ遺跡が面している湾、ナビリ湾はそこから200km程南にある湾。チャイボはその二つの湾の間にある。

二つの文化は土器の特徴が異なる。ナビリは尖底で口唇部が内側に張り出す、ピリトゥンは丸底で頸部がくびれる例を含む。金属器を模倣した石器の存在から、「渡来系の古金属器文化群」と評価される（グリシェンコ2015）。

暦年較正年代はピリトゥンが前5世紀から前1世紀、ナビリはそれに並行とされる。続縄文早期から前期並行か。

おそらく鈴谷式土器の成立に、このような土器群が関係しているのだと考えられる。

東大の福田先生が注目しているのは、利尻島から出土した、非常に焼きがよく、刺突文がある土器。福田先生から2000年代初頭に意見を求められたときは、類例もなく、よくわからない状況だった。種屯内I群は続縄文早期の土器で、掲載例はそれと並行するとみられたが、地文がなく焼きも他とは異なる。

今の視点でいくと、ピリトゥン文化の土器群と共通する可能性も考えられ、今後の検討に値する事例である。

### <アムール河口部からサハリン バリシャブフタ式土器を伴う文化>

この時期のサハリンにはさらに別の型式の土器があり、話はややこしい。フェドルチュク先生が2002年に報告したサハリン中部のザパトナヤ10遺跡ほかでは、先ほどのナビリ文化・ピリトゥン文化と特徴が異なる土器群がみつまっている。バリシャブフタ文化といわれている。サハリンの中部からアムール河口部にかけてのエリアに分布する。

この土器群は、内側から外側にむけてつけられた突瘤文が特徴である。その下には刺突文や押引文が施されている。<sup>14</sup>C年代は2405-1965BPに収まる。

サハリンでわかってきたこれらいくつかの文化がどのような関係になるのか。併存するのか前後関係なのか、系統的にはどのような関係なのか。現状ではまだ判断が難しい。

### <各文化の<sup>14</sup>C年代値>

アニワ文化が2550-2320BPと少し古めになっ

ている。カシカレバグシ文化が2895-2330BPとアニワ文化と時期的には重なる年代がでている。バリシャブフタ文化が2405-1965BPで先ほどの2つの文化より相対的に新しくなる。

ナビリ文化2815-2005BP、ピリトゥン文化2440-2030BPのあとに、私としては鈴谷式土器の文化が続くと考える。バリシャブフタ文化、ナビリ文化、ピリトゥン文化、相互の関係が現在のところまだよくわかっておらず、今後の課題である。

### <鈴谷式土器>

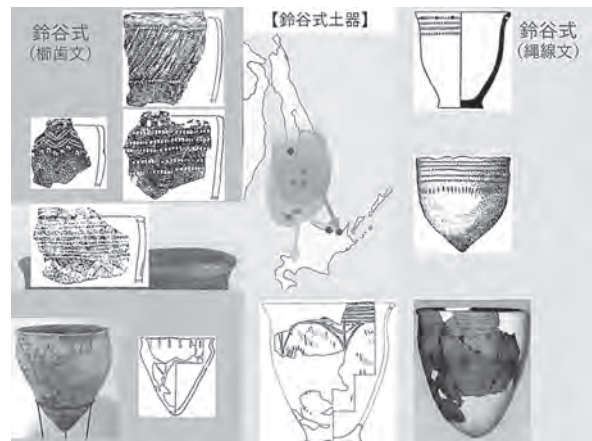
私が考えるところでは、これらの文化の後に、鈴谷式土器が出現する。

鈴谷式土器の面白いところは、2つのタイプの土器群が鈴谷式という一つの型式でとらえられている点である。

鈴谷式土器のひとつのタイプは、縄線文を持つものである。宗谷地方からサハリン南部のエリアを中心に分布している。わずかに石狩低地帯や道東北のエリアも出土例がある。このタイプは続縄文土器から変化したものと考えられそうである。

鈴谷式土器のもうひとつのタイプは、櫛歯文をもつものである。櫛歯文はロシア極東の土器に伝統的に施される文様。このタイプの分布は縄線文より少し北に偏っていて、サハリン南部から中部にみられる。わずかだが道東にも出土例がある。サハリンでは、縄線文と櫛歯文の両方がみられる折衷型の土器もある。

たぶん年代的にみても、鈴谷式土器はナビリ文化・ピリトゥン文化と何らかの関係があると思われる。続縄文文化の影響を受けたものとナビリ文化・ピリトゥン文化の影響を受けたものの両方



▲図版17 鈴谷式土器

が、縄文時代後期頃のサハリンにはみられることになる。

アニワ文化のころに北海道から北上した文化が、サハリンでナビリ文化・ピリトゥン文化と関連をもち、鈴谷式の文化が生まれるようである。ただし現在の資料では、まだこのストーリーを完全に証明するのが難しい。

#### <縄文時代晩期から縄文時代前半期併行期のサハリン(まとめ)>

縄文時代晩期後半から縄文時代早期前後に、サハリン南部に展開したアニワ文化は、土器や黒曜石などからわかるように、宗谷地域からの進出により成立した。サハリン北部に展開したカシカレバダシ文化は、サハリン南部との交流で黒曜石、琥珀玉などを得た。北海道からサハリンへは、黒曜石がもたらされ、サハリンから北海道へは、大型犬の存在などから考えて、この時期にはイヌの利用や出入口付きの竪穴住居が伝わったことなどが考えられる。

縄文時代早期から前期前後には、サハリン北部に展開されたナビリ文化・ピリトゥン文化があり、宗谷地域との交流により、種屯内遺跡で出土した土器が伝わった可能性がある。アムール河口部からサハリンに展開したバリシャヤブフタ式文化は、大陸・サハリン間の交流を示すものである。

#### <中部千島以北への進出>

図は、千島列島における縄文・縄文土器の分布を示したもの。縄文土器の分布は択捉島まで。縄文時代の早期から前期くらいになると、中部千島の捨子古丹島まで分布が広がっていく。さら



▲図版18 中部千島以北への進出

に、わずかだが、北千島の占守島でも縄目がついた土器がみついている。もしかすると北千島まで拡大している可能性がある。

#### <千島列島への進出とその意味>

##### <中部千島以北への進出>

中部千島への進出時期は、縄文時代早期から。サハリン方面への拡大と時期的には連動している。

中部千島は南千島と自然環境の違いがある。植生地理学的には、南千島は針広混交林だが、中部千島は亜寒帯である。また、北大の高瀬先生は島嶼部特有の陸上資源の乏しさを指摘し、北海学園大学の手塚先生は、離島に渡るための高度な航海技術について指摘している。

定着性の問題として、縄文中期以後になると人口が低下し、縄文後期には南千島まで撤退した可能性がある。その後、オホーツク文化期までは低調のようである。これらの問題も含めてサハリン・千島列島への進出時期が一致する理由・背景とは何か。今後の研究課題である。

## 2. 常呂川河口遺跡の分析から

後半は常呂川河口遺跡の分析について、お話していく。

常呂川河口遺跡は、約15年かけて調査された遺跡である。常呂川の調整にかかわる工事に伴う発掘調査で、報告書の最終刊行が2010年で10年を経過したくらいになる。報告書がすべて刊行されたことにより、全体像が分析できるようになった。

最初に遺構・遺物の基礎的データの整理を行い、副葬品にみる階層性について述べる。最後に道東の縄文時代における「画期」についてまとめていく。

#### <国指定重要文化財 常呂川河口遺跡墓坑出土品>

道東では、白滝遺跡群の資料が国宝になり、今のところ日本で一番古い時代の国宝となった。その影に隠れたかたちで、常呂川河口遺跡墓坑出土品が重要文化財に指定された報道があまりなされなかったと残念がる声があった。2023年6月に常呂川河口遺跡墓坑出土品は国指定重要文化財に指定された。

98基の墓(縄文晩期12基・縄文86基)から出土した資料1,805点が指定されたのだが、この

重要文化財指定の答申  
(2022年11月)

墓98基 出土品1,805点  
(縄文晩期12基・続縄文86基)



©佐藤雅彦(写真事務所クリーグ)



北見市とこ遺跡の森

### ▲図版19 国指定重要文化財 常呂川河口遺跡墓坑出土品

遺跡からは500基以上の墓がみつまっている。そのうちの1/5ほどの墓から出土した資料が指定になったものである。

北見市は頑張って2023年8月に図録を作成した。1,805点、全点カラー写真で掲載されている。通販でも受付できる。お問い合わせは、北見市とこ遺跡の館まで。皆様のご購入よろしくお願ひしたい。

#### ①住居・墓の数と分布

##### <竪穴住居跡と墓の数>

さきほども取り上げたが、土器型式ごとの竪穴住居跡の軒数と墓の数を表したものである。縄文時代晩期後半から続縄文時代後期後半まで墓の数には、大きな差はない。そこからこの遺跡では一定数の人口が維持されていたと考えられる。

赤で示した縄文晩期後半と続縄文後期は、住居の数が少ないが、晩期後半は近くの遺跡で竪穴住居跡がみつかり、地域全体で見ると人口が少ないとは言えない。続縄文時代後期は竪穴住居への居住が低調になるので、それを反映したものかと考えられる。

##### <住居と墓の空間分布>

常呂川の増水などによって、土砂が堆積していったようで、遺跡内には微高地が形成されている。その微高地部分に続縄文時代の住居が作られた。擦文期・オホーツク文化期の住居は前代の遺構を避ける傾向があり、その周りに住居が作られた。

#### ①住居・墓の数と分布

【住居と墓の空間分布】(北見市とこ遺跡の森編2023)



◎擦文・オホーツクは前代の遺構を避ける傾向

### ▲図版20 住居と墓の空間分布

#### <時期ごとの空間分布 縄文時代晩期>

住居・墓ともに微高地に作られた。住居と墓は近接しないようにもみえる。墓も「墓域」というほどのまとまりはないようである。

#### <時期ごとの空間分布 続縄文時代早期>

早期前半は住居がまとまってあり、その周囲に墓がある。早期後半に、前代の活動地点を避けてなのか、住居が低地側となる川岸の崖側に移動する。墓は微高地に立地したままである。

#### <時期ごとの空間分布 続縄文時代前期から中期>

前期は早期後半を踏襲、中期には住居が微高地にもみられるようになる。墓は微高地のままで、住居に近い位置にもみられるようになる。

#### <時期ごとの空間分布 続縄文時代後期>

住居・墓ともに微高地に。低地は利用しない。住居と墓が近接。

全体を通じて墓は微高地につくられ続け、住居のみが移動している。住居のある地点には廃棄物等が蓄積してしまうので、微高地と低地を行き来することで、ごみ問題をクリアしていた可能性がある。

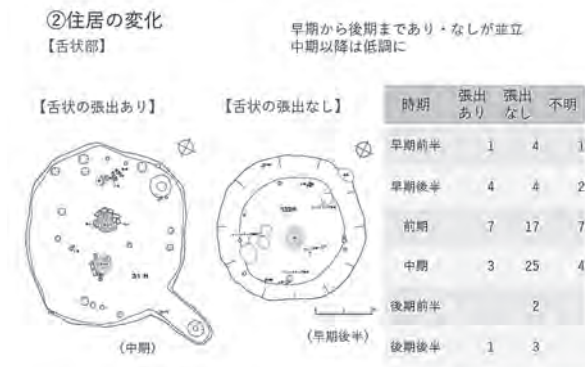
#### ②住居の変化

##### <平面形>

続縄文時代早期には方形グループが多い傾向。前期以降は逆転し、円形グループが多くなる。ただし、両者は併存し、極端な数の差はない。

##### <舌状部>

出入り口である舌状部は、続縄文時代早期から



▲図版21 住居の変化 舌状部

後期まであり・なしが並立している。中期以降は低調になる。

先ほどは、常呂川河口遺跡の事例を述べたが、舌状部は、幣舞式期の栄浦第二遺跡のように縄文時代晩期後半の道東で出現する。晩期併行期、サハリンのカシカレバグシ文化にも舌状部をもつ竪穴住居がみつかっており、それとの関係をどう考えるかが課題となっている。

#### < 炉の数 >

炉の数について。炉がひとつの竪穴住居に複数みられるのは続縄文時代の特徴。早期後半に2基の例が出現する。後期まで1基と2基が併存。中期以降に2基が増える。

#### < 石組炉 >

縄文時代晩期後半にはなく、続縄文時代早期前半に出現。後期を境に一転してほぼ消失。

#### < 続縄文時代後期に特徴的な竪穴建物 >

常呂川河口遺跡で注目されるのは、後北C<sub>1</sub>式やC<sub>2</sub>・D式の竪穴である。長方形か円形を呈して、掘りこみが浅い。炉の周辺には、魚の骨粉がみられる。この時期の全ての遺跡でみられるようなものではない。作業場であろうか。魚骨の分析結果では、ニシンが多い。ニシン加工に関わる季節的な集合・共同作業場なのか。道央のサケ加工と基本的には同じになるのか。今後の事例増加を期待したい。

### ③墓の諸属性とその変化

#### < 配石・墓坑上部への副葬 >

写真は、常呂川河口遺跡ピット783、縄文時代晩期後半（幣舞式期）の例である。

配石と墓坑上部への副葬は、ともに、晩期後半



▲図版22 配石・墓坑上部への副葬

から続縄文時代後期まで確認されている。ただし、常呂川河口遺跡では事例が少なく、時系列上の変化はとらえにくい。

道央・道南部の墓については、東北芸術工科大学の青野先生がまとめられている。それによると、「上部構造」は縄文時代晩期に内容的な変化が起こり、続縄文時代前半期にはそれを用いる儀礼行為が減少する。

縄文時代後期の上部構造は希少財との結びつきが強かったが、縄文時代晩期は関連性が曖昧になる。続縄文時代には墓坑底部での儀礼行為が盛行するのと反対に上部構造は簡略化する。

常呂川河口遺跡では、配石は続縄文時代中期にやや多い。埋葬後の儀礼の存在もうかがわれるが、他の地域の動向との関係はよくわからない。

#### < 墓坑内の柱穴 >

写真は、常呂川河口遺跡ピット470、続縄文時代前期（宇津内Ⅱa式期）の例。墓坑の壁際に柱穴状のピットがまわる。縄文時代晩期後半から存在するといわれているが、常呂川河口遺跡では、晩期後半の例はなく、続縄文時代中期以降は低調になる。後期以降は柱穴の数が4基以下に。釧路の例は幣舞式期まで遡るかどうか検討が必要。道央では北大式期に「ウサクマイ葬法」と呼ばれる、やはり柱穴状のピットを伴う葬法がみられる。

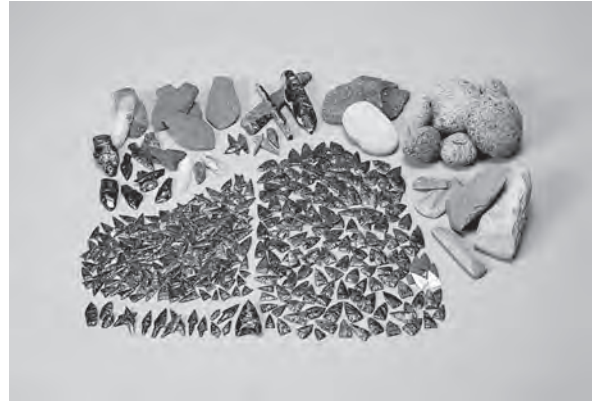
#### < 副葬土器を正立させるピット >

写真は、常呂川河口遺跡のピット988、続縄文時代後期後半（後北C<sub>2</sub>・D式期）の例。

本遺跡では後期後半から、このような事例がみられる。道央では続縄文時代早期からこのような例がみられるので、そこからの影響の可能性はある。



▲図版23 墓坑内の柱穴



▲図版25 石鏃の多数副葬 佐藤雅彦氏撮影



▲図版24 副葬土器を正立させるピット

### <合葬>

写真は、常呂川河口遺跡のピット23、続縄文時代後期前半（後北C<sub>1</sub>式期）の例。

常呂川河口遺跡では合葬の例は少なく、続縄文時代早期と後期に数例みられる。合葬墓に副葬品が多いという傾向は特になく、階層性との結びつきは薄いと思われる。

## ④副葬品の変化

### <土器の多数副葬>

常呂川河口遺跡のピット329b、続縄文時代早期前半（栄浦第一・第二段階期）の例。

この例では13点の土器が副葬されている。他の時期での最大例をみると、晩期後半は11点、前期では6点、中期以降は3点の例がある。ただしトコロチャシ跡では後期後半に9点の例あり。続縄文時代中期以降は低調になるが、後期後半には復調するのかもしれない。

### <石鏃の多数副葬>

縄文時代晩期後半から石器の副葬が顕著になり、特に続縄文前半期（細別時期は不明）のピッ

ト1406では石鏃333点が出土している。続縄文時代後期にも40点から60点程度副葬されている例がある。

続縄文前半期の例をみると、333点の例が最大で、以下、91点、82点、45点、37点と続くが、上位3例が突出している。後半期では63点、40点、39点、36点、36点となる。前半期の上位3例の数量が突出し、後期にも継続する。

興味深いところでは、石器が多数副葬される墓では、土器が出土しないことが多い。土器が副葬される場合には、地元道東の型式ではなく、道央の型式が伴う。

### <両面調整の石製ナイフと鉄器>

両面調整のナイフの副葬は続縄文時代後期前半まで。ただし縁辺のみ加工のナイフやスクレイパーはある。鉄器は後期前半に刀子1点、後期後半の刀子1点、後期の刀子1点、板状鉄斧1点。完全な交代ではないが、特にナイフに関しては、鉄器の流入により、石器の副葬が少なくなるようである。

### <琥珀玉>

常呂川河口遺跡のピット1046a、続縄文時代前期（宇津内Ⅱa式期の古い段階）には、平玉と原石にちかい形態の玉が併存している。

常呂川河口遺跡のピット545、続縄文時代前期（宇津内Ⅱa式期の新しい段階）になると、平玉主体となる。平玉と原石に近い玉は、続縄文時代早期前半から中期まで併存するが、前期からは平玉主体となる。

この遺跡の墓出土の琥珀玉は、一番多い例では、2,000個を超えている。

続縄文時代早期～中期における琥珀玉の副葬例

④副葬品の変化  
【琥珀玉】



◎佐藤雅彦 (写真事務所クリーク)

ピット1046a 続縄文前期  
(宇津内Ⅱa式期 ※古い段階)

◎佐藤雅彦 (写真事務所クリーク)

ピット545 続縄文前期  
(宇津内Ⅱa式期 ※新しい段階)

◎平玉・原石様の玉の併存>平玉主体へ

◎早期～中期 多数副葬は上位4例の数量が突出

▲図版26 琥珀玉 佐藤雅彦氏撮影

では上位4例の数量が突出している。

<管玉・ガラス玉>

左上：常呂川河口遺跡のピット22a（続縄文時代中期）碧玉製。下：常呂川河口遺跡のピット1012（続縄文時代中期）頁岩製。左：常呂川河口遺跡のピット300（続縄文時代後期）ガラス玉。右：常呂川河口遺跡のピット994（続縄文時代後期）ガラス玉。

管玉は7例あり、5例は続縄文時代中期～後期前半。石材は頁岩、碧玉、メノウなど。ガラス玉は7例で、後期後半が4例、後期（細別時期不明）が3例。最大は20点、次が17点、以下は1～5点。他の玉の例としては、蛇紋岩製平玉78点と黒色の練り玉18点が副葬された後期のピット934などがある。

⑥墓制の画期と「階層性」

<「上位」の墓とは？ -副葬品の数量と希少性>

これまでみてきた墓と副葬品の特徴をまとめてみたい。縄文時代晩期～続縄文時代前期では、副

④副葬品の変化  
【管玉・ガラス玉】



◎佐藤雅彦 (写真事務所クリーク)

左上：ピット22a (続縄文中期) 碧玉製  
下：ピット1012 (続縄文中期) 頁岩製

◎佐藤雅彦 (写真事務所クリーク)

左：ピット300 (続縄文後期) ガラス玉  
右：ピット994 (続縄文後期) ガラス玉

◎管玉は中期～後期前半

◎ガラス玉は後期から

▲図版27 管玉・ガラス玉 佐藤雅彦氏撮影

葬品の土器・石鏃・琥珀玉に突出した数量の例が見られるが、希少な移入品はほとんどない。一方で、中期から後期にかけては、突出した数量の例はなく、希少な移入品を収めた例が出現する。琥珀玉を「希少な移入品」とみるかどうかという問題はあがるが、墓の「階層性」の表現に関して、数量から希少性へという変化が生じていた可能性がある。域内での集約から外部への志向への変化があったのか。

<「上位」の墓の割合>

「数量から希少性へ」と仮定すると、最上位の墓が全体に占める割合は時期を通じて概ね1割前後とほぼ一定となる。

<諸属性の出現時期からみる「画期」>

諸属性の出現時期からみる「画期」は、4期あったと考えられる。副葬品を多く入れる時期が、縄文時代晩期後半の幣舞式の時期からみられる。琥珀玉の副葬が顕著になるのが続縄文時代のはじめ。続縄文後期のはじめには、鉄器の流入、利用がはじまる。常呂川河口遺跡では晩期（北大式）の時期の墓は見つかっていないが、この時期にも大きな変化があるとみられる。

3. 本日のまとめ

<道東部オホーツク海側 4つの画期>

【縄文晩期後半】

◎遺跡と人口の増加

常呂川の下流域ではこの時期から河口部で人口が増加した。

◎「多副葬」の始まり（土器・石鏃 ※玉類は早期からか？）

舌状部付きの竪穴住居がみられるようになるのも、この時期である。

【続縄文時代早期】

◎サハリン・千島への拡大

- ・琥珀玉の副葬
- ・墓坑内柱穴
- ・住居内の石組炉

【続縄文時代後期】

◎竪穴住居によらない居住

◎「突出した数量」の副葬が低調に

◎外部からの希少品を志向

◎鈴谷式の南下

【続縄文時代晩期】

◎遺跡と人口の減少

縄文から続縄文にかけての変化として、道東では海岸部を指向する遺跡の立地や人口の増加、「多副葬墓」の出現、北方地域との交流拡大などがある。このうちの前者は縄文晩期後半から始まっており、その意味で道東における文化の画期は晩期後半にあるとも言える。

続縄文初めのサハリン・千島への拡大については、今後、サハリン・千島の調査が進むことにより、さらに明らかになっていくだろう。

琥珀は外部からの希少品か。どこからどのように手に入れて、どのような加工を行ったのか。実は、現状あまりよくわかっていない。

続縄文後期になると副葬品に「外部志向」があらわれているようにみえる。この時期は北日本一帯において「道央部の優位性」が高まる時期とされているが、そのこととも関連する可能性がある。ただし、この時期の常呂川河口遺跡の規模や内容は、道央部と比較してもそれほど引けをとらないという評価もできるのでないか。

続縄文晩期における遺跡と人口の減少は、おそらくオホーツク文化の動向とも関わってくるだろう。因果関係は確言できないが、人口の減少が先で、そのあとオホーツク文化が南下してくるといふ順になると想定している。

ご清聴ありがとうございました。

## 引用参考文献

- 青野友哉  
1999 「碧玉製管玉と琥珀製玉類からみた続縄文文化の特質」北海道考古学35  
2013 『墓の社会的機能の考古学』同成社
- 内山幸子  
2004 「第3章 動物利用からみる続縄文時代の種屯内遺跡（「利尻島種屯内遺跡の考古学調査」所収）」歴史人類32
- 宇田川洋  
2001 「烏居龍蔵・千島アイヌ・考古学」『近代日本の他者像と自画像』柏書房
- 大坂拓  
2010 「千島列島中部出土続縄文・オホーツク土器の新資料」『千島列島先史文化の考古学的研究』東京大学常呂実習施設研究報告7
- 金子浩昌  
1999 「釧路市幣舞遺跡出土の動物遺存体 -1997, 1998年度-」『釧路市幣舞遺跡調査報告書IV』釧路市埋蔵文化財調査センター
- 北見市とところ遺跡の森編  
2023 『国指定重要文化財 北海道常呂川河口遺跡墓坑出土品図録』北見市とところ遺跡の森
- 熊木俊朗  
2019 「第一編第四章 続縄文時代」『新北見市史 上巻』北見市  
2023 「北海道東北部続縄文文化の集落と墓」『北海道

- 考古学会2023年度研究大会資料集「続縄文文化研究の今」北海道考古学会  
グリシェンコ V. A. (福田正宏訳)  
2015 「続縄文文化の一部としての北サハリンのカシカレバグシ文化」『日本列島北辺域における新石器／縄文化のプロセスに関する考古学的研究』東京大学大学院新領域創成科学研究科社会文化環境学専攻・人文社会研究科附属北海文化研究常呂実習施設
- 鈴木信  
2021 『北海道続縄文文化の変容と展開』同成社
- 高瀬克範  
2022 『続縄文文化の資源利用』吉川弘文館  
2023 「千島列島のオホーツク文化」『2023年度地域の文化財普及啓発フォーラム 北海道の古代集落遺跡IV』北海道文化遺産活用活性化実行委員会
- 武田修  
2004 「北海道縄文晩期・続縄文墓壇の一様相」『アイヌ文化の成立』北海道出版企画センター  
2006 『常呂遺跡群』同成社
- 手塚薫  
2010 「千島列島における先史文化の適応と資源獲得・流通の検討」『北海学園大学人文論集』46
- 中村雄紀  
2021 「常呂川河口遺跡の土坑墓と出土遺物について(1)」北見博物館研究報告2  
2022 「常呂川河口遺跡の土坑墓と出土遺物について(2)」北見博物館研究報告3
- 新岡武彦・宇田川洋  
1992 『サハリン南部の考古資料』北海道出版企画センター
- 新美倫子  
2002 「常呂川河口遺跡（続縄文期～擦文期）の動物遺体」『常呂川河口遺跡(3)』常呂町教育委員会
- 西本豊弘  
1988 「谷田遺跡出土動物遺存体」『谷田遺跡発掘調査報告書』斜里町教育委員会
- 西本豊弘編  
2000 『[特定研究] アイヌ文化の成立過程について 浜中2遺跡発掘調査報告』国立歴史民俗博物館研究報告第85集
- 福田正宏  
2007 『極東ロシアの先史文化と北海道』北海道出版企画センター  
2015 「完新世日本列島北辺域における温帯性定着民の寒冷地適応史」『北海道考古学会2015年度研究大会資料集「サハリン・千島ルート」再考』北海道考古学会
- 松田功  
1999 「知床半島の遺跡」『知床博物館開館20周年記念フォーラム しゅり歴史再考 報告集』斜里町立知床博物館
- 米田穰  
2004 「第5章 種屯内貝塚出土人骨の同位体分析の結果について（「利尻島種屯内遺跡の考古学調査」所収）」歴史人類32
- ワシレフスキー A. A. (木村英明訳)  
1992 「サハリン島の新石器文化」北海道考古学28
- Fitzhugh, Ben, Erik W. Gjesfeld, William A. Brown, Mark J. Hudson, and Jennie D. Shaw  
2016 Resilience and the population history of the

Kuril Islands, Northwest Pacific : A study in complex human ecodynamics. Quaternary International 419 : 165-193.

Василевский, А. А., Грищенко В. А.

2012 Сахалин и Курильских острова в эпоху палеометала. Ученые записки Сахалинского государственного университета, 9 : 29-41.

Федорчук В. Д.

1998. Керамика поселений с раковинными кучами северного побережья залива Терпения. Вестник Сахалинского музея, 5 : 143-162. Ю ж н о-С а х а л и н с к : Сахалинский областной краеведческий музей.

Шевкомуд, И. Я.

2002 Поселение Большая Бухта-1 и некоторые проблемы культур Нижнего Амура и Сахалина. Записки Гродековского музея, 3 : 37-52. Хабаровск : Хабаровский краев. краеведческий музей им. Н. И. Гродекова.

## 8 企画展示要旨

### (1) 北海道・北東北の縄文遺跡群2 ーすすめ！ 縄文ワールドー展

#### ア、展示の目的

本企画展示の目的はIV章1節2項で上述したように「世界文化遺産に登録された北海道・北東北の縄文遺跡群の土地利用や集落の変遷、精神文化を体感的に展示し、世界遺産や縄文文化への関心を高め、理解を深めることを目的とする」とした。

「北海道・北東北の縄文遺跡群」（以下、縄文遺跡群）は令和3年7月にユネスコの世界遺産リストに登録されたが、コロナ禍の最中であったことから登録を祝い周知するセレモニー・イベントなどが自粛されたほか、現地への来訪自体も自粛せざるを得ない状況となった。一般の人々が最も関心を寄せ情報を求める時期に、十分な周知の機会を得ることができない不幸に見舞われた。そのため、縄文遺跡群は何が評価されて世界遺産となったのか、日本列島の縄文の遺跡のなかで北海道・北東北だけが何故選ばれたのかなど、縄文遺跡群の「価値」については多くの人々が不明瞭な認識のまま「世界遺産となった」ことだけが広く知られたと考えられる。また、縄文遺跡群の価値を明確に広く伝達するに当たっては、顕著な普遍的価値（OUV）、真実性（オーセンティシティ）、完全性（インテグリティ）、シリアル・プロパティなど一般には馴染みが薄い世界遺産特有の用語が、世界遺産の理解を難しくしている印象がある。

こうした状況を踏まえ、本企画展示では「世界遺産とはなにか?」、「北海道・北東北の縄文遺跡群の価値とはなにか?」を、子供にも興味を持って理解して貰える様、分かりやすく伝えることを目標・目的とした。具体的にはOUVを示す縄文遺跡群4つの属性に沿って、①自然を巧く利用した生活の様子、②豊かな心の文化の様子、③移り変わる気候に適応したムラの変化の様子、④くらす場所に合わせた生活の工夫の様子を、重点的に伝えることとした。さらに展示全体を通して、これらの価値が17構成資産全体で物語るものであること（シリアル・プロパティであること）を示した。また世界遺産をきっかけとし、道内の他の埋蔵文化財へのアクセスを促すこともテーマの一つとした。

#### イ、展示の特徴

本企画展では見学者（主に小・中学生）に興味

を持って分かりやすく理解してもらうために、ロールプレイングゲーム（RPG）の世界観を取り入れた展示とした。また理解促進のため下記ア）～エ）を行った。

#### ア）時代区分

本企画展示では、日本考古学で提唱された時代区分（縄文時代草創期・早期・前期・後期・晩期までの土器型式を基準とした6期区分）を用いず、世界遺産登録推薦書で提示された「集落展開及び精神文化に関する6つのステージ」（以下、「定住の6ステージ」）で時期を表した。縄文時代の6期区分に馴染んだ見学者にとって「定住の6ステージ」による時期表示は却って分かりづらくなる懸念もあったが、「ステージ」の用語を理解して貰うこと、各ステージで展開される環境・生業・集落・精神性を分かりやすくひとつの世界観として再提示することを本展示の試みのひとつとした。

#### イ）展示の工夫

定住の6ステージごとに展示コーナーを分け、各時代の特徴（環境・生業・集落・精神性）と時代を通しての変化を見えやすくした。また下記①～⑦の工夫を加えた。

- ①氷期・温暖期・寒冷期の気候変動は、「ヒョウガキー」、「オندانカー」などの気候を司る神様の移り変わりで表現した（図1）。
- ②各展示コーナーの冒頭で、ステージの特徴をワンフレーズでタイトルの示し、さらにキーワードとなる事項を箇条書きで示した。
- ③時期ごとの特徴的な遺物を「獲得アイテム」と呼び、展示資料とイラストパネルで紹介した（図2）。
- ④縄文の自然利用と精神文化の様子を具体的にイメージし共有できる様、絵本基調の解説パネル



▲図1 気候を司る縄文の神



▲図2 獲得アイテム（登場した特徴的な遺構や遺物）



▲写真2 集落モデルジオラマ

### ウ) 製作ジオラマ

上記イ) -⑤では、1万年数千年間のなかで集落施設が充実し精神文化と共に発展・成熟していく様子を体感的に理解して貰うため、定住の6ステージの集落モデルジオラマを、ステージごとに作成した。ステージモデルジオラマにはミニチュアの土器・石器・装身具・土製品・土偶などを忍ばせ、良く観察すると色々な気づきが得られ楽しめる工夫を施した(写真2)。

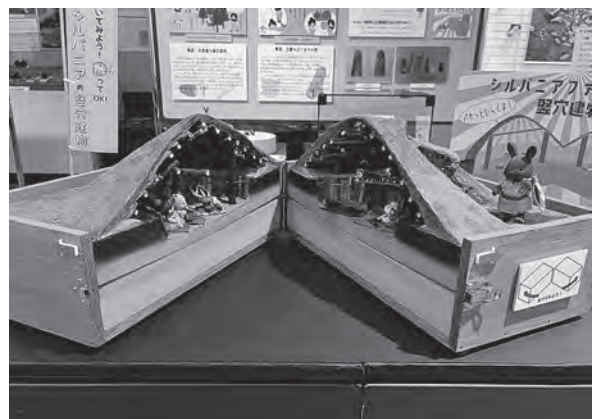
また、このほかジオラマ展示の目玉として中央から左右に開閉する「パカッとひらく！ 竪穴建物」を製作した。縄文遺跡群は「農耕開始以前の狩猟採集のくらしで実現した1万年以上に亘る定住の発展と成熟」が価値として評価されたが、その定住を支えた要素として竪穴建物が重要であるため、構造などを体感的に楽しく理解して貰う目的で製作した。竪穴建物のモデルは構成資産御所野遺跡のFE48-01住居で、現地で復元竪穴建物が立体表示され、その設計図が環境整備事業報告



▲写真1 解説絵本の配布

を作成し、パネル内容は展示解説絵本に作製し直して無料配布した(写真1)。

- ⑤見て分かる展示を目指しジオラマを多く製作した。
- ⑥展示ナビゲーターのキャラクター「ごてんやまちゃん」、「じよもんおばあ」を登場させ、縄文と現代の目線を交えた解説を加えた。
- ⑦展示資料の観察を促すためワークシートを用意した。



▲写真3 パカッと開く！竪穴建物

書に掲載されていることから、これを参考に20分の1スケールで製作した。上屋は6本柱で樹皮葺きの上に土を被せた土屋根とし、石組み炉で壁に土留め板が巡り、吊り棚を設けた構造とした。また内部には石皿・すり石、土器、干し鮭、縄文人なども配置した。最大の特徴は中央から左右に開き内部構造を観察できることで、見学者が自由に触れて動かし間近で内部を見る、発見的で体感的な展示につながるジオラマとなっている（写真3）。

### エ) 展示資料

展示遺物は北海道・北東北の構成資産が分布する北海道南西部（石狩低地帯以西）のものに限定した。但し、展示資料は構成資産出土品に限定せず、積極的に当該地域の他遺跡の資料を選択した。その理由は、①同時期には構成資産以外の遺跡も並存し相互に関連して地域社会を形成していたこと、②OUVで説明される生業や精神性を示す遺物などの要素は周辺の他の遺跡に於いても同様に認められること、を理解して貫うためであり、世界遺産以外の地域文化財に目を向けるきっかけとする狙いがある。

### ウ、展示の内容

展示は前半が世界遺産と縄文遺跡群の概要を解説する2つのコーナー、後半が縄文遺跡群の価値をステージごとに紹介する7つのコーナーに分けられる。前半はパネル展示のほか、世界遺産と北海道の縄文の解説やPRを目的とした配布物を配置した。後半ではパネル展示、資料展示、ジオラマ展示を展開した。展示資料個体数は214点（借用資料171点）に及んだ。展示資料の借用にあたっては10か所の道内所蔵機関（北海道教育委員会、江差町教育委員会、恵庭市郷土資料館、木古内町教育委員会、伊達市教育委員会、千歳市教育委員会、洞爺湖町教育委員会、森町教育委員会、八雲町教育委員会、余市町教育委員会）、写真資料の借用については5か所（恵庭市教育委員会、帯広市教育委員会、市立函館博物館、釧路市教育委員会、伊達市教育委員会）の道内所蔵機関、個人では写真家の佐藤雅彦氏の協力を得ることができた。

展示開催期間は7月8日（土）～9月24日（日）の67日間で、催期間中の来場者数は2,423名であった。以下、各コーナー展示の詳細について記述していく。

### エ、「はじまりの章 世界遺産とは」の展示

「世界遺産とは何か？」を分かりやすく噛み砕き伝えるコーナーとし、世界遺産は「地球のなりたちと人類の歴史によって生み出されたもの」、「未来へ引き継いでいくべき人類みんなの「宝物」」と表現した。また「世界遺産の目的」は、人類全体にとって価値のある宝物を破壊から守るために国際的な協力体制をつくること、とした。「世界遺産の種類」では、文化遺産、自然遺産、複合遺産の3つがあることを紹介し、各種類に該当する国内の遺産を簡単に紹介した（複合資産は該当なし）。

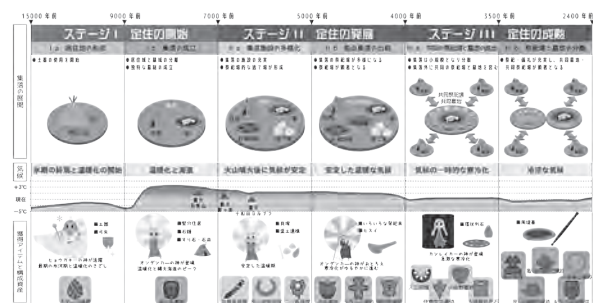
「世界遺産になるためには」では、登録には「顕著な普遍的価値」、「真正性」、「完全性」、「将来に亘り遺産を守る仕組みと体制」の4つの条件を満たす必要があることを示した。世界遺産用語である「真正性」はオリジナルの状態を保っていること、「完全性」は価値を説明するために必要なものが全て遺っていること、と解説した。

「顕著な普遍的価値とは」では、「世界中の国や地域を越えて、さまざまな信仰をもつ人、現在だけでなく未来の人が、同じように「大切」と考えることができる価値のこと」とした。また「顕著で普遍的な価値」であることの判断には10の評価基準があり、ひとつ以上が当てはまる必要があることを紹介した。さらに「世界遺産の意義」は、世界中の文化と自然を全ての人が知り、尊敬し、認め合うことで、世界平和に役立てること、と解説した。

### オ、「世界遺産になった！北海道・北東北の縄文遺跡群」の展示

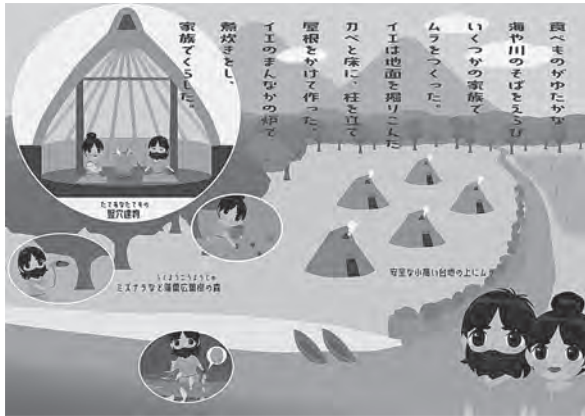
「北海道・北東北の縄文遺跡群」の顕著な普遍的価値（OUV）の概要、シリアル・プロパティであること、定住の6ステージ（集落の発展の流れ）を紹介する展示とした。

縄文遺跡群のOUVは、下記ふたつの「すご



▲図3 定住の6つのステージ





▲図5 ステージIb 絵パネル



▲写真5 ステージIb 展示資料

ことを展示のストーリーにした（図6）。温暖化は「オンダンカー」の神が支配する世界とし、石錘と竪穴建物をステージIbの獲得アイテムとした。当該ステージの特徴は、①縄文のもっとも暖かい時期で縄文海進がおこり落葉広葉樹林帯がひろがる、②海と森の資源を積極的にとるためにくらしの道具が発達する、③定住が定着し住む場所とお墓を分ける、の3つを挙げた。

本ステージでは遺跡の立地と集落の構成について絵パネルを作成したほか（図5）、足形付き土版の特徴には親子愛の精神性が窺えることを詳しく紹介した。同時期の著名な道内遺跡は帯広市八千代A遺跡を紹介した。

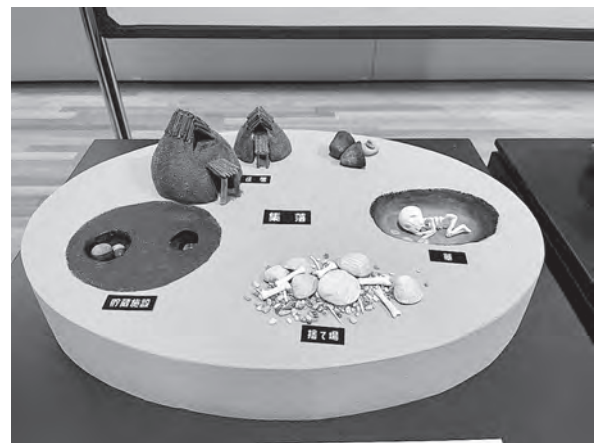
展示資料は千歳市美々7遺跡出土品で、森林資源や海洋資源の利用を示す道具類として石鏃・つまみ付きナイフ・篋状石器・石斧・石錘・すり石の石器のセット、精神性を示すものとして足形付き土版を展示した（写真5）。



▲図6 獲得アイテム

#### ウ)「ステージIIa ムラに貝塚が登場！」

ステージIIaはおよそ7000年前～5000年前を時期範囲とし、「安定した温暖な気候のなか貝塚や貯蔵穴などの施設が充実し、特に貝塚は神聖な空間であった」ことを展示のストーリーにした。前ステージから「オンダンカー」の神が支配する温暖な気候が続くなか、北海道のクリの受容や、貝塚で祭祀儀礼が行われたことを解説し、貝塚と北海道式石冠・石皿をステージIIaの獲得アイテム



▲写真6 ステージIIa 集落モデルジオラマ



▲図7 ステージⅡa 絵パネル



▲図8 ステージⅡb 絵パネル



▲写真7 ステージⅡb 展示

ムとした。また当該ステージの特徴は、①少しずつ変わる気候と自然に合わせムラの位置や食べるものを変えた、②捨て場や貯蔵穴などムラで長く安定してくらすための施設が充実、③貝塚など神聖な送り場がつけられた、の3つを挙げた。

本ステージでは貝層の変化から見る緩やかな気候環境の変化と適応の様子を主に北黄金貝塚の調査成果を基に紹介したほか(図7)、縄文海進時の海岸線の変化を図パネルで示した。また同時期の著名な道内遺跡は千歳市美々貝塚と釧路市東釧路貝塚を紹介した。

展示資料は伊達市北黄金貝塚出土資料を借用し、植物利用を示す石皿・北海道式石冠、海産資源利用を示す銚頭・ヤス・ヘラの骨角器と、貝・魚骨・海獣骨を豊富に展示した。また精神性を示す遺物として千歳市キウス5遺跡と美々5遺跡出土の珞状耳飾を展示した。

エ)「ステージⅡb 大拠点ムラあらわる！」

ステージⅡbはおおよそ5000年前～4000年前を

時期範囲とし、「緩やかに冷涼化が進むなか人びとは施設が充実した大きなムラをつくり、盛土遺構などで盛んに祭祀を行い儀礼の道具も充実した」ことを展示のストーリーにした。気候は「オランダカー」の神が衰えつつも安定した気候が続いたとし、精神文化に関わる祭祀具と盛土遺構を獲得アイテムとした。当該ステージの特徴は、①クリ木の育成などムラのまわりに「縄文里山」がつけられる、②多様な施設がそろった大きな拠点集落が現われる、③貝塚のほかに盛土遺構や配石遺構などの祭祀場と石棒などの祭祀具が発展する、の3つを挙げた。

本ステージではクリの盛んな利用、石棒・土偶・青靑刀形石器などの祭祀具の充実、アスファルト・ヒスイ・コハク・アオトラ石(緑色岩)などの希少品の広域流通を時代特徴として解説した。また同時期の著名な道内遺跡として函館市垣ノ島遺跡、岩内町岩内東山遺跡を紹介した。

資料は精神文化を示す遺物として、石棒(江差町茂尻C遺跡)、土偶(八雲町栄浜1遺跡、北斗市館野2遺跡)、岩偶(館野2遺跡、千歳市梅川4遺跡)、青靑刀形石器(栄浜1遺跡)、シャチ形土製品(館野2遺跡)、石冠様石器(森町倉知川右岸遺跡)、ヒスイ大珠(栄浜1遺跡)、くらしの道具として、刃部に使用痕の光沢をもつスクレイパー(八雲町野田生4遺跡)、銚頭・北海道式石冠(余市町フゴッペ貝塚)のほか、木古内町幸連5遺跡出土の土坑出土炭化クリ子葉を展示した。精神文化を示す遺物を多く展示し、祭祀儀礼が充実した様子を演出した。

オ)「ステージⅢa ちいさなムラとストーンサークル」

ステージⅢaはおおよそ4000年前～3500年前を

時期範囲とし、「急激な寒冷化により自然環境には堅果類の不作など大きな変化が生じた。人々は資源管理のため集落を分散させて適応し、また地域社会を保つためストーンサークルなどの記念物を共同で造成・管理して結束を高めた」ことを展示のストーリーにした。気候は邪神「カンレイカー」の登場によってきびしい自然環境となり、集落の形態にも影響が及んだとした。獲得アイテムにはストーンサークル（環状列石）と、ステージⅢa以後に全国的に流通が急増した貝輪を取り上げた。当該ステージの特徴は、①一時的な寒冷化による自然の変化に影響され小さなムラに分かれた、②新たに丘陵や山地を利用しはじめた、③ムラが共同で大がかりな祭祀場や墓地を営み地域の結束を強めた、の3つを挙げた。

本ステージでは、入江貝塚での小集落の形成と寒冷化に伴う動物資源の積極的な利用の様子（図9）、筋萎縮症の罹患者を長年に亘って手厚く介護した縄文社会の福祉の様子を解説した。また入江貝塚の、自然環境の変化や資源の減少に合わせ



▲写真7 ステージⅢa 集落モデルジオラマ



▲図9 ステージⅢa 絵パネル

て暮らし方を変えた様子や、すべての人が治療を受け誰一人取り残さない様子は、現代社会が目指すSDGsの考え方に通じるものとして扱った。

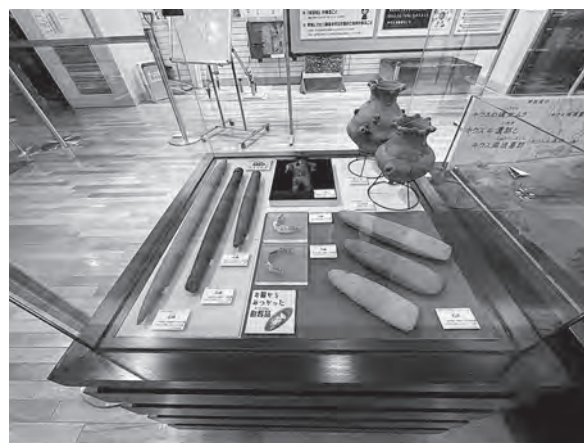
資料は、精神文化を示すものとして手形・足形付き土版（余市町入舟遺跡）、鐸形土製品・土偶（北斗市館野遺跡）、貝輪・貝平玉（洞爺湖町入江貝塚）を、くらしの道具として銚頭・ヤス・釣針・針（入江貝塚）、アスファルト付石鏃（森町石倉1遺跡）、アスファルト塊（八雲町野田生1遺跡）を展示したほか、入江貝塚出土のシカとオットセイの動物骨も並べ、動物利用の様子を伝えた。

### カ)「ステージⅢb お墓って大事だよね！」

ステージⅢbはおよそ3500年前～2400年前を時期範囲とし、「冷涼な気候のなか、ムラ同士で営む共同墓地が盛んとなり、共通の祖先を祀ることで仲間意識を高めた」ことを展示のストーリーにした。特に北海道では独特の墓制である周堤墓が発生したことを示し、獲得アイテムは周堤墓と漆塗櫛とした。漆塗櫛はステージⅢbに入り北海道で大型品が急増した特徴的な遺物である。当該ステージの特徴は、①寒冷な気候のもと小さなムラでのくらしが続く、②ムラ同士の結束を強めるため共通のご先祖を祀る共同墓地が発展、③北海道では独自に発展した共同墓地「周堤墓」が登場、の3つを挙げた。

本ステージでは細型石棒・石刀・土偶などの祭祀具が発達した様子や、連珠・漆塗櫛の装身具を紹介したほか、千歳市美々4遺跡の墓域でみられた多様な墓制の様子、キウス周堤墓群に近接するキウス4遺跡のくらしの様子を解説した。

資料は、ヒスイ玉・土製耳飾・連珠・石棒・石斧・土偶・注口土器（千歳市美々4遺跡）、漆塗



▲写真9 ステージⅢb 展示資料



▲写真10 ステージⅢb キウスムラジオラマ

櫛（恵庭市西島松5遺跡）、土偶・石刀（木古内町札苅遺跡、新道4遺跡）、貝輪（苫小牧市美沢1遺跡）を展示した。石刀と耳飾以外は墓の副葬品であり、精神文化を表す遺物を主体にした（写真9）。また常設展示していたキウス4遺跡の周堤墓を伴う集落のジオラマを、当該期の様子を表すものとして展示した（写真10）。

#### キ) ワークシートの活用

本企画展では展示への興味・関心を高め、よく観察し、考える、を促すため、3種類のワークシート「すすめ！縄文クエスト」を用意した（写真11）。コースAは「さがせ！縄文ふしぎ道具！」で、縄文の道具に関する問題（名前・使い方・特徴など）を、展示を巡り資料を探して解いていくワークシートである。コースBは「お墓のなかみはなんだろう？」で、シートに描かれたじよもんおぼあが眠るお墓の中に、展示で見つけた副葬品や自分の入れたい副葬品を描き込むワークシートであ



▲写真11 選べる3種類のワークシート

る。コースCは「キミだけの縄文ムラ！」で、展示を巡って獲得した縄文の施設や道具などのシールを、シートに描かれた集落の空間に自由に貼り付けて自分だけの縄文ムラを作る、シールラリーを融合したワークシートである。ワークシートは開催から2週間ほど遅れて開始したが、ワークシート導入により子供たちの見学時間が圧倒的に伸び会話が増えたことから、観察し考える効果につながったと実感できた。

#### エ、課題

本企画展については以下の点が反省点であり、次回展示への課題と考える。

■世界史の中の縄文遺跡群の位置付けが欠落していた。

縄文遺跡群は、農耕開始以前の狩猟採集段階で長期間安定的に定住を実現していたことが世界遺産として評価された重要なポイントであり、世界史の中でも稀有なものであることを特に分かりやすく示す必要があった。

■シリアル・プロパティであることの具体的な説明に欠けていた。

17の構成資産でOUVを示していることは簡略に示したものの、資産同士の関連性やつながりについて語られていなかった。

しかし今回の企画展示では、一般の多くの人が漠然としかイメージを持っていなかった「世界遺産の縄文遺跡群の価値」を分かりやすく展示する目的を、ある程度達成できたと自負している。今回作成したパネルとジオラマについては複数の機関・施設から貸出しの依頼を受けており、道立埋蔵文化財センターの企画展が終了した後も引き続き世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」の普及啓発に役立てていただけることに、大きな喜びを感じている。

#### 【引用参考文献】

青野友哉

2014 『北の自然を生きた縄文人 北黄金貝塚』シリーズ遺跡を学ぶ097 新泉社

御所野縄文博物館・御所野遺跡植生復元整備指導委員会  
2010 『御所野遺跡植生復元整備計画書-縄文里山づくり事業-』

札幌医科大学解剖学第二講座

1987 『高砂貝塚』噴火湾沿岸貝塚遺跡調査報告2

伊達市噴火湾文化研究所

2013 『KITAKOGANE』

千歳市教育委員会

2019 『史跡キウス周堤墓群総括報告書』

洞爺湖町教育委員会

- 2007 『入江・高砂貝塚』洞爺湖町文化財調査報告第2集  
洞爺湖町教育委員会
- 2013 『平成24年度国指定史跡入江・高砂貝塚』洞爺湖町文化財調査報告第8集
- 日本国
- 2020 『Jomon Prehistoric Sites in Northern Japan (北海道・北東北の縄文遺跡群)』世界遺産登録推薦書
- 根岸 洋
- 2022 『縄文と世界遺産-人類史における普遍的価値を問う-』ちくま新書
- 八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館
- 2021 『世界遺産北海道・北東北の縄文遺跡群 是川石器時代遺跡』
- 北海道活用推進実行委員会
- 2023 『調査研究報告書 北海道における世界文化遺産のインタープリテーションに関する調査研究 2022年度世界文化遺産インタープリテーション調査研究委託業務』公益財団法人北海道埋蔵文化財センター
- 北海道環境生活部文化局文化振興課縄文世界遺産推進室
- 2022 『世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」北海道のガイド教本』
- 北海道考古学会
- 2022 『北海道の縄文世界遺産と考古学』北海道考古学会2022年度研究大会資料集

---

## 北海道立埋蔵文化財センター年報25

令和5（2023）年度

---

2024年6月28日発行

編集：公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター

発行：北海道立埋蔵文化財センター

〒069-0832 北海道江別市西野幌685-1

Tel：(011)386-3231 Fax：(011)386-3238

E-mail：mail@domaibun.or.jp

URL <http://www.domaibun.or.jp/>

印刷：社会福祉法人 北海道リハビリ

---

